社団法人
桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町２－９－36　社団法人 桐生倶楽部　ＴＥＬ ４５－２７５５

傘寿の館 ⑬　一代の自由人

「物事の分かりが早いほうだから綿密な説明を聞くのが大嫌いであった。だが、この性格は絶対に満点がとれない」と、前原勝樹は自著『わたしの履歴書』に書いている。昭和53年に桐生倶楽部理事長となり、自分の告別式に配りたいと、その３年後にまとめあげた本だ。「人の世話になれば自分を曲げなければならぬ」と、明治の気骨と高まいな文化的見識に殉じた一代の自由人は、平成３年９月３日、87歳の生涯を閉じた。

天満宮の森に育ち、初代桐生市長を父に持つ前原は、京都帝国大学の医学部を卒業した医博。結核治療研究に明け暮れた若き日の様子が、この一代記では軽妙な文章でつづられている。

当時、不治の病と恐れられた結核は、菌の存在が分かっていながら、治療の分野では空白の時代が続いていた。「まちには患者があふれているのに、医者の診断といえば、せいぜい死ぬ順番を当てるぐらいのものだった」と痛烈だ。医者にとっては島流し同然の結核病棟、だが「こんなところが私にとっては安住の地なのである」と、反骨の人生哲学をにじませている。とはいえ、生活困窮者たちの結核救済には心血を注ぎ、「前原先生は大恩人でした」という声は、その死後に数多く寄せられた。しかし、そういうことにはいっさいふれないあたりが、いかにもこの人らしい。ヒューマニズムの大道を歩む自信が、おそらく、そうさせていたのだろう。

戦後、桐生ユネスコ協会創立に参加、晩年はずっとその会長をつとめ、県連会長、日本ユネスコ協会副会長、同国内委員などを歴任した。また桐生ロータリークラブ創立会員で、同クラブ会長や地区ガバナーを経て国際ロータリー会長代理にも就任した。桐生倶楽部では、昭和29年から理事に名を連ね、62年理事長退任まで運営にたずさわっている。

博覧強記、独自の美学で油絵や三味線、俳句などに造形が深く、とくに文筆をよくした。『わたしの履歴書』のほか『うろ覚え・明治大正』『ロータリー入門』『人体名所案内』。絶筆となった『人体名所案内』は、本業の医師の立場で学殖を傾けた内容ながら、ユーモアにあふれ、また『うろ覚え・明治大正』は、まちの生活の描写が細かく、異色の郷土資料と言えるだろう。年とともに頭脳が若返り、常識破りの発想で桐生の文化活動振興に貢献した。

＝倶楽部だより＝

◎８月
理事会（11日）
歩く会世話人会（12日）
桐生倶楽部はぐるま句会（28日）

◎９月
歩く会兼月次会（７日）柏崎文化探訪
理事会（12日）
桐生倶楽部はぐるま句会（22日）

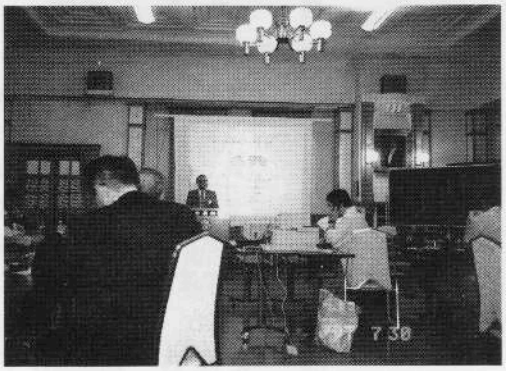
石井省三さんが自治大臣表彰

社員の石井省三さんが、８月26日監査事務功労者として自治大臣表彰を受けました。

石井さんは長年、市監査委員として精励、そのご功績が認められたものです。倶楽部社員一同心からお祝い申し上げます。

月次会報告　【７月】

「ＯＣＮサービスとは」



７月の月次会は30日午後６時から２階広間でインターネットの勉強会を開きました。ＮＴＴのＯＣＮ（オープン・コンピューター・ネットワーク）の仕組みとその活用方法についてＮＴＴ桐生営業所神崎義明所長をアドバイザーに招き、桐生広域ネットワーク協の塩崎、坪井、川村お三方の協力をいただいてナマの体験をしました。

会場に大型プロジェクターを持ち込み、実際に藤沢市のホームページを呼び出したり、米国のＮＡＳＡに接続して火星探査の記録を瞬時にスクリーンに再現してみせるなどのほか、塩崎氏が米国旅行に当たって旅行社を通さずに直接ホテル、レストラン等の予約をすませた実績も披露されました。Ｅメール等を超えた多彩な運用のかずかずに触れて、豊かな将来性を予感させられた月次会でした。当夜の出席者30名。

月次会報告　【９月】

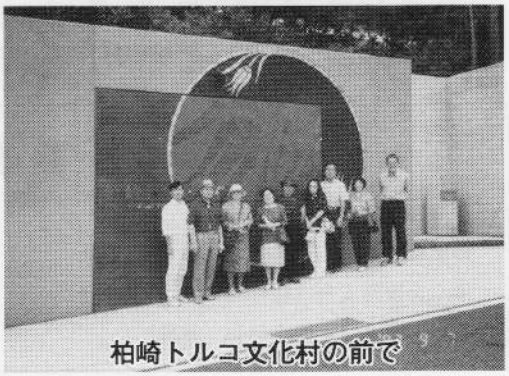
当月は歩く会との共催で新潟県柏崎市へ足をのばしました。ここは原子力発電の見返り施設としての文化展示館や異国情緒たっぷりのテーマパーク（トルコ文化村）等、見どころいっぱいで味わい深いコースとなりました。

午前６時大型バス１台で出発。トルコ文化村には９時半に到着。そのあと日本海鮮魚センターで新鮮・格安な海の幸をどっさり仕込んでから、藍民芸館、痴娯の家、黒船館、石黒敬七のとんちんかん館をめぐって午後７時無事帰桐しました。

スナップの幾つかを紹介します。

参加者全員の記念写真。
珍しや理事長夫妻の姿も。

気分はオスマントルコの王様
木島理事



柏崎トルコ文化村の前で

[redacted]

＝ 新入社員紹介 ＝

[redacted]

[redacted]

桐生倶楽部はぐるま句会（七月）

夕焼の山に抱かれし機の町　久保田

大夕焼兵の歌ひし望郷歌　本田

カラオケのリズムとりつつ白い靴　尾澤

宍道湖の大夕焼に旅果つる　小池

箱庭に水車を廻す苦心作　清水

箱庭の釣師終日瀬音きく　大槻

桐生倶楽部はぐるま句会（八月）

星月夜針路は昴（すばる）操舵室　本田

嫁に説く家の系譜や盂蘭盆会　尾澤

野の花は枯れやすきもの盆の棚　小池

まま事を知らず育ちぬ赤のまま　久保田

野佛の裾をめぐりて赤まんま　清水

遠雷を聴きて蝋鳴きはじむ　大槻

霊棚（たまだな）の奥の笑顔やひる静か　吉成

見覚えの人影追ひし星月夜　森

社団法人　桐生倶楽部会報　第101号
１９９７年（平成９年）　10月発行

平成9年12月10日　1997.　第102号　(1)

桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36　社団法人 桐生倶楽部　TEL 45-2755

◎素顔の時間

私たちの活動は発想の出発点だ

星野精助

ほしの・せいすけ　大正四年生まれ。星野物産株式会社代表取締役会長。会長の執務姿は、社員から見える距離にある。「年功には禄を、能力には職を」と、時代の転換期では、つねに若い力に信頼を寄せてきた。その経験から「二十一世紀は大丈夫、後輩はきっとしっかりやってくれます」。

桐生倶楽部の果たすべき役割は、大きく二つあると思っています。一つはこの伝統ある会館の建物に象徴されるように、守っていかなければならないもの。そしてもう一つは、つねに発想の出発点であったという誇りです。どちらも大切なものですが、維持することだけに汲々として、その誇りを忘れてはならない。発想とは、時代を読み、変えるべきものに臆さず、です。結論は急がずとも、論議することが大切ではないでしょうか。

10月月次会

「生ける宝石」擬態植物

講師　島田保彦氏

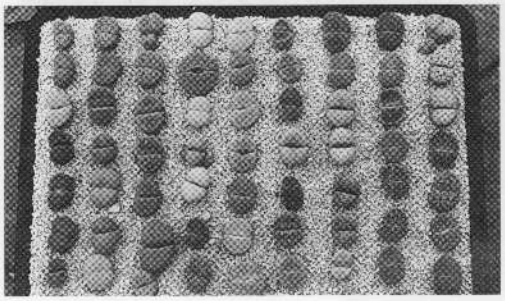
10月月次回は28日午後6時から倶楽部2階のホールで開催。出席者30名。

講師の島田保彦氏は堤町在住の植物研究者。標題の擬態植物（リトープス）の研究では海外でよく知られ保有する標本植物は日本一はもちろんのこと原産地の南アの研究家達からも世界有数と評価されている。

当夜は島田氏が昨年7月から約2か月にわたって南アフリカ、ナミビアの砂漠に擬態植物を求めて観察調査行した土産話をおききしようというもので、スライドを駆使しての内容は興味の尽きないものだった。

旅の目的である「擬態植物」という聞き慣れない言葉の語義について島田氏は「動物でいえば『カメレオン』昆虫で言うなら『木の葉虫』。周囲の環境に自体を似せて擬態をして動物の食害から身を守っているが、植物にも同様に擬態をして身を守っているもの」と説明している。

この植物は南アフリカとナミビア、そしてボツワナの一部のカラハリ砂漠に原産し、他の植物が生活できないような極度に乾燥した苛酷な環境の中で自生している。動物に見つかると食われてしまうから回りの小石や砂利に擬態している。これらの小石類は石英やジャスパーなど、ジェムストーンと呼ばれる美しいもので、研磨すると装身具として用いられる貴石。だからこれらに擬している植物は大変に美しく“生ける宝石”とか“フラワーストーン”と呼ばれている。学名はLithopsといいギリシャ語のLithos（石の意）とops（顔の意）の複合語。自生地の小石によく似ているところからつけられた名前だという。（写真参照）

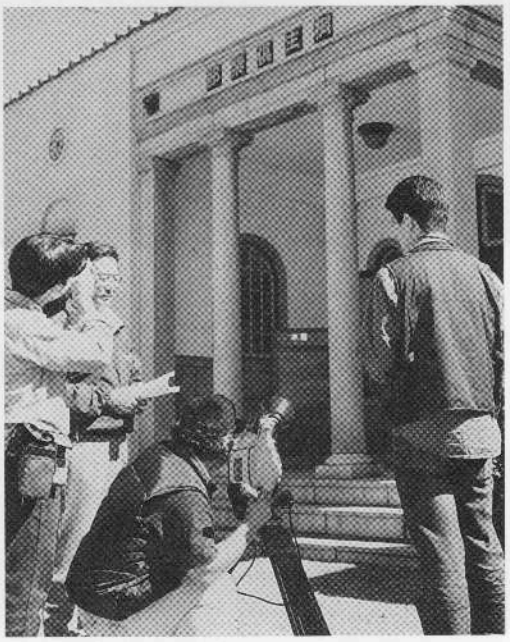


話は南ア・ナミビア共和国の歴史、社会、風土などにも及び、アパルトヘイトの廃止で暴動は収まったものの、おさえのきかなくなった分、治安が極度に悪化して生々しい緊迫する場面や、1日の走行距離が平均して300キロ、時には1,000キロを超え登った岩山40余り、という苛酷な調査の実態も披露された。

倶楽部建物が映画に

桐生倶楽部の建物が昨年、登録文化財第1号に指定されたが、県教委は記録保存の目的で10月15日取材に来桐、建物の内外を撮影した。

スタッフは県教委の委託をうけた中日映画社の梶川プロデューサーら一行4名。午前11時から約2時間かけて前景、庭園、ホールなどに丹念にライトを当てていた。撮影されたフィルムは県教委に保管されるが、来年4月頃にＶＴＲに再編集して群馬テレビから放映の予定。（当日の撮影風景）



尾澤弘一さん 秋の勲章受章

社員の小澤弘一さんが、勲五等瑞宝章を受賞しました。尾澤さんは、長年消防業務に精励。平成4年から8年までは桐生市消防団団長として、市内380人の団員をまとめました。倶楽部社員一同心からお祝いを申し上げます。

【歩く会】　10月例会
草津白根芳ヶ平

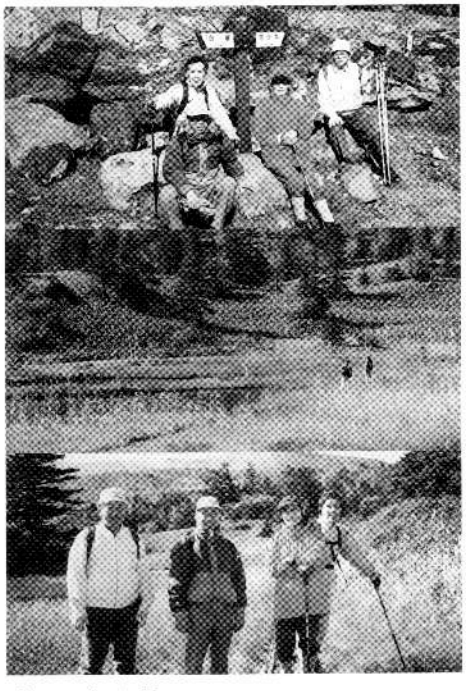
定刻の5時半になったのに集まったのは5人だけ、多少遅れて来る人を期待して待つが、結局殖えることなし。やや窮屈だが5人1台で20分遅れて出発。雲一つない快晴の絶好の紅葉狩りなのに何故参加者が少くなってしまったのだろう。

混むこともなく順調に草津路へ。吾妻渓谷は未だ全く紅葉せず、草津周辺で漸く赤・黄の色づきを見る。ロープウェイ山麓駅もののぐの池辺りは素晴らしい紅葉で、道端には三脚を立てたカメラマンが溢れていた。

白根レストハウスの駐車場に車を止めて車外に出ると予想以上に風が強く寒い。昨夜里に降った雨はここでは雪だったようだ。ありったけ着た冬支度で歩き出す。出発は遅れたがここでは殆んど予定通りの9時。ナナカマドの葉は落ち赤い実だけが残っている。今年の紅葉は早めの訪れらしい。遠く日光白根や皇海・袈裟丸の連山を見、正面に白砂の山群を紺碧の青空の下に見ながらゆるやかに下って行く。時間はたっぷりあるので、最大限に風景と楽しむ余裕もある。白根山の裏側に廻り込むようになると硫黄の臭気が鼻をつく。風が強いためか噴煙が上に登らず地上を這っているためか。白骨のような枯木のオブジェが点在している。石のごろごろした岩礫帯を少し下ると、遥か下に緑の針葉樹林に囲まれた草地が見えてくる。芳ヶ平湿原である。白いヒュッテが日本晴れした風景を現出している。この辺りの木々は名残りの紅葉の黒ずんだ赤を残している。霜柱が立ち淡雪も消えず、全く冬の気配である。芳ヶ平ヒュッテは既に無人となり期待のコーヒーにもありつけなかった。木道を通り湿原の核心部へ入って行く。風を避け乾いた日だまりの丘で11時の少し早めの昼食とする。渋峠から泥だらけで下って来た人、旗を先頭にした一団と賑かである。

食後、水のひたひたした湿原周遊路の木道へ入る。あれ程良かった天気が急変し、横なぐりの吹雪のような粉雪が舞い、周りの林も隠されてしまう。しかし気温はそんなに低くはないらしく、衣服に積ることなく落ちるので、雨より始末がよいかも知れない。時間はあるが止って休むわけにもゆかず、ゆっくり帰り道を辿る。白根山と廻り込むともう南の空には青空が覗き出していた。レストハウス辺は晴れているから雪の芳ヶ平へ続々下って来るのか、横手山から吹き下ろす雪は、この凹地ような谷の芳ヶ平だけ降っているのだろうか。車の音が聞こえ、最後の岩礫のだらだら登りにかかった時には空は朝の青空に戻っていた。

駐車場も朝の閑散と変り、人も車も溢れていた。一休みして混まないうちに早めに12時少し過ぎに帰路につく。それでも草津の町で渋滞して、往路は3時間足らずだったのに、帰路は4時間半もかかり5時桐生倶楽部に無事帰着。(藤井龍人 記)



【歩く会】　11月例会
ふるさとの山・鳴神山

鳴神山は、1年に1度は登りたいふるさとの山です。11月9日、川内から登り梅田へ下りるコースをゆっくり歩きました。すばらしい紅葉でした。

＝ 新入社員紹介 ＝

（敬称略）

[redacted]

お詫び

前号で新入会員として紹介しました中野隆雄さんのお名前が、間違って中里隆雄となってしまいました。申訳ありません。お詫びを申し上げ、訂正させていただきます。

「野間清治と少年倶楽部・講談社の絵本」展 桐生倶楽部後援

桐生が生んだ出版界の雄、野間清治は桐生倶楽部にも縁の深い人である。野間清治顕彰会（会長河原井源次氏）主催、講談社の協力によって標題の展示会が、11月21日から30日まで、郷土資料展示ホールで開催され、大きな反響をよんだ。桐生倶楽部も後援団体となり、社員に案内を申し上げ、塚越理事長がテープカットをされた。

桐生倶楽部はぐるま句会（九月）

漁火のたゆたふ沖の良夜かな　本田

酒の名のいはれなど聞く雨月かな　小池

蟷螂の何食わぬ顔腹ふくれ　久保田

澄み渡る勤行の声萩の寺　大槻

蟷螂の鎌研ぎてより動かざる　尾澤

石とさえ語り始めし良夜かな　森

家族皆揃いし卓の良夜かな　清水

桐生倶楽部はぐるま句会（十月）

無沙汰詫ぶ友の便りと千葉の甘藷　小池

木犀の香を敷きつめて雨上る　久保田

秋高し行方気ままな熱気球　本田

すすき野を見晴らす彼方月残る　大槻

新聞紙裂けて顔出す甘藷　森

家毎に金木犀の香る道　清水

薄紅葉峠に消ゆる気笛かな　尾澤

倶 楽 部 だ よ り

【10 月】

- 歩く会(12日)燃えるような紅葉の草津白根山
- 理事会(14日)
- 歩く会世話人会(20日)
- 月次会(28日)
- 桐生倶楽部はぐるま句会(29日)

【11 月】

- 行事委員会(5日)
- 歩く会(9日)鳴神山登山 川内から梅田
- 理事会(10日)
- 桐生倶楽部はぐるま句会(25日)
- 月次会(26日)ガーデニングのすすめ

社団法人　桐生倶楽部会報　第102号
１９９７年（平成９年）　12月発行

平成10年2月10日　1998.　第103号　(1)

桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36　社団法人 桐生倶楽部　TEL 45-2755

◎素顔の時間

会館の存在で際立つ文化性

大川 仁

おおかわ・ひとし　大正十三年生まれ。足利市小俣町、藍染の藍愛工房主宰。家業と桐生産地との関係は深く、子どものころの友達はみな桐生だった。昭和二十三年、倶楽部を会場に、父の司式、母の弾くウエディングマーチで結婚した。「私の住まいは桐生と足利の間」。足利と桐生の間ではない、という。

私の父親は、時間があれば倶楽部に顔を出し、さまざまな人たちといろんな論議をしたようです。若い世代の声にじっと耳を傾けてくれる人がいた、ということです。ですが私は、最近の倶楽部が沈滞しているとは思いません。いまの時代に、こうした会館を維持しているだけでも素晴らしいじゃないですか。倶楽部なんですから、束縛のない社交場が理想です。足利に桐生倶楽部はない。この違いに目を向けてみると、存在価値がよく見えてくるんです。

＊新年互礼会＊

恒例の平成10年新年互礼会が1月4日12時半から二階ホールで開催。出席者87名。

景気回復が遅れ、経済不安を引きづったままでの年明けだけに会場の盛りあがりもいまひとつ。それではならじと正面に掲げられたスローガンは「元気をだそう！桐生を好きになろう！」

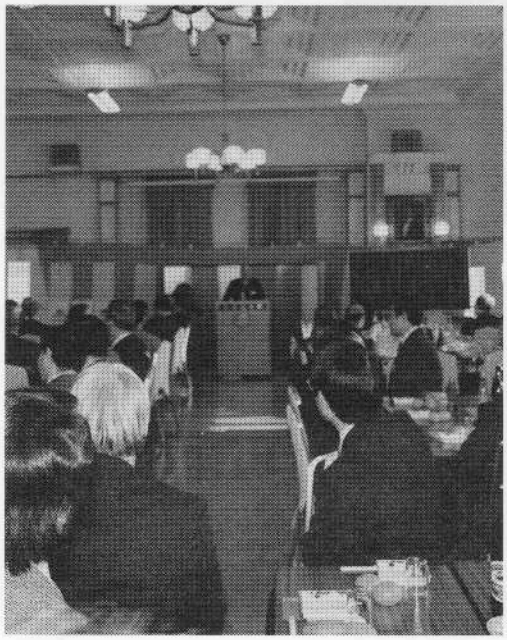
森寿作理事の司会で開会。

新入社員の紹介と、国家表彰を受けた3人の社員（別項）に記念品が贈られた。

あいさつに立った塚越理事長は、倶楽部創立80周年を迎えるにあたって先人の偉大な足跡と努力を讃え、困難な状況にある郷土の振興を訴えた。

来賓のあいさつでは、岸田商工会議所会頭が「景気の回復感に蔭りが見え、これまでのシステムが通用しなくなった。変革の時期に対応できる覚悟が必要」と語り、笹川代議士は「苦しい年になるだろうが、その中にも必ず喜こびはあるもの。景気回復には4年ほどかかるが、気永に取り組もう」と呼びかけていた。

日野市長は、今年の秋には景気も持ち直すのではないかとの観測も出ていると、ちょっぴり〝お年玉〟を述べたあと、行財政改革に取り組む市の姿勢に触れて地味であるが確実に施策をこなしていると強調、市民の協力を求めていた。



星野幸一さん 文部大臣表彰

社員星野幸一さんが、昨冬文部大臣表彰を受けました。星野さんは桐徳高校校長で、私立中学高等学校教育振興の功績を高く評価されたもの。倶楽部社員一同心からお祝い申し上げます。

楽しいクリスマス祭

桐生倶楽部恒例のクリスマス祭が、12月6日に開催された。社員・家族多数が参加、須永由紀子さんのピアノ伴奏で山崎真由美さんのソプラノ（ともに社員の奥様）のアトラクション、バラエティ豊かな食事、沢山の賞品を揃えた福引等、大変楽しいクリスマス祭であった。

サンタクロースは野田理事さん

【歩く会】　11月例会

歩き初めはふるさとの山

毎年の例で、今年も歩き初めは地元の名峰吾妻山へ登りました。雪の残る吾妻山の頂上では、東京副都心のビル、富士山、西上州の山々等すばらしい展望を楽しみました。　（当番　金井・小堀）

【歩く会】　12月例会

師走の東京文化探訪

日の出から、月の出まで、師走の東京をたっぷり楽しみました。盛沢山のメニューに、早暁日の出前桐生倶楽部前を出発。雲一つない快晴に50号バイパスでの関東平野に昇る朝日が、今日一日の旅の楽しさを予感させました。

今日は12月14日、忠臣蔵ゆかりの日。先ず訪ねたのが「本所松坂町吉良邸跡」いまは公園。附近の商店街は忠臣蔵催事に大にぎわいでした。一同そこから歩いて10分、両国国技館の近く、回向院を参拝。ここも江戸の旧跡の一つ。

バスに再び乗り込んで、江戸から超現代の東京ウォーターフロントへ。新橋でバスを降り「ゆりかもめ」で、お台場まで。変わり行く東京のシンボルのようなレインボーブリッジを渡り、25階の超高層に巨大な球体の展望室のあるフジテレビ本社ビルへ行きました。

東京湾から遠く横浜港まで見渡せる眺望を楽しみ、東京ウォーターフロントの新しい都市感覚を存分に味わいながら、再びバスは東京湾岸道路を走ります。昼近くＪＲ京葉線駅前にひろがる広大なシーサイド公園（葛西臨海公園）駐車場にバスを乗り入れ、約３時間の昼食フリータイムとなります。公園内の水族館は、マグロが遊泳する巨大水槽に驚き、海岸まで続くなだらかな芝生から東京湾を出入りする大型タンカーが望まれ、なんとも海無し県育ちの吾々には魅力ある雰囲気を充分味わせてくれます。

バスは再び都内に向います。木場に新しい文化の拠点として誕生した「東京都現代美術館」を訪ねました。本日は最終日とあって、間に合うかな？入れるかな？と心配していた企画展〝ポンピドー展〟、それでも30分ほど並んで幸い入場することができました。

パリのポンピドー美術館の優れたコリクションに圧倒され、時の経つのも忘れます。特に中央大広間１Ｆ～３Ｆまで吹き抜けに展示されたピカソのバレエ「バラードの幕」は生涯心に残る感激でした。

日の出から月の出まで東京を楽しみ、歩く会1997年行事もすべて終了しました。　（木島　清）

月次会報告　【11月】

ガーデニングのすすめ

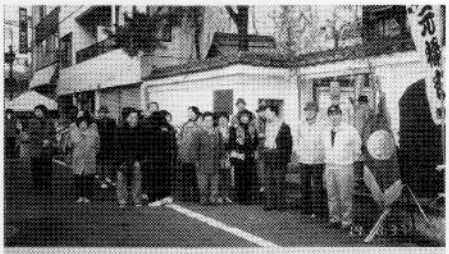
講師　星野　理氏

空前のブームとなった英国流家庭園芸のガーデニング。1997年をガーデニング元年と呼ぶ人もいるようです。桐生倶楽部の社員、御家族でもガーデニングに興味を持っておられる方が多いと思います。そこで、11月の月次会は相生１丁目居住の星野　理さんをお迎えして「ガーデニング」についてお話しをいただきました。

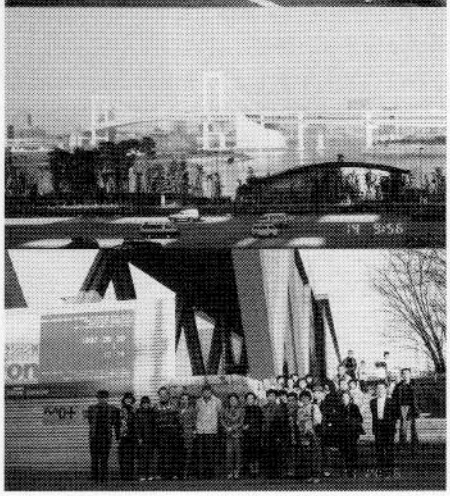
星野さんは大変な花好きで、もう20年来花やガーデンの研究を続け、花のホテルとして有名な桐生グランドホテルの庭園も手がけられました。毎年のようにイギリスやオランダの国際的な花の展示会にも出かけ、海外に花の仲間も沢山います。月次会では、ガーデニング（園芸）のテクニックよりも、先ずその効用について説明。すべての生命は植物からの贈り物であること。その処理に有害物質を出さない新しいプランターの開発など多方面からのお話のあと、数多くのスライドによるヨーロッパのガーデンの説明がありました。

（担当理事　矢野・山口）

歩く会写真



吉良邸跡の前



レインボーブリッジ　東京都現代美術館

＝ 新入社員紹介 ＝

[redacted]

囲碁部会秋季大会

11月29日(土)恒例の桐生倶楽部囲碁部秋季大会が6号室で催されました。

好天の暖かい日に恵まれて、終日、腕自慢の面々のパチ、パチという石音が元気よく響きました。

高笑いは好調者、ボヤキ、ナゲキの不調者、賑やかに一日、烏鷺の世界に没入いたしました。

ちなみに優勝者は5戦全焼の福永儀一さんでした。

〔出席者〕（敬称略）

岡田光弘　金谷利夫　倉林俊雄　島　勝二
野田友治郎　福永儀一　山上喜一　吉成敏郎

"囲碁部会からのお願い"

桐生倶楽部囲碁部は春(3～4月頃)秋(11月頃)文化祭協賛（4月末頃）開催し文化祭ガーデンパーティの席上、表彰式を行います。

碁をおやりになる会員の皆様、是非参加して下さい。(会費無料、入会金なし)

連絡は囲碁部、野田、吉成、又は事務室迄いただければご案内を差し上げます。

「歩く会」からのお知らせ

「歩く会」の年間計画表ができました。とりあえず3月から7月までの分を会報でお知らせ致します。「歩く会」に入会希望の方は事務局に申し込んで下さい。社員ならどなたでも入れます。会員になった方には、毎月例会のご案内を差し上げます。

○3月8日、東京湾道路アクアラインを渡って鋸山日本寺へ。

○4月12日、渡良瀬渓谷の山、備前楯山（1272m）登山。

○5月17日、梅田の千米スカイラインコース、丸岩、熊鷹へのハイキング。

○6月14日、栃木県北の八溝山に登り、坂東三十三観音札所第二十一番日輪寺参詣。

○7月26日、梅雨明けの尾瀬、鳩待峠からアヤメ平へ。

桐生倶楽部はぐるま句会（十一月）

やっと着て脱がぬ着物や七五三　大槻
カリンの実屋根打つ音に目覚めけり　小池
風吹けば見慣れぬ落葉舞い交じる　森
句心と共に生きたし桃青忌　久保田
苦も楽も老ゆれば淡し落葉掃き　本田
せせらぎの細くなりたる秋の暮　清水

桐生倶楽部はぐるま句会（十二月）

枯草の斜陽を遥か赤城立つ　久保田
足早に旅人は駅年の暮　本田
焚火果てお喋りの輪の崩れけり　尾澤
日向ぼこ妻の叱言も子守唄　大槻
冬の夜や住所録より消す名前　小池
石垣にまだ日の残る日向ぼこ　清水

倶楽部だより

12月

日	時	部会名	人員	備考
12/6	PM5:30～7:50	クリスマス会	66名	
12/8	PM5:00～6:40	理事会	15名	終了後、田中にて忘年会
12/14	AM6:30～PM6:40	歩く会	32人	東京ウォーターフロントの今昔探訪
12/15	PM7:00～8:15	桐生倶楽部はぐるま句会	6人	

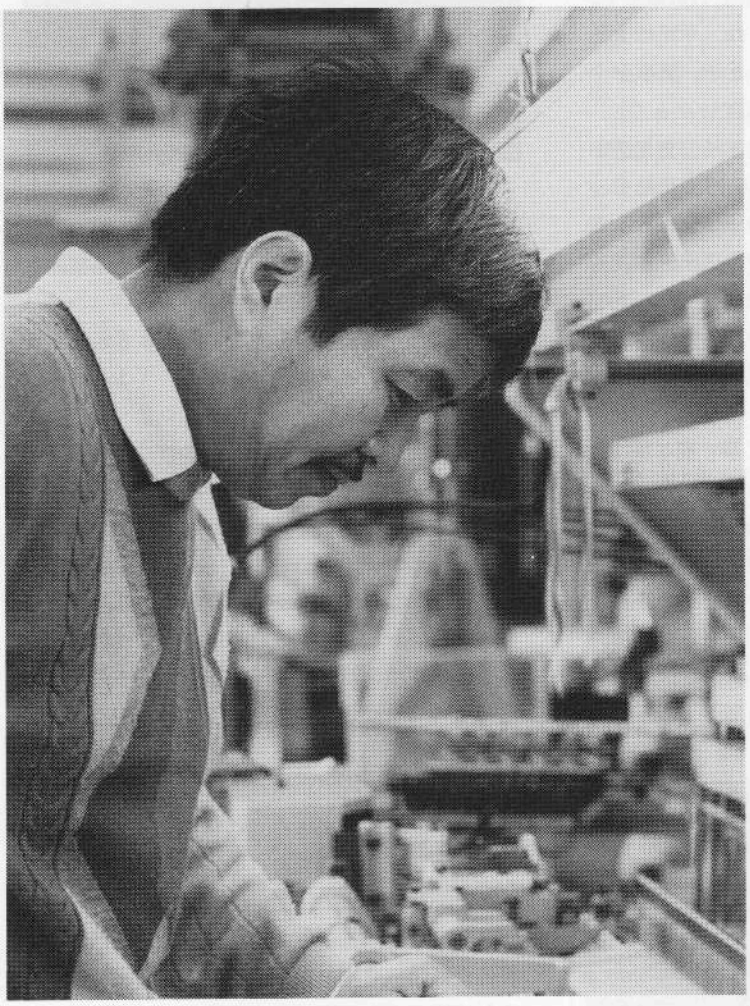
1月

日	時	部会名	人員	備考
1/4	PM12:30～2:10	新年互礼会	76名	
1/11	AM9:00～12:00	歩く会	14名	新春恒例の吾妻山登山　その後新年会
1/14	PM6:00～8:00	理事会	13名	
1/22	PM6:30～8:30	写真部会	10名	
1/26	PM1:30～	監査会	7名	
1/28	PM7:00～	桐生倶楽部はぐるま句会	5名	
1/30	PM5:00～	臨時理事会	14名	平成10年定時社員総会
1/30	PM6:00～	定時社員総会	219名	〃　〃

社団法人　桐生倶楽部会報　第103号
1998年（平成10年）　2月発行
発行人　塚越平人
編集責任者　小池久雄
印刷　ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36　社団法人 桐生倶楽部　TEL 45-2755



◎素顔の時間

使いづらさは歴史、大事だ

森島　純男

もりしま・すみお　昭和19年生まれ。織物参考館紫館長。「目立った活動はできないが、16年半、資料館として励んできて、これからも励んでいく」。産地の顕彰はだれかがやらなければという使命感、そして「こういう場所があることで、また新しいものが生まれる」という夢。心を支える二本の柱だ。

会員になって20年目になります。名札がすでに三列目に入っているのにその間、活動らしい活動に何も参加してこなかった。おわびしなければと思っています。会館については、桐生青年会議所のOB会の方で通い、どうも使いづらいという印象を持ってきました。でも、その使いづらさが実は歴史なんだと、その歴史が大事なんだと、いまはそう感じています。役員の方にはご苦労ですが、現在のまま、永々と活動が続けられていくことを、私は望みます。

文化活動委員会

各部会の新年度事業予定と予算が決定

2月19日（月）午後6時、桐生倶楽部1号室において文化活動委員会が開催された。今まで長く文化活動委員長をおつとめいただいた金谷善介理事が理事を退任されたので、2月10日の理事会で、後任には五十嵐健雄理事が推薦され、今回の文化活動委員会は五十嵐新委員長のもとで、議事がすすめられた。

各部会の事業予定、予算が決定され、文化活動委員会の最大の行事である桐生倶楽部文化祭も、5月8日（金）、9日（土）、10日（日）の3日間の予定となった。従ってガーデンパーティ、各競技の表彰は10日の午後となる。

各部会の正副部会長、担当理事、事業予定は下記の通り。

記

部会名	部会長（副部会長）	担当理事	事業予定
美術部会	保倉（須賀）	佐藤・岸	文化祭出品に力を入れる。
懇話会	藤井（山鹿）	木島・赤石	まだ予定なし
俳句部会	久保田（本田）	清水・森・小池	月1回の例会　文化祭に色紙・短冊出品
麻雀部会	蓮（養田）	藤江(敏)・岸田・岸	文化祭協賛の大会を予定
囲碁部会	野田（吉成）	野田・小池	年に大会3回・春・秋・文化祭、他に毎週土曜日昼から夕方まで
ゴルフ部会	森田（石関）	五十嵐・関口	文化祭協賛の大会の他に秋1回
将棋部会	平野(平)（野田）	飯山・野田	Aクラス、Bクラスの2部に分けて大会を一。
歩く会	木島（藤井）	小池・木島	平成10年度末までのスケジュールは完成
ビデオ部会	金井(利)（五十嵐(健)）	金谷(善)・（五十嵐）	未定
写真部会	森口（武井）	木村・塚越	年2～3回撮影旅行 年4～5回部会開催
音楽鑑賞部会	須永（藤井）	矢野・木島・山口	5月のガーデンパーティ12月のクリスマス祭の音楽提供、他に室内楽の夕をやる
21委員会	赤石（塚越(紀)）	山口	未定

定時社員総会

平成10年の社団法人桐生倶楽部社員総会は、1月30日（金）午後6時より会館2階大広間で開催され、下記の議案を審議し、全議案とも原案通り可決承認された。

社員総数　363名、出席者数　38名、
委任状　　181名

議案

1．平成9年度事業概況報告
2．平成9年度決算諸表報告及会計監査報告
3．平成10年度事業計画及収支予算案
4．理事の交代
　金谷善介氏が健康上の理由により退任。
　後任として、川村治朗氏が理事に就任。
　（任期は金谷理事の残任期間）

文化活動委員会の各部会に入会のおすすめ

左に記載のように、文化活動委員会の各部会の新年度事業と予算が決定致しました。ついては社員各位にはすでにどちらかの部会に入っておられるとは思いますが、新しく社員になられた方々も多いことなので、この際、どこかの部会に入会されますようおすすめ申し上げます。入会金など一切不要です。また、入会退会は自由、お一人でいくつの部会に入っても構いません。ただ手続きとして、桐生倶楽部事務員の方に口答で結構ですから御申し込み下さい。「○○部会に入りたい」と。早速、翌月から夫々の部会よりご案内がいくことになります。倶楽部は社員のためのものです。どうか積極的に各部会にお入りいただき、クラブをエンジョイして下さい。

「歩く会」　3月例会

アクアラインと内房 春の旅

すっかり明るくなった正6時桐生倶楽部を出発。大型バス固定席一杯の総勢45人。長いバスの旅なので丁度よい人員であろう。

雲一つない快晴の青空の下、R50を東に向う。正面からの朝日が眩しい。南の空の一角、小さな真白い富士山を発見。東北自動車道を南下するに従って、白銀に輝く姿が大きく鮮明に見えてくる。この富士は今日一日の車窓の友であった。

川口P.A.で小休止し、首都高に入ってもスムースに流れる。昨朧見学した臨海副都心への「ゆりかもめ」の終着・始発駅を左に見て、羽田空港の下をトンネルで通り、川崎浮島ジャンクションからいよいよアクアラインのトンネルに入る。10キロ弱のトンネルを出た処が海ホタル。ここまで早い位順調に来たのに直前で渋滞する。所定の駐車場に入るまでに40分はかかったか。

先ずは長いエスカレーターで最上階の甲板へ。全体が客船のイメージで作られていて、1・2階は駐車場、3階はお土産売場、4階はレストランと分れている。3階のお土産売場まで下りてみるが凄い混み様。特にレジに行列が出来てごった返している。ここでしか求められぬ物もないのに異状である。人の多さに辟易して、汐風と太陽の光の心地よい甲板へ戻る。横浜のみなと未来地区からアクアラインの橋の先の木更津附近まで東京湾が一望出来る。羽田から発着の航空機のほかヘリも飛び、海には大型船から小船まで賑やかである。絶好の旅日和に恵まれ、この後の橋梁部分からの眺めと共に東京湾横断道路を満喫出来る。

木更津南ICからR16に入るとまた渋滞している。暫く海岸線沿いの道に出て、三浦半島が近づき大島もすっきり見える。渋滞のため大分時間が遅れてきているので、車内で昼食を済ませる。

R127から、鋸山の有料道路を登って山頂駐車場へ。入口で記念撮影をして、やゝ一団となってゆるやかな石段を登る。先ずはひんやりとした絶壁の間の百尺観音摩崖仏に寄り、最高点の山頂展望台に行く。関八州の春霞む360°の遠望は広大で素晴らしいが、地獄のぞきと言われるせり出した岩からの足元の絶壁は対照的に肝を冷やされる。※

※ここからは石段と小路ですべて下り。西国観音・百躰観音などなどの名のついた羅漢石仏の群像を見ながら下ってゆく。照葉樹の森は群馬の林と違い、南国を思わせる植生である。登って来る若い人達と挨拶を交わしてすれ違い、大仏前の広場に着いて一服、摩崖仏として彫り上げたこの大仏は日本一とか。すぐ下の駐車場へ回送したバスに乗り込み、海岸沿いの来た道を戻る。

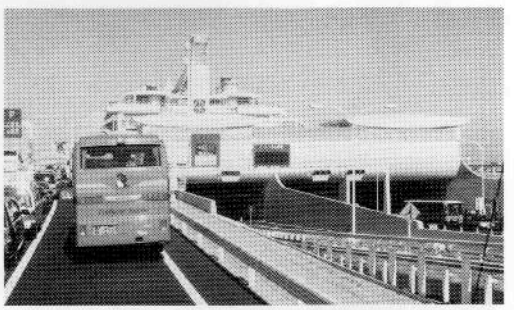
途中、久里浜への連絡フェリーの出ている金谷港のドライブインでお土産を調達し、房総三山の一つ鹿野山のドライブウェイを登る。こゝも房総半島内陸の展望がよい。マザー牧場を通り、古い歴史の神野寺を訪れる。寺の由緒より20年前の虎騒動の方が有名な話である。

これで今日の予定訪問地廻り終え、また渋滞の館山自動車道から東関東自動車道と乗り継ぎ、桐生倶楽部へ帰着したのは8時半を少し過ぎていた。

(藤井龍人 記)

木村　光さんが 通産大臣表彰

社員の木村光さんが、平成9年度ガス保安功労者として、2月18日に通産大臣表彰を受けました。木村さんは桐生ガス㈱常務取締役で、日ごろから保安業務に精励し、ガス主任技術者として表彰を受けたもの。倶楽部社員一同心からお祝い申し上げます。



写真部会

春駒の里 名刹吉祥寺を訪ねて

２月15日暖かい日差しのなか午前７時桐生を出発、沼田をすぎ川場村に着くと、そこは眩しいほどの銀世界だ。

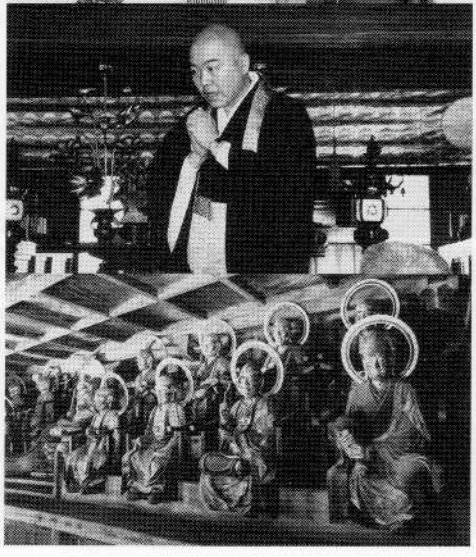
吉祥寺でバスを降り、急いでカメラを持って門前の部落に向かう。艶やかにお化粧をした《大柄な美女》が賑やかなお囃子に乗って、歌い踊り、素朴な雪景色とマッチして大変に印象的でした。

二組の春駒が吉祥寺の前で合流した頃、境内の古月庵に入る。鐘楼を見上げ清流を湛える美しい池を眺めながら、少し早いが昼食を取る。

名物の古月庵ざるそばが終わる頃、檀徒総代の方と和尚さんが見えました。本堂に案内され、吉祥寺建立の由来や、河波姫（かわばひめ）伝説をお話しになりました。そして山門や、庭園等をご案内され親切に説明されました。180年前の山門と十六羅漢は見事でした。三々五々、雪の境内を撮影しながら散策し、午後１時には最終の目的地、村営の川場温泉に向かいました。

奇麗な岩風呂でひと休み。午後５時には桐生倶楽部に到着。参加者21名　　（森口 記）

春駒



吉祥寺の和尚

山門の十六羅漢

＝ 新入社員紹介 ＝

[redacted]

桐生倶楽部はぐるま句会（一月）

来客のたれかれ先ずは雪のこと　小池

試歩の子に靴買ふ母や春隣　尾澤

母が居て妻が継ぐ味雑煮かな　本田

初日の出龍馬と迎ふ桂浜　久保田

雫にも朝日の光る氷柱かな　大槻

桐生倶楽部はぐるま句会（二月）

踏み入れば土手やはらかし蕗の薹　久保田

春寒し作務衣の僧の裸足かな　本田

蕗の薹踏まねば行けぬ道祖神　小池

モーグルの雪蹴立てたる赤き脚　大槻

春寒や遺品となりし写真かな　尾澤

投句にと寝てよむ一句春の風邪　北川

草分けてさがし当てたる蕗の薹　清水

倶楽部だより

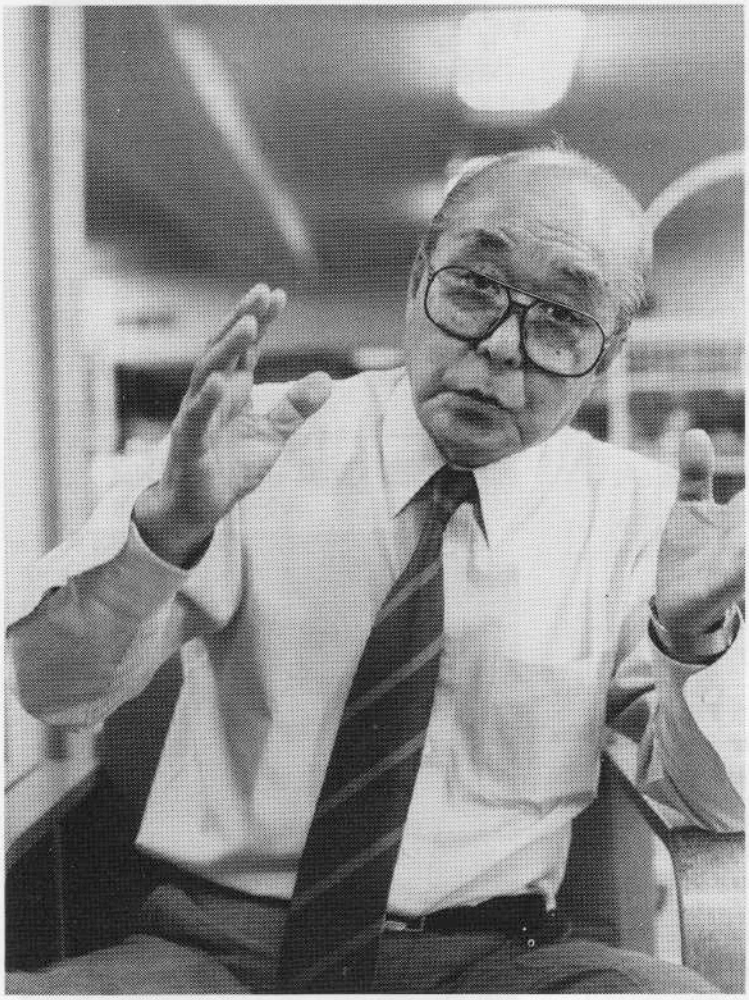
〔２月〕・理事会（10日）
・写真部会、早春の川場村（11日）
・歩く会世話人会（16日）
・文化活動委員会（24日）
・桐生倶楽部はぐるま句会（26日）

〔３月〕・歩く会、アクアラインと内房の旅（8日）
・理事会（10日）
・歩く会世話人会（23日）
・月次会、桐生市の都市計画について（26日）
・桐生倶楽部はぐるま句会（27日）

社団法人　桐生倶楽部会報　第104号
１９９８年（平成10年）　４月発行
発行人　塚越平人
編集責任者　小池久雄
印刷　ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



◎素顔の時間

総合的判断を提供する役割

加藤 昌克

かとう・まさかつ　大正十年生まれ。藤商事株式会社、株式会社加幸、みさち学院を経営。「桐生が生き残っていくためには、産業で人を呼べるまちに」が持論で、新しい時代の観光をにらみ、地場産品も取り込んだ消費者直販の展開に意欲的だ。現在、桐生商工会議所商業部会長として活躍中。

行政、あるいは商工会議所といった組織はどうしても縦割りになりがちですが、そういう意味から言うと、桐生倶楽部には、実に各界の知恵がそろっている。これからの時代に果たす役割は大きいと思いますよ。ひとつのテーマに総合的な判断を提供できるという点で、ほかには例のない組織です。貴重な建物を維持していくのも大事ですが、守りに徹するのではなく、発足当初のように、もっと積極的に発言力を増していくような活動がほしいですね。

第24回 桐倶社員文化祭

桐生倶楽部社員による文化祭の第1回は、昭和50年5月4日・5日に開かれた。この企画は当時の文化活動委員会前原勝樹委員長の提案によるものであった。以来毎年欠かさず開催され本年は第24回を迎えることとなった。

5月8日(金)、9日(土)、10(日)の3日間、社員の作品が沢山並び、来会者で賑わった。最終日は恒例のガーデンパーティー。4時から新緑の美しい庭園で、絶好の天候に恵まれ80人の参加者が時間を忘れて楽しんだ。席上各競技会の入賞者の発表、賞品授与が行れた。恒例のミニコンサートは須永由紀子さんのピアノ、横尾武宜さんのチェロで美しい演奏をきかせてくれた。

文化祭協賛行事及催物一覧

絵画展	5月8日～5月10日 AM10:00 PM5:00	於広間	
写真展			
陶器展			
俳句色紙展			
ガーデンパーティー	5月10日 PM4:00～	於庭園	
囲碁大会	4月18日 AM10:00～	於6号室	
将棋大会	4月25日 PM5:00～	於6号室	
麻雀大会	4月28日 PM6:00～	於くすのき	仲町 3-7-18
ゴルフ大会	5月4日 AM9:36～	於桐生CC	
俳句会	4月28日 PM7:00～	於2号室	
歩く会	5月10日 句碑の道ハイキング	AM8:00 桐生倶楽部出発	

各部門の出品者

(絵画) 金谷善介・保倉一郎
(写真) 塚越平人・五十嵐健雄・尾澤弘一・武井正充・藤井龍人・森口二郎・後藤久夫・江原　満・江原　毅・蛭間利雄
(俳句短冊・色紙) 久保田裕一・本田孝太郎・遠藤勝久・小池久雄・尾澤弘一
(陶器) 須賀武次・川島忠昭
(草木染手織) 尾澤弘一

各競技の入賞者

4／8　囲碁大会

優勝	倉林　俊雄
準優勝	吉成　敏郎
1位	岡田　光弘
2位	野田友次郎

4／14　麻雀大会

優勝	北川　洋
準優勝	亀田　和夫
3位	遠藤　俊一
4位	新井　康家
5位	笹川　勝正
6位	吉野　一郎
7位	蓮　直孝
8位	小林　寛次
9位	飯山　清治
10位	石井　省三
ブービー	小島　幸雄
ブービーメーカー	米田　籌穂

4／25　将棋大会

優勝	出口孝二郎
準優勝	平野平四郎
参加賞	野田友治郎
〃	岡田　光弘
〃	木村　俊一

5／4　ゴルフ大会

優勝	山崎　順一
順優勝	長谷川　正
3位	石関　二六
4位	森田　良徳
5位	養田　隆
6位	上野　武男
7位	朝倉　泰
8位	金子　薫
9位	竹内　晴夫
10位	福田　英雄
11位	五十嵐健雄
12位	篠田　久
13位	阿部　高久
14位 (ブービー)	森田　寿子
ニアピン	石関　二六
〃	養田　隆
ベストグロス(76)	森田　良徳

名誉社員 平野元吉氏の御逝去を悼む

桐生倶楽部名誉社員、前理事長平野元吉氏は、去る5月1日、94才の天寿を全うし御逝去になりました。桐生倶楽部社員一同心より哀悼の意を表します。

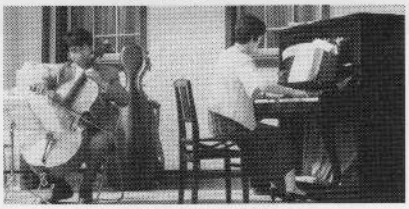
平野氏は、昭和26年に入社、昭和29年から理事、43年から副理事長、62年第9代理事長に御就任。平成2年退任後は本倶楽部のために特別に尽力されたとして名誉社員に推薦されました。役員歴は実に36年、その間大変厳しい条件の中を、倶楽部の財政建て直し、会館の修理・保全、庭園の改装、月次会の定期開催等に力を尽くされた。地味ではあるが無くてはならない御仕事を黙々と続けてこられた。その御功績は誠に大きいものがあります。

社員一同心から感謝申し上げ、謹しんで御冥福をお祈り申し上げます。

文化祭の写真の（続き）

ガーデンパーティー

ミニコンサート



チェロの横尾武宜さん

ピアノの須永由紀子さん

森　喜美男さんが黄綬褒賞を受章

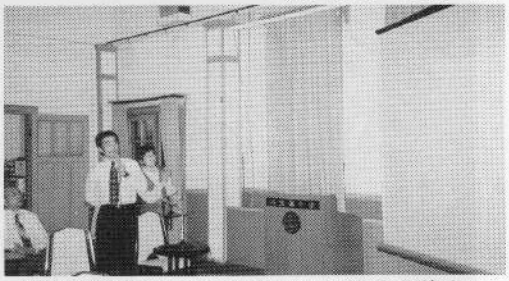
社員の森喜美男さんが、この春の黄綬褒賞を受章されました。森さんは日本の養殖きのこ産業のパイオニアである森産業代表取締役社長。全国のきのこ産業のリーダーでもあります。この道ひとすじ長い間の精励が認められたもの。桐生商工会議所副会頭であり、桐生市観光協会再生の旗振り役としても期待をされています。倶楽部社員一同心からお祝い申し上げます。

月次会報告 【4月】

インターネットで見る桐生の民族衣裳コレクション

桐生市には現在2千点をこえる数の、世界的にも大変貴重な各国の民俗衣裳のコレクションがある。このコレクションを責任をもって保管をしているのが地場産業振興センターである。地場産センターではこのコレクションをすべてコンピューターに記憶させ、インターネットを通して、世界中どこからでも検索、閲覧できるように整備を進めている。そこで今月は当倶楽部小池副理事長の“民族衣裳について”、桐生地域地場産振興センター生方局長の“民族衣裳メディア化”について説明をききながら、桐生インターネット協議会の皆様による映像を見せていただくこととした。映像は国別、民族別、柄別、用途別等、どこからでも見る人の要望に応じて、2千点をフルに使い自由に閲覧ができる。しかも新井求美さん（新井淳一さんの令嬢）が長年研究調査したので、すべてのディテールがついている。まさに桐生の宝物である。塩崎さんはじめ桐生インターネット協議会の皆さんには格別お世話になった。

（担当理事　木島・岸）



映像の説明をする塩崎さんと新井求美さん

月次会報告　【3月】

桐生市の都市計画について

講 師　桐生市都市計画部長
福 島 賢 一 氏

講師　福島賢一部長

3月の月次会は桐生市より都市計画福島部長をお招きして、赤岩橋、錦桜橋、中通り大橋の工事進捗状況や、その他今後の都市計画について講演をお願いした。市民生活に大変関係の深い都市計画ということで参会者も多数、講演の後の質問も多く、内容の充実した月次会であった。

（担当理事　清水・関口）

「歩く会」　4月例会

山桜・山吹の咲く 足尾備前楯山

備前楯山は渡良瀬渓谷にある1272米の山です。4月12日(日)午前8時桐生倶楽部集合、自家用車に分乗して銀山平まで。ここから舟石峠を経て備前楯山へ。春の花を満喫したハイキングでした。

＝ 新入社員紹介 ＝

寺内整染株式会社

桐生市浜松町1-5-27
TEL 44－２４１１

桐生倶楽部はぐるま句会（三月）

海に墜つ岬の果や鳥帰る　尾澤
啓蟄やカメラの這入るキトラ塚　本田
啓蟄や木喰仏の笑み給ふ　小池
啓蟄の庭に地虫の出る移植　久保田
啓蟄や見ばより重し自家野菜　大槻
啓蟄や葉を喰う姿見せもせず　清水

桐生倶楽部はぐるま句会（四月）

興亡を秘めて桜の二条城　久保田
武家屋敷大玄関の落花かな　小池
春愁や言ひて悔ある些事ひとつ　本田
春愁や杖引く年となりにけり　清水
けたたまし鳥春愁を破りけり　大槻
花咲きて職退くもまた運命（さだめ）かな　尾澤
自ずから彩も渋味の花衣　遠藤

倶楽部だより

〔４月〕
・写真部会（２日）
・行事委員会（７日）文化祭に向けて
・理事会（10日）
・歩く会（12日）足尾備前楯山
・囲碁部会（18日）文化祭協賛囲碁大会
・歩く会世話人会（20日）
・月次会（23日）「インターネットで見る民族衣装の世界」
・将棋部会（25日）文化祭協賛将棋大会
・麻雀部会（28日）文化祭協賛麻雀大会
・はぐるま句会（28日）

〔５月〕
・ゴルフ部会（４日）文化祭協賛コンペ　於：桐生カントリー
・文化祭（８日～10日）作品展
・ガーデンパーティー（10日）於：庭園
・歩く会（10日）句碑の道（広沢町）
・理事会（19日）
・歩く会世話人会（25日）
・はぐるま句会（29日）

社団法人　桐生倶楽部会報　第105号
１９９８年（平成10年）　６月発行
発 行 人　塚　越　平　人
編集責任者　小　池　久　雄
印　　刷　ツボノ印刷株式会社

平成10年8月10日　1998.　第106号　(1)

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人 桐生倶楽部　TEL 45-2755

◎素顔の時間

いつも若者へ発信する存在

下山嘉一郎

しもやま・かいちろう　昭和五年生まれ。学校法人桐生外語学院理事長。少子化が進む中で、急速な方針転換を迫られている分野である。しかしどんな時代が来ようと、基本は教育であり、いい予備校があるというのは魅力ある住環境の大事な要素であり続ける。あくまでこの桐生で、頑張りたいという。

桐生高校時代、仲間と演劇部をつくり、最初の公演を桐生倶楽部でやりました。小学校の時に桐生へ越してきまして、子どもごころにぼんやりとでしたが、あの建物には何か質の高い文化活動がありそうな感じがして、とても印象深かったんです。私は、桐生倶楽部には常にそうした存在感、若者に対していつも何かを発信していく機能が必要ではないかと思うのです。守りでなく、攻めの発想で。それが十分に可能な、経験豊かな人が集まっています。

月次会報告　【6月】

新薬情報をどう読む？

講師 杏林大学医学部
赤松　隆教授

6月の月次会は、杏林大学医学部、公衆衛生教室赤松教授をお招きして最近の医学界の情報を拝聴しました。

教授は大変率直に現在の日本の医学界の抱える問題や、つぎつぎに発表される新薬情報などについて、沢山のデータをもとに話していただきました。特に教授は米国医学界と交流もあり、その事情もくわしく、珍らしい貴重な情報を教えていただきました。

危惧をしている日本の医学界の問題

◎モラルが崩れかけている。その原因は医師の数がふえている。

若い人達の考え方が変ってきている。大学の構内で、歩きながら煙草を吸っている学生に注意すると、「何ですか」と不思議そうな顔をする。

◎病院の経営。病院の倒産があり、病院の売り買いがある。買うのはやくざが多い。いい医療を行うためでなく、高額の医療機械を買い、それを横流しして病院を破産させてしまう。

◎医師の仲間意識が希薄になっている。

新薬情報をどう読む？

◎薬は毒物である。病気を治すためやむなく使うのが薬。身体にいい薬などはない。

◎例えば臓器移植には拒絶反応がおきるので、必ず免疫抑制剤を使わなければならない。これは一種の抗癌剤であり、非常に強いもので正常の細胞までターゲットになってしまう。

◎新薬で最近大変話題になっているもので、バイアグラ（経口勃起不全治療薬）がある。日本では販売が認められていない医薬品なので、米国に行って入手するツアーまで登場している。しかしこの薬を服用したための死亡例もでている。

◎癌の治療薬をはじめ次々に新薬が登場している。しかし動物実験ではうまくいっても人間には通用しない例が多い。慎重であるべき。

（当番理事　岸田・木村）

****

坂口安吾原作「白痴」

映画化のスタッフが桐生倶楽部に集合

坂口安吾の代表作「白痴」を手塚眞監督が大胆に脚色、国際映画祭に出品を予定の映画が、5月に新潟でクランク・イン、6月21日(日)には桐生に入り、桐生倶楽部に手塚監督はじめ全スタッフが集結。翌日から東2丁目森山家、本町1丁目森家、国際きのこ会館フェアリーリングスなどのロケが行われた。

坂口安吾は昭和27年2月に桐生に居を移し、30年2月に桐生で死去。桐生を終の住家とした偉大な文人であり、当時友人の南川潤が桐生倶楽部の理事であった関係から、桐生倶楽部にも何回か姿を見せている。

映画白痴の成功を祈りたい。

右端は 手塚 眞 監督

月次会報告　【7月】

切り絵の世界

「私の歩んでいる道」

切り絵作家
石井一臣氏

「手は第二の脳というけれど、この手が今の私を生み出したんです」右手を掲げる切り絵作家の石井一臣さん。(写真)

7月22日の月次会は幻想的な創作芸術の世界で活躍中の〝時の人〟からファンタスティックな作品制作のうら話をうかがった。

1948年桐生市の生まれ。切り絵との出会いは25歳のとき偶然の機会だった。魅力にとりつかれたが乞う師匠はいない。もっぱら広重の木版画を手本に、その筋彫りを学んで独自の技法を体得したという。一連の作品群は国内はもとよりカナダ、アメリカ、西ドイツで催した個展で成功し〝現代の広重〟の評価も。

この日本独自の切り絵は西欧人にとっては驚異とうつる。絵はペンと筆でしか表現できないと思っているこれらの人にとって紙とナイフをつかっていとも鮮やかに一枚の紙がフォルムをなす一愕きの世界というわけだ。

いまライフワークとして取り組んでいるのが、円空仏の慈顔にみる温かさ、優しさを切り絵でどう表現するか。18歳のとき長野県平湯温泉の寺でその円空仏に出会ったときの感動が忘れ難いのだとか。「人間は死んだら皆無だが、作品が残せる芸術家は仕事冥利に尽きる」という石井さんは、「大きな夢を追い、桐生発の芸術を発信しつづけたい」とさらなる円熟の境地をめざす。

月次会予告　【9月】

「大山詣で」と美術館見学

9月の月次会は「歩く会」の担当です。大山詣でと町田国際美術館見学を計画しました。

江戸時代より庶民信仰の山として知られ、今でも年間80万人もの観光客が訪れます。

古い歴史の佇いを残す御師の家並み、土産店を散策してからケーブルで下社に詣で、昼食は有名な豆腐料理を賞味いたします。帰りは町田市立国際版画美術館の見学も予定しております。

〝雨降り山〟の別名をもつ大山ですので雨天でも決行します。旅程は以下のようです。

○日　　時　平成10年9月13日(日)
○集合出発　桐生倶楽部午前6時
○会　　費　1人1万円(入館料他すべて込み)
○コ ー ス　6：00倶楽部発＝11：30大山登口＝339段の石段徒歩＝11：30昼食＝15：15町田国際版画美術館＝19：40桐生倶楽部帰着

創立80周年記念事業について

社団法人桐生倶楽部は、ことしで創立満80周年をむかえる。11月には祝賀パーティー等の事業を予定しているが、細目は8月の理事会で詰めることになっている。

桐生倶楽部の創立は大正7年。前身の桐生懇話会時代を通して桐生の町政、教育文化、産業経済等の各分野で幅広い振興策をたてて近代都市・桐生を創出する原動力の役目を果たしてきた。

記念式典では、こうした先覚者の創始の精神を再確認しつつ節目を祝うが、時節柄、社内だけの内輪の規模のものに落ちつきそう。

＝ 新入社員紹介 ＝

（敬称略）

[redacted]

桐生倶楽部はぐるま句会　五月

天寿とはあっけなきもの春の蝉　本田
松蝉の山下りてなほ耳に在り　尾澤
苗代の箱苗となり一、二寸　遠藤
山一つ取り仕切りおり松の蝉　久保田
通天の谷埋めつくす青楓　大槻
二世代替る団菊夏芝居　小池

桐生倶楽部はぐるま句会　六月

美術館出て万緑の中に入る　小池
万緑の中舟唄の流れけり　大槻
雨蛙鳴けど農夫の急がざる　尾澤
万緑の赤城借景露天風呂　久保田
下刈の吊鐘草を残しおく　遠藤
隣でも木鋏響き五月晴　吉成
梅雨晴れや山又ひとつ現わるる　本田

「歩く会」　5月例会

山笑う頃、句碑のみちハイキング

5月10日、朝8時桐生倶楽部出発。午後4時からのガーデンパーティー（文化祭行事）にゆっくり間に合うよう近場のコースを選びました。広沢の加茂神社境内から加茂山にかけて、平成2年「句碑の道」が出来ました。多数の句碑の中には桐生倶楽部句会のメンバーの句碑がいくつもあります。句碑のみちをゆっくり歩き、加茂神社のたたずまい、加茂山から桐生市街、足利方面の眺望を楽しむハイキングでした。

加茂神社の参拝をすませてから句碑の道へ

＝ 倶楽部だより ＝

【6月】・理事会（8日）
・月次会（22日）「新薬情報をどう読む？」
・はぐるま句会（30日）

【7月】・理事会（10日）
・80周年記念行事小委員会（22日）
・月次会（22日）切り絵の世界
・歩く会（26日）尾瀬鳩待峠からアヤメ平へ
・はぐるま句会（27日）

社団法人　桐生倶楽部会報　第106号
1998年（平成10年）　8月発行
発行人　塚越平人
編集責任者　小池久雄
印刷　ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人 桐生倶楽部　TEL 45-2755

◎素顔の時間

いつでも頼れる存在でありたい

久保田裕一

くぼた・ひろかず　大正十二年生まれ。久保田産婦人科医院院長。巴町の現在地に開業して四十年。「もう、あくせくと仕事する歳ではない」と、これは教員だった父親の教えでもあるという。趣味の俳句、仕事のやりくりをつけて旅行を楽しんでいる。「社会への奉仕も、これからは一層大切になる」

入会してもう十七年、主に文化活動に参加しています。医者というのはある種閉ざされた世界にいますから、いろんな人と出会い、さまざまな話を聞き、おかげでずいぶん世の中が広くなりました。私は、桐生倶楽部の活動というのはこれまでどおり、そうした交流や親睦が中心でいいと思います。ここが発信地になるというより、何か相談を受けたときに力を出せる、そういう頼れる機関としての存在感がこの建物にもふさわしい。ただし市民との距離には改善の余地がありますね。

月次会報告　【9月】

「大山詣で」と町田国際版画美術館

毎年9月の月例会は、「歩く会」の担当になる。本年は「大山詣で」と町田市立国際版画美術館の見学となった。

9月13日(日)、絶好の行楽日和に恵まれ、大型バスに30人の参加者が、午前6時桐生倶楽部出発。東北道・首都高・東名経由、厚木ICから大山詣での宿場町として栄えた伊勢原へ。大山登山口でバスを降りる。丁度10時。

ここからケーブルの駅まで、500米、339段の石段をのぼる。ゆっくり歩けばさしたることもない。ケーブルに乗りこむ。6分で大山阿夫利（おおやまあふり）神社下社につく。神社は崇神天皇のころの創建と伝えられる古社。大山祇神（おおやまずみのかみ）、大雷神（おおいかずちのかみ）などを祭り、標高1252mの大山山頂に本社があるが、本社までは仲々登れぬ。しかし700mの中腹にある下社も壮麗なもの。

下社からケーブルで降り3分で関東三大不動のひとつ大山寺へ。大山寺は天平勝宝7年（755年）に奈良東大寺の別当良弁（ろうべん）が創建したといわれ、聖武天皇の勅願寺となった古刹。現在の不動堂は明治11年の再建で、文永年間に願行上人によって鋳造された本尊鉄造不動明王を拝む。

さらにケーブルで下まで、339段の石段も降りるのは楽。両側の土産物屋、名物豆腐料理の店などのぞく。

柿たわわ豆腐料理の御師の家

この辺は豆柿の木が多い。御師（おし・宿坊の経営や参詣人の案内、また諸国を巡回して大山の信仰を広めた）

名物の豆腐料理の店は沢山あるが、歩く会世話人の選んだ旅館あさだで中食。陶板焼・田楽・飛龍頭・空也むし・あげ出し・胡麻豆腐等、おいしい豆腐料理で満腹。12時から約1時間。バスのある場所まで戻り、出発1時15分。もう一度東名に乗り町田市に向う。

2時50分、町田市立国際版画美術館到着。

この美術館は日本で最初の版画を中心とする公立美術館として、1987年に開館した。国内では奈良時代から、欧米では初期の15世紀から、さらに内外の現代作家に至るまで、約1万3千点に及ぶ版画作品が収蔵されているという。

当日は「日本の木版画1200年」―奈良時代から平成まで、版画王国・ニッポン―という企画展が開催されていた。展示された作品はいずれも収蔵品の中から選んだものだとのこと。

奈良時代の有名な百万塔の中に納めた版本陀羅尼、仏教版画の数数、江戸時代の浮世絵、明治大正期の版画から、現代版画に至るまで大変興味深い企画展であった。

4時美術館出発。予定より早く7時桐生倶楽部到着。　（小池記）

★★★

「歩く会」　7月例会

雲上の楽園
尾瀬アヤメ平

7月26日

夜中、雨の音に眼がさめる。然し家を出る頃には雲も切れて、まずまずの天気。5時30分初参加者も含めて16名、記念撮影の後、4台の車に分乗し予定通り「戸倉」の駐車場へ。

係員の特別な取り計いで定刻を待たずにマイクロバスが発車し「鳩待峠」へ。予想していた程の混雑はない。

早速装備を整へ山荘裏から尾根伝いのゆるやかな上りの登山道に入り、一汗かく頃に針葉樹林帯の中の木道歩きとなる。展望はきかず梅雨空の下、天気を気にし乍らも「ウグイス」や「ミソサザイ」等の可愛らしい歌声に励まされ、約一時間で前方が急に開け「横田代」に出る。

霧の為、至仏山も燧ヶ岳も望む事が出来ないのが残念である。然し乍ら見渡す限りの「キンコウカ」が黄色く緑の丘一面に咲き乱れ、まさに雲上の楽園。ゆっくりと自然を堪能し乍ら更に一時間で、尾瀬の穴場「アヤメ平」へ。一時期話題になった、踏み固められた湿原も復元事業によって大部緑が甦り、木道の両側はすでに盛りを過ぎた「ワタスゲ」や「チングルマ」、今を盛りと可憐に咲く「タテヤマリンドウ」「ミズギボウシ」、点々と「ニッコウキスゲ」等々。又それらの美しい花の姿を水面に写し浮かべる池塘の群れ。

コース中の最高地点（1968.8m）で、雄大な自然を心ゆくまで楽しんだ後、ゆっくり下って行くとやがて「富士見小屋」へ、予定通り11時に到着。

約一時間ゆっくりした昼食タイムをとり、たのしいおしゃべり等の後、美味しい山の清水を水筒につめかへて、ここからやや広いゆるやかな下り約2時間の林道歩きとなる。途中には「ブナ」の原生林、又道端に咲きほこる紫色のきれいな花「ハクサンシャジン」等々。S字カーブが多くなってくると、やがて林道終点「富士見下」へ。全員無事元気に歩き通した満足感に満ちた一日の終りを迎へる事ができた。

帰路は戸倉を14時10分発、桐生倶楽部に16時到着。　（後藤記）

文化庁から
桐生倶楽部へ
立派なプレート板

桐生倶楽部会館は一昨年12月に、登録文化財第一号に指定され文部大臣からの登録証がロビーに飾られております。更に先日「登録有形文化財―この建造物は貴重な国民的財産です」と彫られた大変立派な金属のプレート板を文化庁からいただきました。5号室と6号室の間の壁面に飾られておりますので、社員の方は是非ご覧下さい。

桐生ルネッサンス
土屋文明記念文学館が会場

群馬町保渡田にある、県立土屋文明記念館が、「桐生ルネッサンス」という企画展を10月4日(日)から11月3日(火)まで、1ヶ月の会期で開催する。

南川潤が愛し、坂口安吾が闊歩し、浅田晃彦（直木賞候補の作家）を育てた自由気風の都市桐生。古くから機業を基盤とする産業自主の精神が充溢したこの街を、潤は文化活動・安吾はその作品で活性化させた。同時にそれは高いレベルでの文芸復興の胎動・息吹となり、後に群馬の文壇をリードすることとなる浅田晃彦らの育成へとつながった。

南川潤（本名秋山賢止）は、昭和25年から亡くなるまでの5年間桐生倶楽部理事をつとめ、その関係で友人の坂口安吾も度々桐生倶楽部を訪れている。浅田晃彦もしかり。桐生ルネッサンスでとり上げた3人の作家はいずれも桐生倶楽部に縁のある方々である。

3人の作家に関する資料が多数並べられ、会期中には、服部文男・森猛・荻野アンナ（芥川賞作家）・坂口綱男（安吾長男・写真家・エッセイスト）などの講演もある。

桐生倶楽部はぐるま句会

七月

古柄杓一つ置きたる宮清水　久保田
泥田よりつんと突き出て蓮の花　尾澤
延命と名付く清水の列につく　遠藤
不動像映る清水をいただきし　小池
二千年睡りを覚めし大賀蓮　本田
絶え間なく砂吹き上げて湧く清水　大槻
苔すべり柄杓流れし清水かな　吉成

八月

父母よりも長きを生きて墓参　本田
酔芙蓉古弓をききし町のこと　小池
絵手紙に恙無き友花芙蓉　久保田
車椅子にほどよき高さ芙蓉咲く　尾澤
看護婦の小走りに覚む秋の夜　大槻
露天風呂裸でつかむ秋の空　森
七夕に願いをこめて墨をすり　吉成

＝ 倶楽部だより ＝

【8月】・理事会（11日）
・はぐるま句会（27日）

【9月】・歩く会世話人会（7日）
・理事会（10日）
・歩く会＆月次会（13日）
大山詣でと町田国際版画美術館
・80周年記念行事小委員会（22日）
・はぐるま句会（25日）

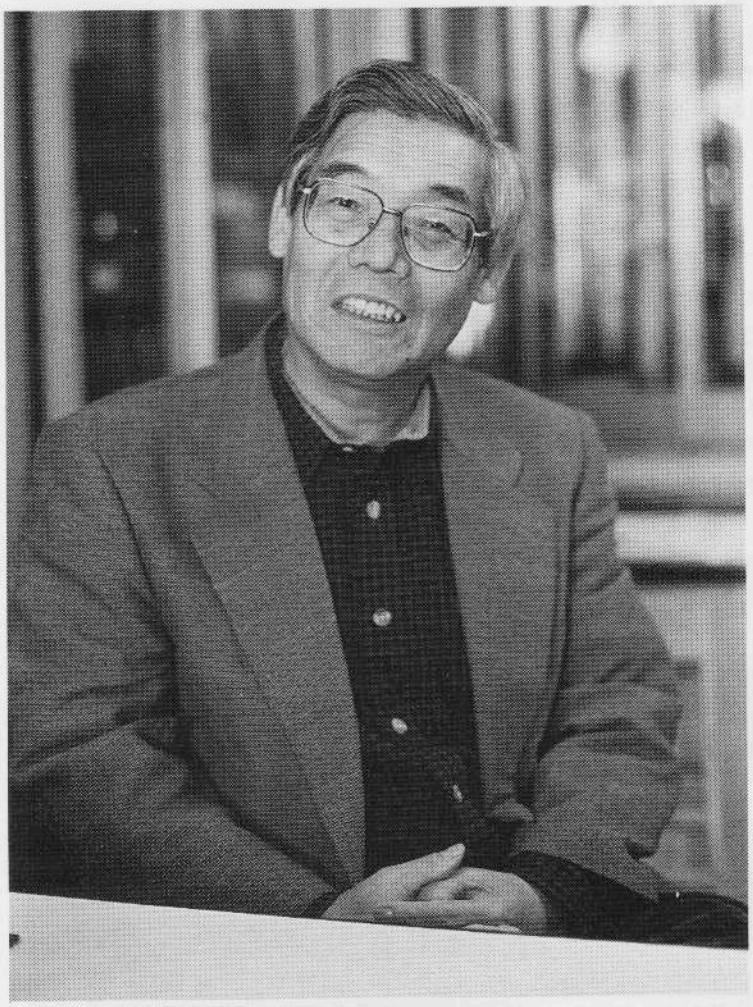
社団法人　桐生倶楽部会報　第107号
1998年（平成10年）　10月発行
発行人　塚越平人
編集責任者　小池久雄
印刷　ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

◎素顔の時間

こころの豊かさ 先人に学びたい



山鹿英助

やまが・えいすけ　昭和十五年生まれ。桐生市永楽町、銃砲火薬店経営。郷土の歴史を多角的にとらえ、とりわけ庶民文化の掘り起こしに力を尽くしてきた。その一つ、からくり人形の復元がいま、全国の注目の的だ。桐生というのはどんなまち？　外から熱いまなざしが注がれる中、得難いナビゲーターである。

桐生倶楽部というのは、このまちの先人たちの心意気によって形づくられました。当初は特定の人による運営でしたが、やがてそれは、開かれた活動へと成長し、引き継がれてきました。建物も重要ですが、やはり精神の高さがきわだっています。バブルという時代を経て、人間として何が大事なのかを、私たちはいまいろいろと突きつけられている時代です。桐生倶楽部に積みあげられた歴史から学ぶべきは、そうしたこころの豊かさだと思っています。

桐生倶楽部創立80周年

桐生倶楽部の「創立80周年祝賀会」が、11月10日、会館階上大広間で開催された。今回は社員のみの祝賀会としたが、130人という予想外の多数の社員の参加で大変盛大なものになった。

祝賀会に先立ち郷土史家・文化財調査員の大里仁一先生が「桐生のまちの発展と桐生倶楽部」の演題で記念講演。桐生倶楽部の前身である、明治33年に設立された桐生懇話会の歴史、郷土発展につくした業績、懇話会が解散し大正7年の社団法人桐生倶楽部となった経緯、桐生倶楽部の存在が大きく桐生のまちの発展につながったことなど、45分という短時間であったが意義ある記念講演であった。

7時から祝賀会となり、先ず塚越平人理事長の挨拶。桐生倶楽部の歴史について、その背景を織り交ぜながら紹介、現在の社員総数357名（個人327名、法人30名）と発展をとげていること。会館は登録文化財第1号となった貴重な遺産であること等を説明。「初心を忘れることなく倶楽部の運営につとめるので、今後も協力をよろしくお願いします」としめくくった。

ついで、社員を代表して日野市長と笹川代議士の祝辞。日野市長は「桐生倶楽部会館をはじめ桐生市には近代化遺産が数多くある。このすばらしい遺産をいかに残していくか、いかに生かしていくかがこれから大事になる。桐生のまちをよくするため、今後も社員の皆さんからアドバイスをいただきたい」と述べた。笹川代議士は「桐生倶楽部は郷土の先輩達が将来への希望を抱きながら設立したもの。その意志を大切に受けついでいきたい」と話された。

祝辞が終って、社員代表として岸田桐生商工会議所会頭の発声で乾盃。祝賀の宴に入った。森委員長をはじめ行事委員の皆さんの設営で、卓上の料理・一茶庵のそばなど好評、楽しい祝宴が続いた。

また記念品として、80年略史のついた社員名簿が配られた。略史には「倶楽部の歩み」と共に同年代の「社会の動き」が並記され、興味深いものになっている。

記念講演の大里先生

80周年を祝って乾盃

社員の歓談風景

月次会報告　【10月】

八木保太郎と「小島の春」

講師　延命立雄先生

10月の月次会は、日本映画史に残る名シナリオライター、八木保太郎さんについての話と、その代表的作品の一つ「小島の春」のビデオを見ていただいた。講師は映画研究家の延命立雄先生。

八木保太郎さんは高崎市のご出身だが、一人だけのお嬢さんが梅田の中島家に嫁がれた縁で、桐生へも時々足を運ばれ、そのお墓も梅田の長泉寺にある。当倶楽部社員の村田兵作さんのご縁戚。

映画「小島の春」は昭和15年の作品。小川正子原作、八木保太郎脚本、豊田四郎監督、夏川静江・杉村春子・菅井一郎出演のこの作品は、ハンセン病患者の深い悲しみと絶望を、魂をゆさぶるように描いたヒューマニズム溢れる映画で、この年度のベストワンに輝やいた名作。中村メイ子が子役で出る場面だけは、この映画の僅かに明るさの漂うシーンである。

随分古い映画（58年前）だが、今見ても少しも古くはない。改めて強い感動を受ける作品であった。

八木保太郎さんは、シナリオ（脚本）を文学にした人と云われる。社会の暗部をえぐり底辺に光を当てる社会派で、大衆受けする作品は少ない。しかし黄金時代の日本映画界において燦然と輝く存在であった。代表作は「人生劇場・青春編」（この映画は八木さんの数少ない娯楽作品）。「生命の冠」「裸の町」「限りなき前進」「小島の春」戦後では「山びこ学校」「ひろしま」「第五福竜丸」「白い少女」昭和62年9月84才で死去。

岸田英作さん県功労者表彰

桐生倶楽部理事岸田英作さんは、平成十年度の県功労者として十月二十九日表彰を受けた。岸田さんは桐生中央商店街振興組合理事長などを務め地域振興・発展に寄与、現在は桐生商工会議所会頭として商工業の振興に多大な貢献をしております。社員一同心からお祝い申し上げます。

◇◇◇

「歩く会」　10月例会

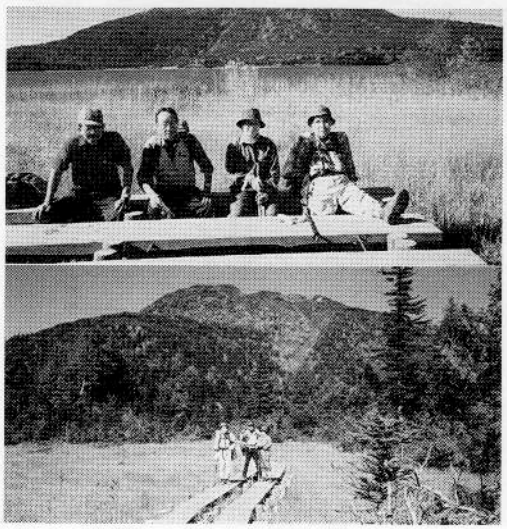
紅葉の尾瀬沼

10月11日、朝から雲一つない快晴、最高の登山日和でした。5時半、参加者6名で自家用車で出発。どんな素晴らしい紅葉に出会えるかの期待に胸躍らせ、大間々・根利・戸倉と進む。7時20分に到着した大清水は紅葉真盛りでした。

ここで朝食をとり装備を整えて「一の瀬」までのウォーミングアップに丁度よいゆるやかな上り林道を約一時間。小休止のあと、いよいよ急な登山道になりますが、黄金色に染まるブナ・シラカバ等の紅葉に元気づけられ、途中の「岩清水」の冷たい水で喉を潤し、一気に「三平峠」へ。振り返れば澄みわたった青空、赤・黄・緑の山なみ、遠くには日光白根山の雄姿も望める。

峠からは尾瀬沼を見下しながら下りてきて、沼畔「三平下」へ。さすが尾瀬、沢山の人達で賑わっていました。快晴の尾瀬沼に燧ヶ岳は惜しげもなく全容を誇示する。すばらしい眺めです。「三平下」からは沼を周遊する木道を歩いて沼尻方面へ。ウルシやナナカマドの赤色が湖面に影を落す。その先には「カルガモ」ものんびり秋を満喫しているようです。沼尻へ正午近くに到着、中食とする。

次の目的地は「長蔵小屋」です。左に燧ヶ岳を見上げ、右に尾瀬沼を眺め、林あり湿原ありの変化に富んだ楽しいコースです。周遊道から眺める燧ヶ岳は何処から見ても一枚の絵になっていました。燧ヶ岳への登山道「長英新道」との分岐点を過ぎると、やがて春から夏にミズバショウやニッコウキスゲが咲き競った大江湿原へ。今は褐色に燃えていました。



いくらか人影もまばらになった「長蔵小屋」に立寄り休憩、何度見てもすばらしい青空と燧ヶ岳と尾瀬沼の景色を脳裏に収め、沼に別れを告げて「三平下」から下山。紅葉のすばらしさと澄み切った空の青さ、生涯忘れる事のない山旅の一つとなりました。　（後藤記）

桐生倶楽部はぐるま句会

九月

ちろろ鳴く妻の遺せし日記帳　小池清水
覗き得ぬ人の心やちろろ鳴く　久保田本田
えんまとは不憫なことよちろろ虫　尾澤大槻
一冊を読みつくしけりこおろぎと　大槻尾澤
こだわりの消えて安らぐちろろ虫　本田久保田
ほどほどに芒のゆれて無人駅　清水吉成

十月

武人(もののふ)の発ちし基地跡木の実落つ　尾澤小池
通勤の帰路は刈田となってをり　小池清水
人影は見えず一筋刈田道　清水大槻
肌寒や忘れ去られし庭の椅子　大槻久保田
木の実落つ会話途絶へし日暮道　久保田本田
道祖神目立つ刈田となりにけり　本田吉成
木の実独楽輪に沿ひ並ぶランドセル

＝ 倶楽部だより ＝

【10月】
- 歩く会（11日）
- 理事会（16日）
- 秋季囲碁大会（24日）
- 月次会（26日）八木保太郎と小島の春　講師 延命立雄先生
- 歩く会世話人会（27日）
- はぐるま句会（29日）

【11月】
- 行事委員会（4日）
- 歩く会（8日）栗生山
- 理事会（10日）
- 桐生倶楽部80周年祝賀会（10日）
- 歩く会世話人会（24日）
- はぐるま句会（24日）

社団法人　桐生倶楽部会報　第108号
1998年（平成10年）　12月発行
発行人　塚越平人
編集責任者　小池久雄
印刷　ツボノ印刷株式会社

平成11年2月10日　　1999.　　第109号 (1)

社団法人
桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人　桐生倶楽部　TEL 45-2755

年頭の挨拶
「更に今年も頑張ろう！」

社団法人桐生倶楽部理事長　塚　越　平　人

明けましておめでとうございます。

今年の元旦は一寸風が吹きましたが、二日目からは和やかなよい日が続きました。

社員の皆さん、お健やかに越年なされたことと御慶び申し上げます。

昨年は、あまりよい年とは申せませんでしたが、唯一当社創立80周年を迎え、記念祝賀会を催し、多勢の社員諸兄の御参加を得て盛大に修了致しましたこと、何よりと存じております。

今年、81年を迎えますが、政府は曽てない多額の景気対策の資金を投入して居ります。これに対して民間が大いに活力を発揮、自助努力を結集して行かねばならぬ年と考えます。社員各位の一層の奮起を期待するものであります。

従来国全体が病魔に侵されていた状態ですが、政府の投与したカンフル的な財を得てこれからは民間の我々が自ら自分たちの経営基盤を建て直し、健康体を取り戻して総力をあげて世界の市場へ雄飛せねばならぬと存じます。

これには先ず、自らの体力を整えることは喫緊の要であることは論を俟ちません。どうぞ社員諸君、健康にご留意の上、お励み戴きたいと存じます。

新年互礼会

本年から桐生市の新年互礼会は廃止されることになった。しかし桐生倶楽部社員の新年互例会は戦前から長い間続いている伝統ある行事であり、本年も1月4日午後2時から、80名の社員の出席を得て盛大に開催された。

森理事の司会で開会、新入社員の紹介と、国家表彰、大臣表彰を受けられた下記の社員に銀杯の贈呈があった。

木　村　　光さん（通産大臣表彰）
森　　喜美男さん（黄綬褒章）
大　西　康　之さん（文部大臣表彰）
園　田　　昇さん（労働大臣表彰）

塚越理事長の挨拶のあと、社員代表として、日野市長、笹川代議士、岸田商工会議所会頭、近藤英一郎全国商工会連合会々長の祝辞があり、佐藤市教育委員長の乾杯で祝宴に入った。

桐生市長の祝辞

銀杯を受ける大西さん

佐藤教育委員長の乾盃

家族クリスマス祭

桐生倶楽部のクリスマス祭は、他の団体に先がけて12月6日（例年12月の第一土曜日）に開催された。いつもご家族、特に小さいお客様の多いのが桐倶のクリスマスの特徴である。全員で賛美歌を合唱し、聖書を朗読（森理事）するのも桐倶クリスマス祭の特色である。

次に須永由紀子さんのピアノ伴奏、山崎由紀子さんのソプラノ（ともに桐倶社員の奥様）による楽しいミニ・コンサート、乾盃の後はおいしいものを揃えて食事・歓談、サンタの登場、福引と続き、大好評のうちに終った。

賛　美　歌　合　唱

ミニ・コンサート

サンタクロースは佐藤理事

＝ 新入社員紹介 ＝

（敬称略）

[redacted]

桐生倶楽部はぐるま句会

十一月

晩鐘の絵のごと夫婦暮の秋　本田

来るたびに智恵増す童女小春かな　尾澤

初霜の光りし畑菜をすぐる　大槻

神の鈴鳴らせば銀杏散り急ぐ　小池

初霜や菰巻かれける苑の松　久保田

十二月

ともかくも恙無き日々年暮るる　久保田

十二橋めぐる水郷炬燵舟　本田

炬燵から指図せし父真似てみる　大槻

寂聴の源氏拡げし炬燵かな　小池

ひゃく数へ童跳び出る柚子湯かな　尾澤

主去りて甘き残り香置炬燵　吉成

＝ 倶楽部だより ＝

【12月】
- 歩く会世話人会（３日）
- クリスマス祭（５日）
- 理事会（10日）
- 歩く会12月例会（13日）
- はぐるま句会（24日）

【１月】
- 新年互礼会（４日）
- 歩く会１月例会（10日）
- 理事会（13日）
- 写真部会（13日）
- 監査会（25日）
- 歩く会世話人会（25日）
- はぐるま句会（26日）
- 臨時理事会（30日）
- 定時社員総会（30日）

【歩く会】　11月例会

11月８日、桐生川源流林を楽しく歩いた。梅田の山々（丸岩岳・熊鷹山）は紅葉の真盛り、好天に恵まれ気持のよい山歩きができた。

（参加者９名、担当 肥後・中里）

社団法人　桐生倶楽部会報　第109号
１９９９年（平成11年）　２月発行
発 行 人　塚　越　平　人
編集責任者　小　池　久　雄
印　　刷　ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

◎素顔の時間

フィトンチッドの香りのように

朝倉 泰

あさくら・ゆたか　昭和十八年、京都府生まれ。朝倉染布株式会社代表取締役社長。繊維産業の未来は可能性に満ちている、と熱い口調。桐生の食文化の豊かさの深い理解者であり、「仕事柄、遠来の客をもてなす機会が多いのですが、食事の場所で苦労したことはありません。みな喜んでくれます」という。

桐生倶楽部に関しては、具体的な活動はあまりなじまないのではないかと私は考えます。そうではなくて、森の中のかぐわしい香り、フィトンチッドのような存在であってほしいですね。自己主張はないけれど、ありがたい存在ということでしょうか。時代に流されず、世俗の垢にまみれない、遊びごころとかゆとりとかを大切にし、それでいて毅然たる態度を失わない。そうやって織り成してきたのが、桐生倶楽部の八十年の歴史と伝統だと思うのです。

定時社員総会

平成11年定時社員総会は、1月30日午後6時より二階大広間で開催され、満場一致で全議案が原案通り可決されました。

総会は森理事が司会。社員数355名の過半数の出席（委任状156名を含む）を総会成立を確認した後、堀越理事長が議長となり議事に入る。

第1号議案　平成10年事業概況報告（小池副理事長）

第2号議案　平成10年決算報告（関口理事）

第3号議案　会計監査報告（吉野監事）

第4号議案　平成11年事業計画及収支予算案（関口理事）

第5号議案　役員改選

（役員の任期は2年なので、今回は改選期に当ります。議長より役員候補者の氏名が発表され、全員異議なく賛成、新役員が決定しました。）

新役員

理事18名

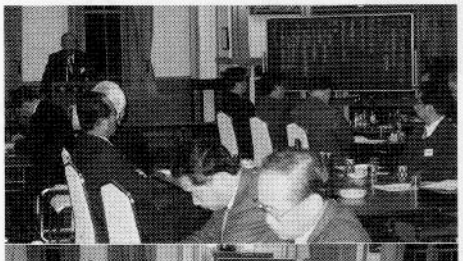
塚越平人、小池久雄、飯山清治、関口全之、矢野昭、藤江敏雄、野田友治郎、五十嵐健雄、佐藤富三、岸田英作、木島清、岸芳正、木村隆夫、森寿作、山口正夫、赤石清安、川村治朗（以上17名は再任）

阿部高久（新任）

監事2名

北川洋（再任）、園田昇（新任）

また、総会後の新理事会において正副理事長の互選が行われ、塚越副理事長、小池副理事長、飯山副理事長が再選されました。



定時社員総会

文化活動委員会

文化活動委員会全体会議

文化祭は5月7日(金)から9日(日)まで
ガーデンパーティーは5月9日(日)と決定

2月24日(水)、会館階上大広間で文化活動委員会全体会議が開催された。当日の出席者は38名、今までにない盛会であった。

五十嵐委員長のもとに議事がすすめられ、各部会の事業予定・予算が決定され、桐生倶楽部恒例の文化祭も5月7日(金)、9日(土)、10日(日)の3日間と決定。従ってガーデンパーティー、各競技の表彰は10日の午後となる。

各部会の正副部会長、担当理事、事業予定は下記の通り。

※1．今迄部会としては懇話会と21委員会が別箇にありましたが、両委員会の正副部長、担当理事が数回会合を重ね、両部会が合併し新懇話会として発足することになりました。

2．ビデオ部会は休部となります。

記

部会名	部会長(副部会長)	担当理事	事業予定
美術部会	保倉(渡辺)	佐藤・岸阿部	文化祭出品に力を入れる
懇話会	山鹿奈良・塚越(紀)	木島・小池	3月16日第1回懇話会
俳句部会	久保田(本田)	森・小池	月1回の例会　文化祭に色紙・短冊出品
麻雀部会	蓮(養田)	藤江(敏)・岸田・岸	文化祭協賛の大会を予定
囲碁部会	吉成(福永)	野田・小池	年に大会3回・春・秋・文化祭、他に毎週土曜日昼から夕方まで
ゴルフ部会	森田(石関)(川島)	五十嵐・関口・阿部	文化祭協賛の大会の他に秋1回
将棋部会	平野(平)(野田)	飯山・野田	文化祭協賛の大会を予定
歩く会	藤井(後藤)(村田)	小池・木島川村	平成11年度末までのスケジュールは完成
写真部会	森口(武井)	木村・塚越	年2～3回撮影旅行 年4～5回部会開催
音楽鑑賞部会	須永(藤井)	矢野・木島山口	5月のガーデンパーティ12月のクリスマス祭の音楽提供、他に室内楽の夕をやる

「歩く会」　2月例会

梅の南公園から茶臼山へ

2月14日(日)今月は落葉期のこの時期の山歩きには最適の山、八王子丘陵茶臼山を選びました。

定時9時桐生倶楽部に集合し恒例の記念撮影の後、ハイヤーに分乗し南公園へ（9：30)、先ずは足ならしの為ゆっくりと紅梅が咲き始めた公園内を一周して籾山峠へ（10：00)。立派な道標のある登山口からよく整備された段々状の山道を一気に登りつめると展望が開け、冬枯れの雑木林の中、あちらこちらに春の気配が感じられる気持ちよい尾根道となる。やがて進むと太田金山城北の砦、古井戸跡に往時を偲びしばし休憩、更に一登りで八王子山の山頂へ、360度の展望は実にすばらしい。

茶臼山はすぐ目の前に見えるが、いったん下って階段状の道を登りつめると電波塔の聳える山頂広場へ（10：40～11：00)。眼下には阿佐美沼、桐生市街地、その先には赤城山、袈裟丸山、鳴神山、根本山、熊鷹山、仙人岳等々、後方に目を転ずれば関東平野、丹沢山塊、秩父の山々、八ヶ丘、荒船、雪に輝く浅間山、妙義山、榛名山、谷川連峰等々枚挙に暇がない。

下山は一度鞍部まで戻り、道標の一木口から間もなく樹徳高校のグランドへ、ここからは舗装道となり50号バイパスを横切り新桐生駅前へ（11：50)、バスの発車時刻まで少々間があったので予定を変更して街中を歩いてみる事にしました。普段では目に付かない変った桐生を発見する事が出来たりと楽しい語らいの中、本町5丁目に到着（12：40)。 山の話、よもやま話に盛り上がった昼食会で本日の「歩く会」の最後をしめくくりました。(約1万5千歩)

尚、「歩く会」では今後もなるべく近場の四季折々の自然に触れながらのふる里の山を取り上げて行きたいと思っておりますので、多数の方々の参加をお待ち致しております。(後藤記)

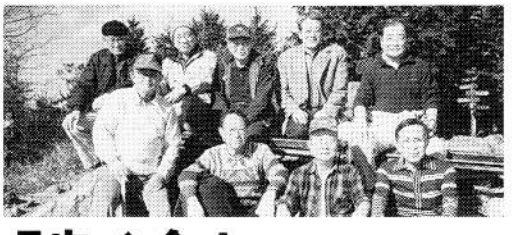
茶臼山からの展望

本文中に、茶臼山頂からの素晴らしい展望の説明があったが、次のページにその写真を大きくのせたので、お楽しみ下さい。

「歩く会」　1月例会

新春初登り吾妻山

平成11年の初例会は1月10日(日)9時、吾妻公園駐車場に集合して吾妻山へ登った。



「歩く会」　3月例会

マンサクの咲く仙人ヶ岳から梅香る梅田塩瀬の里へ

3月例会は7日(日)8時、桐生倶楽部集合、ハイヤーに分乗して岩切登山口まで、ここから歩き出し、生満不動、仙人ヶ岳、前仙人（中食）、塩の宮神社を経由して、橋場橋で解散。

茶臼山から小手を翳せば…

南の太陽に顔
私たちの古里を
始まりであるこ

を向け、東京ばかりを眺めていないで、時には北風に顔をさらしてみよう。
包み込む奥深い山の連なりと、川の流れ。その風景は、このまちが関東平野の

アンケート回答の集計

過日、桐生倶楽部として初のアンケートを、社員の皆様にお願い致しました。発送数358通、回答数182通で、回収率50.8%でした。ご協力に深く感謝申し上げます。有難うございました。以下その結果を報告致します。

(1)桐生倶楽部の魅力はどこにあるのでしょうか。
（回答はいくつでも結構です）

A．社員同志のつき合い　(111人)
B．桐生倶楽部会館　(80人)
C．趣味の部会　(58人)
D．伝統と歴史　(105人)
E．その他（一言書いて下さい）

※E項については記載が少かったので、(4)の倶楽部についてのご希望、ご意見の中に一緒にしました。

(2)桐生倶楽部の規約には女性入会の制約はありませんが、現在まで女性会員は皆無です。
女性会員の入会をすすめるべきかどうかお伺いします。

A．女性会員の入会をすすめるべきだ　(75人)
B．いままでの伝統を守って女性の入会はすすめるべきではない　(34人)
C．いくつかの条件をつけて女性会員の入会を認めるべきだ　(58人)
D．分らない　(46人)

(3)は文化活動委員会の中の12の趣味の部会への入会希望を書いていただきました。その結果は7ページの一覧表の通りです。
なお新しく作って欲しい部会の要望は下記の通りです。

イ．自ら作品は手がけないが、名画を語り合う「絵画鑑賞部会」
ロ．茶道部会
ハ．道の付く部会、例えば茶道・華道・武道（柔道・剣道・合気道その他）
ニ．釣り部会
ホ．コンピューター部会（初心者に丁寧に指導してくれること。）

(4)その他倶楽部についてのご希望、ご意見がありましたらお願いします。

これにつきましては、40人の社員から、建設的なご意見をいただきました。

以上のアンケートの結果につきましては、理事会として慎重に対応を考えております。
(2)については、もう少し時機を見ては —という理事会の意見でした。
(4)については今後の運営に大変参考になる貴重な意見が多く、できるものから手をつけて行きたいとのことでした。
以上とりあえず御礼とご報告まで。

第4回
桐生倶楽部室内楽の夕べ

桐生倶楽部音楽鑑賞部会（須永恒雄部会長）は、3月11日(木)午後6時半より2階広間において、第4回の室内楽の夕べを開催した。出演はプロテウス・カルテットで、これは群馬交響楽団のコンサートマスター風岡優氏を中心に結成されている弦楽四重奏団で、メンバー全員が群響で活躍している。演奏曲目はハイドンのセレナーデ（全楽章）他モーツァルト・ドヴォルジャークの作品など。休憩時間にはワインやコーヒーのサービスもあり、75名の参加者はゆっくり室内楽の一夜を楽しむことができた。それにしても倶楽部2階の広間は室内楽をきくには、ぴったりの素晴らしい雰囲気だと、参加者は皆さん口を揃えておられた。

文化活動委員会（趣味の部会）

平成11～12年度

美術部会

阿部高久
五十嵐惇和
金子匡男
川島忠昭
岸　芳正
佐藤富三
須賀武次
保倉一郎
渡邉　保

懇話会

赤石清安
新井康友
飯山清治
五十嵐健雄
池田英二
糸井京三郎
岩田俊光
遠藤俊一
大西康之
大森貞夫
尾島金吾
カナイ石油
川田幸一
河原井ホンダ
岸田英作
木島　清
北川貞彦
木村　光
小池久雄
小島康義
小島幸雄
佐藤富三
清水信次
下山進平
曽我　悟
塚越紀隆
柘植洋二
奈良彰一
藤井龍人
藤江敏雄
船越和夫
本田孝太郎
松島宏明
丸山正一
水越俊幸
宮地由高
茂木　浩
森　寿作
森口二郎
山鹿英助
山上喜一
吉成敏郎

俳句部会

有阪昌治
遠藤勝久
大槻圓次
大西康之
尾澤弘一
久保田裕一
小池久雄
清水信次
寺田雅弘
本田孝太郎
森　寿作
吉成敏郎
宮地秀吉

麻雀部会

安達修二
飯山順一郎
飯山清治
遠藤俊一
川口幸一
川島忠昭
岸田英作
岸　芳正
北川　洋
桐生建設㈱
腰塚　誠
小島幸雄
小林宏至
笹川勝正
清水邦彦
須永博之
寺田雅弘
富永幸夫
蓮　直孝
藤江敏雄
丸山正一
宮地由高
村岡正治
八木橋祥价
養田　隆
米田籌穂

囲碁部会

遠藤勝久
カナイ石油
金子　進
倉林俊雄
小池久雄
越塚　誠
田中義弘
田村　寛
寺田雅弘
新見祐三
野田友治郎
日野近七
福永儀一
水谷安男
山上喜一
吉成敏郎

ゴルフ部会

朝倉富美夫
朝倉　泰
安達修二
阿部高久
飯山順一郎
五十嵐健雄
石関二六
NTT桐生
大澤英夫
尾島金吾
金子　薫
金子匡男
川島忠昭
川島康雄
北川　洋
木村滋洸
木村俊一
木村隆夫
倉林俊雄
小島幸雄
佐藤剛司
篠田　久
清水邦彦
須藤誠吾
関口全之
竹内晴夫
寺田雅弘
富永幸夫
中野隆雄
新見祐三
福田英雄
福田博重
船越和夫
増山公男
松島　巌
村田伊弘
森田良徳
八木橋祥价
山崎一順
山崎達也
山本作幸
養田　隆
吉田　章
吉田博次
坪野恵治

将棋部会

飯山清治
カナイ石油
木村俊一
腰塚　誠
酒井　豊
田中義弘
出口孝二郎
野田友治郎
平野平四郎

歩く会

阿部高久
阿部富圭
天川　洋
新井康友
有阪昌治
飯山順一郎
五十嵐健雄
五十嵐正雄
石関二六
泉　明嘉
海野正男
江原　毅
江原　満
遠藤勝久
太田享文
大森貞夫
尾澤弘一
金谷欣三
金子　薫
狩野喜範
川島忠昭
川村治朗
木島　清
北川貞彦
木村滋洸
木村俊一
倉林俊雄
小池久雄
小島幸雄
後藤久夫
笹川勝正
佐藤剛司
佐藤富三
篠田　久
清水直樹
下山進平
須賀武次
曽我　悟
竹内晴夫
舘　盛治
田中一男
田村　寛
塚越平人
柘植洋二
寺田雅弘
富永幸夫
中野隆雄
丹羽武雄
野田友治郎
平田耕市
平野平四郎
廣田博司
福永儀一
藤井龍人
船越和夫
保倉一郎
星野幸一
星野精助
前原貞勝
松島　巌
丸山正一
三田一郎
宮地秀吉
向田　進
村井信一郎
村田豊樹
茂木　巌
茂木　浩
森口二郎
山口正夫
山根恒利
山本作幸
吉田　章
吉田博次
吉成敏郎
吉原忠男
渡邉　保
渡辺　輝己

写真部会

足利銀行桐生
五十嵐健雄
石関二六
江原　毅
江原　満
大西康之
尾澤弘一
川島忠昭
木村隆夫
後藤久夫
佐藤剛司
佐羽秀夫
武井正充
田中暉
塚越平人
坪井良広
藤井龍人
村井信一郎
茂木　巌
茂木　浩
森口二郎
森田良徳
吉成敏郎
吉原忠男

音楽鑑賞部会

朝倉　泰
阿部富圭
阿部光作
荒木揚壱
粟田昭三
五十嵐健雄
石関二六
太田享文
大槻圓次
金子匡男
川島忠昭
木島　清
暮田禎一郎
小林宏至
佐藤富三
須賀武次
須永恒雄
曽我　悟
竹内靖博
丹羽　泰
馬場　功
平方敏郎
藤井龍人
フジハツ工業
前原　勝
村田豊樹
矢野　昭
山口正夫
山崎一順
吉成敏郎
吉原忠男
五十嵐正雄

※この名簿に欠落がありましたら事務所までご連絡下さい。

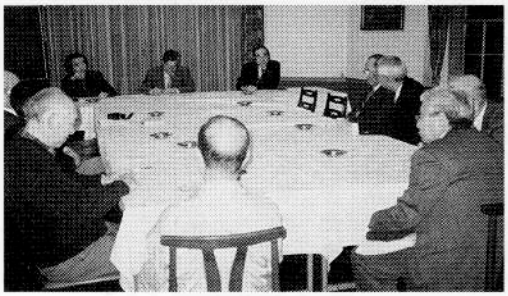
＝ 新入社員紹介 ＝

（敬称略）

[redacted]

新懇話会第１回例会

従来の懇話会と21委員会が合併した新懇話会の、第１回例会が３月16日（火）７時から１号室で開催されました。山鹿部会長、塚越（紀）・奈良両副部会長はじめ、12名の出席。「雑談の中に本質を見る」と考え、今日的問題を分野にこだわらず自由に語り合うことを目的に集ることとし、次回は多数の会員の出席を期待しております。



安 吾 忌

「安吾を語る会」主催、桐生倶楽部懇話会共催の「安吾忌」を、２月27日（土）６時半から桐生倶楽部階上で開催、今回は坂口安吾のご子息坂口綱男氏を迎へ、同氏のエッセイ集「安吾と三千代と40の豚児と」の出版祝いも兼ね50名の参加者があり盛況であった。

桐生倶楽部はぐるま句会

一　月

寒に入る欅の根張り逞しく　小池
熱燗や聞かでものこと聞かされし　小池
大漁旗立てし船首に松飾　本田
酔覚めの六腑にしみる寒の水　本田
松過ぎてもとの二人の朝餉かな　大槻
梢の葉ひとつ残して寒に入る　大槻
父母なきも鑑梅咲けり荒庭に　久保田
松飾休診の札並べ置く　久保田

二　月

絵手紙に丹精込めし君子蘭　尾澤
早春を先取る彩や花市場　本田
退院の居間に陽のある君子蘭　久保田
くわんのんの慈眼揺るがず寒厳し　小池
髪飾り揺らせて舞妓京の春　大槻
影ふたつ陽だまり歩く余寒かな　有阪
通夜の列吹きぬけゆきし余寒かな　吉成

＝ 倶楽部だより ＝

【２月】
- 理事会（12日）
- 歩く会２月例会（14日）
- 懇話会話し合い（16日）
- 歩く会世話人会（22日）
- 文化活動委員会（24日）
- はぐるま句会（26日）
- 懇話会「安吾忌」（27日）

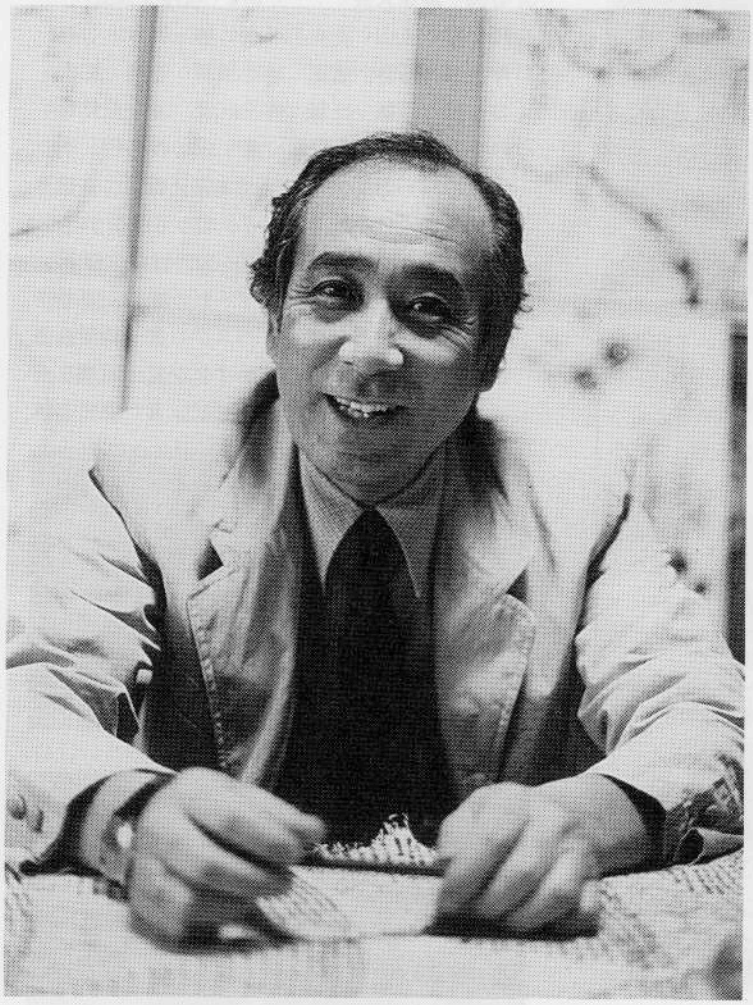
【３月】
- 歩く会３月例会（７日）
- 理事会（８日）
- 音楽鑑賞部会「室内楽の夕べ」（11日）
- 歩く会世話人会（15日）
- 懇話会（16日）
- ３月月次会（25日）
  「エネルギーと情熱あふれる街桐生」
  講師：デボラ・アン・ディスノー
- はぐるま句会（29日）

社団法人　桐生倶楽部会報　第110号
１９９９年（平成11年）　４月発行
発 行 人　塚 越 平 人
編集責任者　小 池 久 雄
印　　刷　ツボノ印刷株式会社

平成11年6月10日　1999.　第111号　(1)

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



◎素顔の時間

まちの「個性」に誇りをもちたい

北川 紘一郎

きたがわ・こういちろう　昭和十五年生まれ。北川設計所長。本町一、二丁目近代化遺産の活用、ファッションタウン事業、またユネスコ運動の拡大がいまは関心事であり、自身の活動のテーマだ。趣味は楽器。「桐生倶楽部の一社員としては、軽音楽演奏愛好者グループができるといいと思っています」

「活用こそ保存だ」という村松貞次郎・東大名誉教授の言葉に目覚め、近代化遺産を考えるようになりました。気づいたんです、これこそ桐生の個性なんだと。桐生は日本の近代化を牽引してきたまちです。新しいものをどんどん取り入れ、当時からここには情報の世界的な広がりがあった。桐生倶楽部の洋風の会館などは、まさにその象徴でしょう。それもすべては織物の力です。その底力はまちの形として、市の重みとして、いまも脈々と息づいている。個性に誇りをもちたいですね。

第25回 桐倶社員文化祭

桐生倶楽部社員による恒例の文化祭も、本年は25回を迎え、5月7日(金)、8日(土)、9日(日)に開催された。3日間とも好天に恵まれ、沢山の来会者で賑わった。

最終日の9日(日)は4時から家族ともどものガーデンパーティー。席上各競技会の入賞者の発表、賞品授与が行われた。今年のミニコンサートはマミー・コーラス（東小ＰＴＡの関係者）の出演、仲々趣向をこらして大変楽しく聞かせてくれた。

また、ガーデンパーティーに間に合うように東屋（あずまや）が立派に新築された。

文化祭協賛行事及催物一覧

絵画展	5月7日～5月9日 AM10:00～PM5:00	於広間	
写真展			
陶器展			
俳句色紙展			
ガーデンパーティー	5月9日 AM4:00～	於庭園	ミニコンサート マミーコーラスの皆様（東小ＰＴＡを中心としたグループ）
囲碁大会	4月29日 PM10:00～	於6号室	
将棋大会	4月24日 PM5:00～	於6号室	
麻雀大会	4月30日 PM6:00～	於くすのき	仲町3-7-18
ゴルフ大会	5月2日 AM9:12～	於赤城CC	
俳句会	4月27日 PM7:00～	於2号室	
歩く会	5月16日 利平茶屋～鳥居峠		雨天中止

各部門の出品者

(絵画) 保倉一郎・渡辺　保
(写真) 塚越平人・森口二郎・五十嵐健雄
藤井龍人・後藤久夫・蛭間利雄
武井正充・川島忠昭・江原　毅
保倉一郎・須藤正夫・曽我　悟
(俳句色紙・短冊)
久保田裕一・本田孝太郎・小池久雄
森　寿作・大槻圓次・尾澤弘一
吉成敏郎・有阪昌治
(陶芸) 川島忠昭・須賀武次
(染手織) 尾澤弘一

各競技の入賞者

4/20　囲碁大会

優　勝　倉林　俊雄
準優勝　田中　義弘
1　位　吉成　敏郎

4/24　将棋大会

優　賞　岡田　光弘
準優賞　野田友治郎
参加賞　平野平四郎

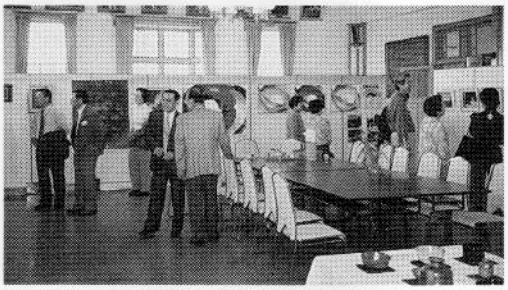
4/30　麻雀大会

優　勝　丸山　正一
準優勝　石井　省三
3　位　腰塚　誠

5/2　ゴルフ大会

優　勝　朝倉　泰
準優勝　石関　二六
3　位　五十嵐健雄
4　位　長谷川　正
5　位　森田　良徳
7　位　山本　作幸
10　位　上野　武男
ブービー賞　川島長子
ベスグロ賞　森田良徳
ニアピン賞　石関二六
ニアピン賞　森田良徳

上記以外の囲碁大会出席者名
野田友治郎・岡田光弘
田村　寛・日野近七
福永儀一・金谷利夫


社員の力作が並ぶ会場

ガーデンパーティー

ミニコンサート

月次会報告 【3月】

クリエイティブなエネルギーと情熱あふれる街桐生

講師　デボラ・アン・ディスノー

3月月次会は、桐生での映画撮影を予定している演出家・女優のデボラ・アン・ディスノーさんが「クリエイティブなエネルギーと情熱あふれる街桐生」をテーマに講演。同僚で俳優の斎藤敏弘さんとともに、桐生の魅力について語った。

デボラさんは日本演出家協会で初めてかつ唯一招かれた外国人演出家。米国ボストンやニューヨークで女優としてのキャリアを築き、80年に来日して能役者の観世栄夫氏に師事。以後米国と日本を行き来して舞台やテレビでの活動を積極的にこなしている。

桐生には一昨年、有鄰館で行われた「チェコ・リトアニア・日本現代版画展」のパフォーマンスのため初めて訪れた。それ以来「過去と現在が混在するまち＝桐生」としてすっかりほれ込み、機会あるごとに来桐しては地元の芸術家らと交流を重ねるなど関係を深めている。

倶楽部では、感性ある外国人の目から桐生の自然や街並み、人々がどう見えるか、これから桐生はどうあるべきかといったことも再発見する機会としてこの講演会を企画、より多くの人に聴いてほしいと一般にも公開し、学生らを含めて約百人が聴講した。

（担当理事　佐藤・山口）

デボラ・アン・ディスノー

月次会報告 【4月】

「重要伝統的建造物群」と繊維産業

講師　森山　亨

4月月次会は26日6時半から、地場産業振興センターの森山亨専務を講師として上記のテーマで開かれた。森山講師の話のあと、参加者を交えてディスカッション方式で意見交換を行った。

森山さんは「桐生の伝建群（重要伝統的建造物群）」近代化遺産は国レベルでも貴重な存在だということが明らかになっているが、建物だけでなくもっと広い文化的歴史的意味を持っている」と切り出した。

繊維産業を通して日本の近代化を支えたのが桐生であり、発電所・水道施設・鉄道・レンガ製造・街割りなど総合的に発展した。コンピューターのもとになったジャカードや化学染料の技術をいち早く取り入れ、横浜とのシルクロードを逆流してキリスト教や自由民権思想、英語教育、洋風ライフスタイルなどが入ってきた。そして問題を抱えながらも、最も活力のある繊維産地として今も生きて存在するまちである、と。

また「日本のファッション産業、繊維産業は大きな曲がり角に来ている。中小企業は量産ではなく心のこもったローテク、クラフト的オリジナル製品を自分で企画、生産、販売するＳＰＡ型が生き残りの道であり、地域も外側は伝建群、内側はＳＰＡの集積としてはどうか」と提案。「製造、販売、消費が同じ場所で行われることがファッションタウン」といい、ファッションタウン化構想や観光協会、行政の総合計画との整合性も必要だと語った。

伝建群の工房化により桐生の文化、技術、そして伝統の香りのなかから新しいものが生まれ、そこで売るシステムができれば、「全国一のまち」の栄光の復活も夢ではないと力強い言葉でしめくくった。

（担当理事　藤江・森）

桐生倶楽部はぐるま句会

三月

春泥に路ゆずらるる初老かな　尾澤
春泥をこぼしつ帰る耕耘機　本田
鳥曇佐渡も弥彦も顔見せず　久保田
囀や登りつめたる物見跡　遠藤
家並古る姫街道の陽炎へる　小池
春泥の小道終りて身繕い　森
陽炎ひて谺も揺れる昼下り　吉成
鳥雲に幼訓染の野辺送る　宮地
白木蓮の花びら奪りし夜の風　大槻
春泥や高原の馬場馬駆ける　有阪
餌台に双つ影あり鳥曇り　塚越

四月

残り香のたゆとう茶室花曇　吉成
花曇こんぴら歌舞伎幟立ち　本田
花曇雪洞並ぶ大手門　久保田
芽立ちたる楓たちまち形なす　大槻
落椿ひねもす雨の城跡かな　遠藤
馬の目の優しさに会ふ花曇　有阪
麗かや寂聴源氏ひもとけり　小池
定年といふ名の区切花曇　尾澤
荒れし庭人を招きしつつじかな　森

はぐるま句会のメンバー

懇話会4月例会

懇話会4月例会は、昭和11年制作の映画「伸びゆく織都」（ビデオ化したもの）を観賞し、そのあと映画にうつった古い桐生の様子について話し合った。この映画は両毛新聞社とハマプロが制作した桐生の宣伝映画で、昭和11年末桐座で一般公開されたもの。当時の織物工場・整理工場・買継商・日本絹撚・織機製作工場・駅・寺・神社・病院等と、様々な人物も登場。大切貴重なフィルである。（出席者15名）

【歩く会】　4月例会

歩く会の4月は、多摩森林科学園を歩き、皆さん2度目のお花見を楽しんだ。7時半バスで桐生倶楽部出発、関越道を通って多摩森林科学園へ、中食後徒歩で近くの武蔵御陵へ詣でた。

（担当　宮地・藤井）

＝ 倶楽部だより ＝

【4月】・理事会（9日）
・歩く会4月例会（18日）多摩森林科学園
・歩く会世話人会（19日）
・行事委員会（20日）
・懇話会例会（20日）
・将棋部会（24日）文化祭協賛将棋大会
・4月月次会（26日）「重伝建群と繊維産業」
・はぐるま句会（27日）
・囲碁部会（29日）文化祭協賛囲碁大会
・麻雀部会（30日）文化祭協賛麻雀大会
於：くすのき

【5月】・ゴルフ部会（2日）文化祭協賛ゴルフコンペ
於：赤城カントリー
・文化祭（7～9日）作品展
・ガーデンパーティー（9日）於：倶楽部庭園
・理事会（10日）
・歩く会世話人会（13日）
・歩く会5月例会（16日）（赤城山）雨天中止
・はぐるま句会（28日）

＝ 退社社員 ＝

（敬称略）

川口幸一、増山作次郎（死亡）

社団法人　桐生倶楽部会報　第111号
1999年（平成11年）　6月発行
発行人　塚越平人
編集責任者　小池久雄
印刷　ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

◎素顔の時間

20周年の歩く会 2000年、200回めざす

藤井 龍人

ふじい・たつんど　昭和三年生まれ。仲町二丁目。子どものころ、自宅と塀一つ隔てた桐生倶楽部の庭が遊び場だった。「一面クローバーの草地で、杉板の塀に沿ってプラタナスが植わっていた」と、当時の記憶は実に鮮明だ。桐生青年会議所を経て社員に。もう三十年を超えた。

異業種の人びとの社交の場として、これからも変わらずにいてほしいと思います。私の場合は、小池久雄さんの発案もあって、ブームの先駆けとして歩く会をずっとやってきました。最近は参加者が先細りしているのが気がかりですが、来年は二〇〇〇年、二〇〇回、二〇周年の記念の年を迎えますので、これに向けて準備中です。最近は女性の社員をという声もあるようですが、家族参加で道は開かれているのだし、一つくらい女性のいない会があってもいいのではないでしょうか。

月次会報告 【6月】

各種ワインの飲み方、味わい方

講師 粟 田 詔 昭

6月月次会は日本人の食文化との相性を深めつつあるワインをテーマに、酒のアワタの粟田詔三さんが「飲み方、味わい方」のコツを伝授した。

食卓で、またレストランで、ワインをより豊かに楽しむために心得ておきたいことがある。粟田さんはこれを、原料との結びつきが大変に強いワインという醸造酒の特性、栓の抜き方の手順、貯蔵の仕方、色と香りの味わい方と試飲方法、料理との相性、レストランでのワインの飲み方の6点に絞り、じっくり解説。いつもなら食事を終えての講演となるが、この日はワインの実践講座とあって同時進行となり、また、社員の家族として女性も多数加わって、会場はなごやかムード。参加者のテーブルには、フランス4本、ドイツ、イタリア、チリの赤白合わせて7本のワインと、フランスパンなどの軽食が用意され、粟田さんの軽妙な話にものせられて、スタートからどのテーブルも上々の盛り上がりを見せた。

「レストランでは料理の半分の値段がオーダーの目安です。二人で1万円なら5千円くらい。手順に慣れてきたら、さりげなくセパージュ（ぶどうの種類）を尋ねてみてください。お店はきっと緊張するでしょう」。心豊かに、スマートに、ワインがもつ文化の深みにふれながら、50人の参加者は、2時間をゆったりと楽しんだ。

月次会報告 【7月】

想像超える大問題!!あと5カ月後 コンピューターは？

講師 中 川 一 郎

「解決の道は共生の思想であり、ヒューマニティーが試されるのだと思います。」――7月の月次会は、関心の高まるコンピューター西暦2000年問題についての公開講座。講師の中川一郎さんは「何よりもまず正しい理解が大切。みなさんで話し合い、知恵を出し合うことです」と訴えた。

コンピュター2000年を1900年と誤認してさまざまな影響を引き起こすと指摘されているこの問題に関し、中川さんは現在、全国で講演活動を行っている。電気や水道といったライフラインがとまったときに、私たちの生活に何が起きるのか。その影響が世界で起きたときエネルギーや食糧を輸入に依存している日本はどうなるのか。また、コンピューターに支えられている医療、流通システムはどうか。コンピューター大国でありながら、アメリカに比べて格段に対策が遅れている日本の現状を説明した中川さんは、「何が起こるかだれにもわからないことだが、ただしこれは想像とか予言ではなく、科学的に起こり得る可能性として、対応を考えていかねばならない」と語りつづけてきた。「理解はしていないが、どうやら深刻そうだ」と、この2カ月くらいで日本人の意識も随分変わってきたという。

中川さんによればこの問題のとらえ方として大切なのは、一つの地域、一つの国でどうにかなる問題ではないという点で、自分だけ生き残ろうというサバイバルの考え方は通用しない、と。さらに私たちが2000年問題に抱く不安の根は、人と人を結びつけてきたものがモノであり金でありコンピューターであるという価値観のごまかしからきているとし、語り合い、心構えをすることによって、「人間性に基づく本来のつながりが試されることになる」と結んだ。当日は大城龍昭さん、永野裕紀乃さんも講演に立ち、このあと約50人の参加者と質疑応答が繰り広げられた。

【歩く会】　6月例会

西野内和紙の里と袋田の滝

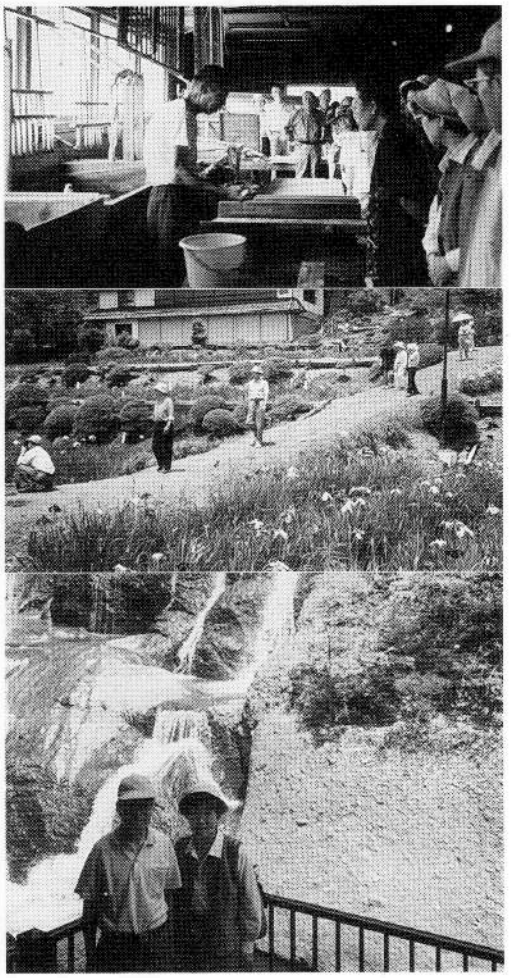
6月の「歩く会」は久慈川渓谷の旅。総勢36名。大型バスはスキスキ。定刻6時半に桐生倶楽部を出発。途中結城ツムギセンターにて小休止し、笠間から50号と分かれて118号へ。山方町に入ると久慈川の清流が近づく。運転手が西野内和紙資料館を尋ねると、教えてくれた人が余程土地のことに詳しい人だったのか、バスはUターンすることを心配しながらどんどん山の中へ入って行く。着いた所は、昔から和紙を漉いている菊池さんの作業場で、渓流に面した一軒家であった。中で仕事をしていた当主一男氏に声をかけ、紙漉き工程を見せてもらうことにして全員を案内する。和紙の糊材は昔ながらのトロロアオイが最適なので使用しているが、夏は腐り易いのでその防止にクレゾールを使っているとのこと、入った時から小さな工房内に消毒臭が充満していたのはその為であった。紙漉きを一通り見学させてもらい、帰りには各自手漉き和紙の葉書をお土産にいただいてバスに戻る。

予定外のところで時間を費したが、歴史と伝統を持つ職人わざに接する機会を持てたことは貴重な経験であって社員一同満足したことと思う。折角なので少し戻るが、菊池さんの和紙を販売しているお店へも寄る。大勢で一度に訪れたので店は混雑し包装など間に合わぬ状態であった。それでも思い思いに紙や製品を手にし、喜々としてバスに戻ってくる。

次の長福寺も118号線沿いにあり、同駐車場に入れて菖蒲園へ下りて行く。電話でも、植換えしたので今年は入園料200円とのこと。花は丁度見頃であったが、如何にも量が少く淋しかった。以前の見渡す限りという印象に復活するには、五・六年も待たねばならぬだろう。

最後の見学地袋田の滝も118号線から少し右手に入った所、数軒の温泉旅館を抜け、門前町のような家並の入口に駐車。昼食を含めて時間はたっぷりある。多くの社員は滝見をしてから昼食と決めたらしく、三々五々滝川の右岸に沿ってお土産屋の軒をくぐって滝に向う。100円の木戸銭を払ってトンネルに入って行く。途中不動尊が祀られている。明るく飛び出した所が観瀑台で、四段になって落ちる全体が眺められる。上の集落の田に水を取られている為か水量はやや乏しい。それでも四度の滝の別名を持つ日本三名瀑の一つは壮観である。誰でも手軽に訪れることの出来る地の利がこの滝をなお有名にしているのであろう。帰りは吊橋を渡り左岸の道を辿る。川を亘る風が心地よい。丁度昼時なので食べ物屋はみな混んでいる。観光地ゆえ味に期待を持てないが、一應名物と言われている山菜そばで昼を済ます。冷たい水の方が美味かった。まだ時間があるので一軒一軒土産屋を覗いて廻るが珍しい物はなかった。滝一つでこれだけの人が遊びに集って来るのだから滝様々である。2時集合。帰路は大子町から馬頭・小川・喜連川を通り、矢板ICから高速道を経由して桐生に帰る。好天に恵まれ順調に回われて一時間も早く5時少し過ぎには桐生倶楽部に到着する。

参加者36名　　(藤井龍人)



懇話会６月例会

棟方志功の隠されたエピソード

講師　近 藤 京 嗣氏

講師の近藤京嗣氏は、栃木市在住の民芸評論家・陶芸家・栃木市茶華道協会々長。主な著書に、東日本民芸の旅・栃木県の民芸・探訪日本の陶芸その他多数。

若い頃から柳宗悦に私淑し、民芸運動に参加し、棟方志功・河井寛次郎・浜田庄司などと親交があった。そんな縁で昭和30年ごろ棟方志功を芭蕉へ案内。志功は芭蕉とその経営者小池魚心に共鳴し、その場で絵の具をとり出し壁画を描かれた。

そんなエピソードに始まり、志功の初期の作品も持参され、魚心所蔵の作品ともども説明をされた。

また氏は「蔵のまち」栃木の町づくりにもかかわった方で、たまたま５月に栃木市茶道会の一行32人とともに来桐、桐生の文化スポットを回ったことがあった。その時の印象を語り、桐生は大変素晴らしいものをもっている。特に有鄰館・彦部屋敷を賞賛していた。

（参加者18名）

＝ 新入社員紹介 ＝

[redacted]

桐生倶楽部はぐるま句会

五月

農知らぬ子等の増えたり麦の秋　尾澤
病室に二人で汲みし新茶かな　小池
二荒の夏を睨みて仁王立つ　吉成
新茶淹れ母の忌中の佛壇に　本田
麦秋の峡に傾き過疎の村　久保田
牡丹のはらりと散りし雨模様　遠藤
馬憩う緑の牧場麦の秋　有阪
透ける葉の揺れて夏の陽雫しけり　大槻

六月

短夜や産声未だ聞こえざる　久保田
短夜の夢に未練を残しけり　小池
苺つぶしあくまで白を切るつもり　本田
無人駅無賃乗車の蠅と降り　尾澤
蠅取紙朝陽に揺れて山の小屋　吉成
車中一泊観光バスの明け易し　大槻
蠅群れてアフリカの子等亦哀れ　有阪

＝ 倶楽部だより ＝

【６月】
- 理事会（７日）
- 歩く会６月例会（13日）
  「花菖蒲の寺と袋田の滝」
- 歩く会世話人会（21日）
- ６月月次会（22日）
  「ワインの飲み方、味わい方」
- 懇話会（24日）
- はぐるま句会（29日）

【７月】
- 理事会（７日）
- 歩く会７月例会（25日）
  「こまくさの咲く草津本白根」
- ７月月次会（26日）
  「想像を超える大問題!!2000年まであと５ヵ月」
- 懇話会（28日）
- はぐるま句会（29日）

＝ 退社社員 ＝

（敬称略）

大木一郎・山崎達郎・海老沼利八

社団法人　桐生倶楽部会報　第112号
１９９９年（平成11年）　８月発行
発 行 人　塚　越　平　人
編集責任者　小　池　久　雄
印　　刷　ツボノ印刷株式会社

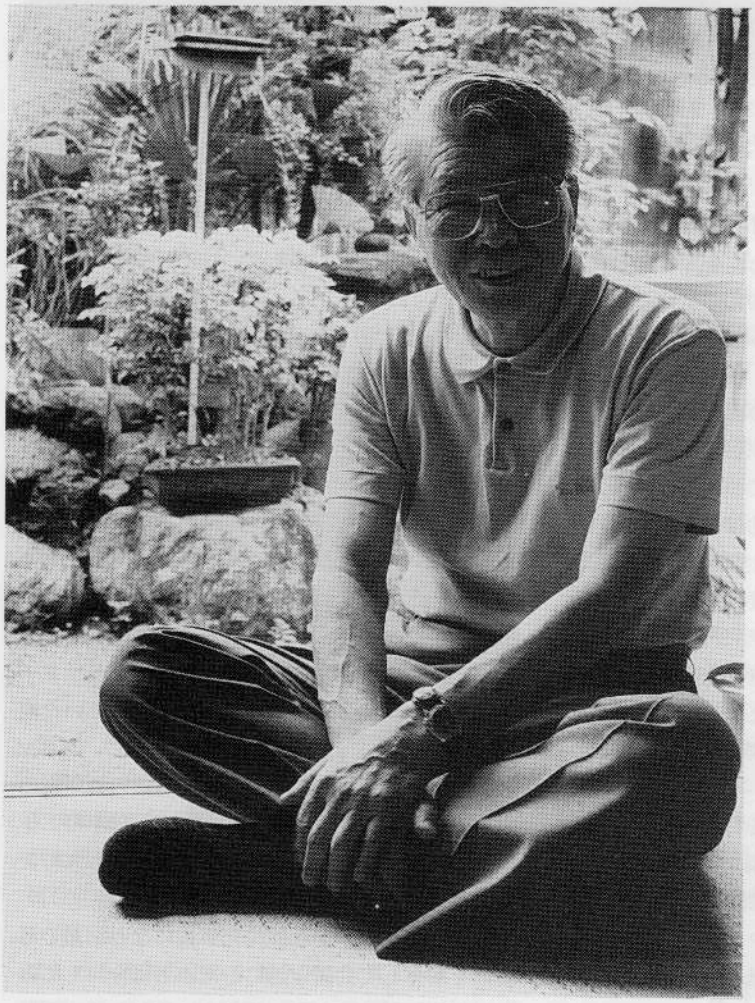
桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人 桐生倶楽部　TEL 45-2755

◎素顔の時間

継続には若い力「もっともっと」

後藤 久夫



ごとう・ひさお　昭和三年、栃木県小俣町生まれ。終戦後、東四丁目の現在地に文具店を開業し、以来四十五年、小中学生の登下校の行き合いを静かに見つめてきた。「子どもの数が本当に少なくなりましたね」と、実感を込めて。丹精の盆栽、使い込んで磨き上げた調度類、暮らしの中に継続の力が光る。

中年を過ぎて始めた山歩きが縁で、倶楽部の社員になりました。歩く会と写真、いまはこの二つの活動を自分なりに一生懸命やっています。ですけれど、たとえば歩く会の行事などにはかつてのにぎわいがなくなり、少しさびしい感じがしています。やはり若い人たちに引き継がれていくようにならないと。伝統ある社交の場、そこにさまざまな機会が提供されているのですから、もっともっと利用してほしいし、参加してほしいと思っています。

月次会報告

【九月】歩く会

古都松本をゆったり一日

桐生倶楽部の歩く会は９月の月次会を担当し、松本市の中心街の散策を計画した。９月12日午前６時30分桐生倶楽部を24名の参加者で出発。

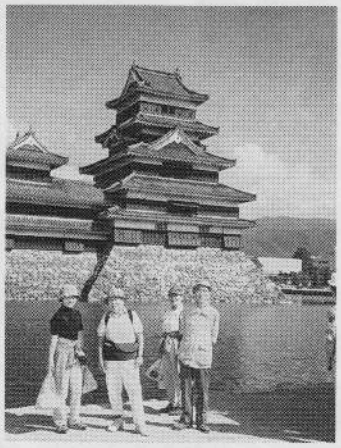
松本市内をゆっくりと見学することを目的としたため途中松本民芸館のみ見学、午前11時ごろ松本城の駐車場に着き、約３時間の自由時間を楽しんだ。

松本市の特徴は大きな意味で二つあると思う。ひとつは北アルプスの各峰常念岳はじめ山々の自然に囲まれていること。それと国宝松本城である。

一般的にまちの価値を決める要素を大きく分類すると風土的価値（気象、自然）、歴史的価値（遺産、物語）、人の営み的価値（仕事、生活、イベント）の三つである。風土と歴史をベースに人の営みを加えてまちの価値を創造することであるとされる。

松本市では現在松本城の復元を行っていて、太鼓門が完成していた。また女鳥羽川はふるさとの川整備事業が進められていて、まもなく市民のための親水空間になり、「どんとやき」など各種のイベントが行われるであろう。それとくらべ桐生市の新川を埋めたのは残念である。

松本の市街地は女鳥羽川（松本城の外堀）によって南北に分かれ、江戸時代は北川が武家地（北深志）南側が町人地（南深志）と区切られていたそうである。私たち７人（森口、肥塚、竹内夫妻、海野夫妻、宮地）は以前小池副理事長に案内された「こばやし本店」にてそばを賞味し女鳥羽川の両岸を散策した。



松本商店街の落ち込みは聞いていたが、実際にナワテ、六九町両商店街は日曜日にもかかわらずシャッターの降りていた商店が並んでいた。以前の商店街の中心は本町、伊勢町、六九町であったが、今は駅前が中心であるらしい。

昭和30年代後半より近代化事業により土蔵の町並みを解体して共同店舗にしたことは今にしてみれば本当に惜しまれる。はじめに訪れた松本民芸館の奥の蔵はその時解体した開運堂菓子店の蔵を移築したものだそうである。

昼食に時間をとりすぎて大正ロマンのまちづくりをしている上土町（築城の際女鳥羽川開削で堀り起こした土を上げたことによる地名）と中町の蔵づくり商店街を見学出来なかったことが残念であったが、着々とまちづくりを進めている松本市の力を感じさせられた一日であった。最後に松本市は全日本花いっぱい運動の発祥の地であり、千歳橋のそばに石碑がある。　（宮地秀吉）

地域づくりは「地方分権」そのものである

懇話会７月例会

講師　熊倉浩靖さん

懇話会の７月例会は、群馬県まちうち再生総合支援事業まちづくりプランナーの熊倉浩靖さんが桐生活性化の戦略、市民と行政の役割分担、取り組むにあたっての考え方などを語った。

人口流失などを要因にして、東洋経済新報社がまとめる都市の住みよさランキングではこのところずっとＣランクに甘んじている桐生市だが、熊倉さんは「住んでいる人の実感としてはギャップはあるだろうが、こうした評価が桐生の対外的イメージになっている現実もある。桐生広域都市圏という発想に立ち、そのギャップを埋めていくことが大事だ」と強調。そのうえで特に評価の低い数値として、転出入人口差、人口増加率、一人あたりのごみ排出量と都市公園面積などをあげ、都市の成熟度からみて人口問題はすぐに改善できないものの、「梅田を都市計画上の公園だと位置づけること、ごみ排出量をいまの一人あたり1257㌘から1000㌘まで20％までカットすれば、順位はかなり上がる」と、まず、まちづくりにおける具体的な数値目標の大切さを説いた。

具体的目標の重要性

数値目標が明確になると、市民と行政が一体となって取り組みやすいという利点がある。これはまた、桐生が抱えているさまざまな問題を体系的に整理していく過程でもあり、たとえば中山間地域の活性化と中心市街地の活性化などは「過疎や高齢化、後継者難、地域産業低迷は共通だし、地域資源の再発見・活用、人材育成と交流・人材導入といった対策も似ている」とし、二つは別ものではないと熊倉さん。桐生に置き換えれば、それが「梅田と本町」の関係だと言う。

桐生としては、地球環境、人口減少・高齢化といった時代的要因のなかで、この豊富な資源をどう生かしながら地域に根差した暮らしの質を高めていくのか、その戦略がいままさに求められている。問題は、まち全体の振興になるような地域資源のストーリー付けができているかどうか、まちおこしの戦略的な指令塔ができているかどうか、そして外への恒常的な発信と外からの恒常的なチェックができているかどうか。方法としては、国には頼らず、なおかつ国の力を引き込めるような地域の主体性こそが肝心で、「自分たちのまちのことは自分たちで決め、自分たちで責任を持っていく」という思想が求められている。それこそが自立・参加・連携による「地方分権」そのものだと語った。

足利との連携強化を

熊倉さんはさらに桐生と足利の連携強化を「桐生の有力な浮上策」と位置づけた。ここでは、高崎・宇都宮間の新幹線と桐生・足利間の両毛駅設置をと提起し、「人と情報が動くのは高速道路よりも新幹線」「新首都は那須の可能性が高い。東海道を通らずに関東と関西を結ぶ幹線が必要視されている」と、今後の取り組みを勧めていた。

テーマ「ＮＰＯと街づくり」
７月28日　桐生倶楽部６号室

先人の感性が脈打つ

桐生祇園囃子

今夏の桐生八木節まつりでは本町二丁目の屋台が36年ぶりに登場しましたが、昨年は本町一丁目屋台が30年ぶりに復活、また95年には四丁目鉾の1世紀ぶりに巡行するなど、このところ桐生祇園祭が、輝きつつ復権の兆しをみせています。

この祇園祭のなかで、とりわけ強烈に桐生のオリジナリティーを感じさせるのが、小気味よい織物生産のリズムを巧みに取り入れた、本格的で格調高い祇園囃子です。桐生惣六町が所有する屋台は二階に「囃子座」があるのが特徴で、聴衆から見えない位置での演奏のため、音が内にこもらない工夫がその響きに集約されており、そこにはまさに、伝統と先人の感性が脈打っているのです。

桐生祇園囃子としていまに伝承されているのは「にんば」「屋台囃子（やたいばやし）」「八ッ社（やっしゃ）」「三ツ入鎌倉（みついりかまくら）」「四丁目（しちょうめ）」「屋台鎌倉（やたいかまくら）」「聖傳（しょうでん）」「大間（おおま）」「籠廻り（かごまわり）」「麒麟（きりん）」「さんてこ」といった曲です。

このうち「にんば」「屋台囃子」「八ッ社」については、群馬県中小商業活性化基金の助成を受けて実施された「祇園ばやし教室」で完全習得されました。

「麒麟」「さんてこ」のように、秘曲あるいは幻の祇園囃子とされるものもありますが、習得が比較的容易とみられる「三ツ入鎌倉」「四丁目」「屋台鎌倉」、また譜面が残る「聖傳」「大間」「籠廻り」などは、今後の復活が期待されています。なお、桐生祇園囃子の保存、復活に関しては現在、桐生倶楽部の理事でもある森寿作さんが中心になって、活躍されています。

＝ 新入社員紹介 ＝

[redacted]

桐生倶楽部はぐるま句会

七月

信号の変り目遅き西日中　久保田

刈りとりし草にも残る草いきれ　小池

よしず張る西日の店に土産買ふ　本田

大欅立ちはだかりて西日受く　大槻

西日さす縁艶やかに老女住む　吉成

喜雨上り涼風庭を吹き抜ける　有阪

初もぎの茄子を落せりへたの刺　尾澤

八月

鯛や馬車折返す奥の院　本田

鯛の迎ふ湯宿の暮れそめて　久保田

うすべにの十二單衣や秋茗荷　尾澤

新涼の風と虫とのコンチェルト　大槻

近松の心中話秋灯下　小池

孫帰り鯛の声ひとしきり　有阪

鎮守森鯛の声しみ入りぬ　吉成

＝ 倶楽部だより ＝

【8月】・理事会（9日）
　　・はぐるま句会（30日）

【9月】・理事会（10日）
　　・月次会＆歩く会9月例会（12日）
　　「古都松本たっぷり一日」
　　・歩く会世話人会（20日）
　　・はぐるま句会（27日）

＝ 退社社員 ＝

（敬称略）

伴　幸雄

社団法人　桐生倶楽部会報　第113号
1999年（平成11年）　10月発行
発行人　塚越平人
編集責任者　小池久雄
印刷　ツボノ印刷株式会社

平成11年12月10日　1999.　第114号　(1)

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

◎素顔の時間

期待に違わぬ追求する集団

渡邊 保

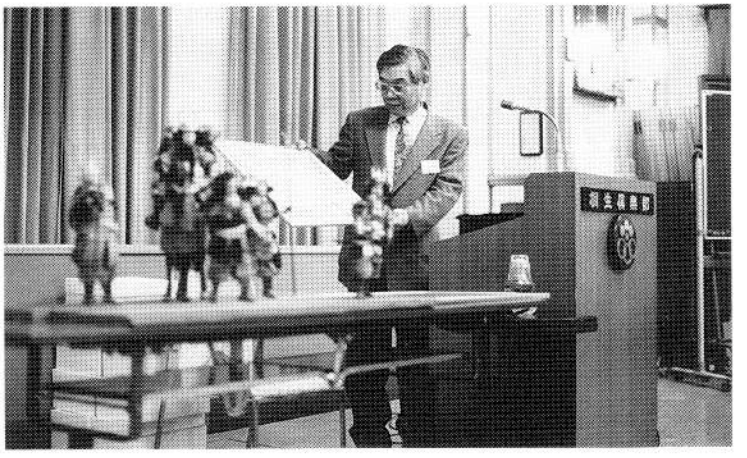
わたなべ・たもつ　昭和九年、笠懸町生まれ。相生町五丁目在住。長い教員生活は桐生南中学校でひと区切り、現在は佐波郡東村の中学校でスクール・カウンセラーの任に就いている。桐生美術協会とは五十年間、共に歩んできた。「絵はライフワーク。まだまだ勉強することばかりですね」という。

社員になって、まだ一年足らずです。桐生倶楽部はさまざまな文化活動を行っているので、ふだん経験のできないようなことが体験できるのではないかという期待感がありました。やはり、追求していく集団だな、ハイレベルな集団だなという印象です。カウンセラーの仕事にしても絵にしても、一つのものを複数の方向から見るという大切さが共通しています。そういう視点の交差部分が倶楽部の催しにはあり、積極的に参加していこうと思っています。

歴史の空白埋める文化財

月次会報告 10月

講師・山鹿英助さん



日本の宝、桐生のからくり

桐生倶楽部の十月月次会は「桐生の文化財について」と題し、郷土の歴史に造けいの深い山鹿英助さんを講師に迎えた。

この日山鹿さんが取り上げたのは、いま全国から注目を集めている「からくり人形」だ。島霞谷の先駆的業績をたどっていく過程で、たまたま一部を研究者に見せたところ、「こんなに素晴らしいものが桐生にはあるのか」と、俄然注目を浴びることになったいきさつを披露。現在、からくり人形研究会が所有する人形と馬をかたわらにおいて、その文化的価値などを詳しく解説した。

それによると、桐生天満宮の御開帳に飾り付けられた「からくり見世物」は、江戸の初期、寛文年間2年に始まった竹田出雲のからくり芝居の系譜を引くものだという。近松門左衛門らと共に文楽や歌舞伎の戯作などに功績を残したことで知られるからくり師・竹田出雲。からくり見世物は抑圧された江戸の科学、技術の発露として、また庶民の好奇の対象として明治まで流行した。天満宮の記録によると、桐生のからくり見世物は明治27年、出雲の末裔で浅草奥山の竹田縫之助の活き人形からくり芝居が天満宮で興業されたのが初めのようだ。このころ、東京ではすでに江戸の風情は終えんを迎えていたが、これを受け入れた桐生では昭和36年までに6回、興業が引き継がれてきた。

桐生のからくり人形は6組が確認されているほか、写真、絵葉書、記録映画、録音テープ、引き札なども残っており、これまで芝居からくり人形は現存していないとされていただけに、歴史の空白を埋める貴重な資料であり、また、美術的にもすぐれたものだと、専門家の評価はきわめて高い。

現在、からくり人形研究会が中心となってその復元に取り組んでいる。このからくり人形を桐生の文化財としてどう位置づけていくのか、まだまだ課題は多いが、隆盛を極めた織物産業を背景にして、このまちにはひな人形にも貴重なものが多く、「人形のまちになるくらいの宝物がある」と夢を語った山鹿さん。その一方で、こうした財産の一つ一つが知らぬまま失われていくことがないように、多くの人の協力がほしいとも話していた。

（10月25日、2階大広間）

県功労者に4社員

設楽　實さん、小倉一郎さん
蛭間利雄さん、中村兼吉さん

平成10年度の群馬県功労者として、桐生倶楽部から四社員が表彰されました。私立学校教育の第一線で活躍している設楽實さん、桐生の商工業の振興発展に貢献している小倉一郎さん、水泳競技の普及と組織充実に務めている市議の蛭間利雄さん、犯罪予防活動と防犯思想普及に尽力している中村兼吉さんです。社員一同心からお祝い申し上げます。

（11月2日表彰）

誇り高き桐生の調べ　祇園ばやし

月次会報告 11月

おはやし連と平塚貞作さん

11月の月次会は、伝統芸能の復活と存続に立ち上がった「桐生祇園おはやし連」が登場し、精進を重ねて見事に仕上げた祇園囃子を披露した。

5月の「祇園ばやし教室」を振り出しにして7月にチームを結成し、すでに各所で演奏活動の実績を積んでいるおはやし連は、桐生倶楽部の理事でもある森寿作さんを代表として総勢18人。意欲的な取り組みによって、次々と演奏可能な曲を掘り起こしている。

この日は「屋台囃子」で幕を開け、ひょっとこ踊りも加わった「にんば」、覚えたての「籠廻り」などを含めて6曲、最後は再び屋台囃子でしめ、県の文化財保護指導員・平塚貞作さんが一曲ごとに解説をつけた。

平塚さんによれば、桐生の祇園囃子は機場のエネルギーそのものであり、豊かな情緒にしろ軽快なテンポにしろ、生産現場の姿、あるいは路地裏の織機の響きにつながっているという。

先人たちが祇園祭礼の様式の一つとして取り入れ、洗練され、現代に受け継がれた形。それを絶やすまいとする保存会の熱意に支えられた誇り高き桐生の調べに、参加者もじっくりと聞き入っていた。

（11月22日、2階大広間）

富士十三景、会館に集う

日本画、洋画の一流画家13人が描いた富士の絵が、11月3日の文化の日、桐生倶楽部を華麗に彩った。大川美術館（大川栄二館長）が桐生ファッションウイークにあわせて企画した全国初の富士十三景展だ。豪華な顔ぶれに加え、未公開作品10作という魅力にもひかれ、一日で1000人以上の市民が訪れた。

日本画から安田靫彦、前田青邨、堂本印象、奥田元宋、片岡球子、横山操の6人。洋画からは藤島武二、坂本繁二郎、曽宮一念、牧野虎雄、鶴田吾郎、鷹山宇一、松居均の7人が出展。会館のしゃれたたたずまいにしっくりとなじむ、いずれ劣らぬ巨匠たちの絵。大川館長の味のある解説を聞きながら、来場者は心ゆくまで富岳競演を楽しんでいた。またこの日、河原井源次さんが蝋管蓄音機コンサートでもてなしを添えた。

錦秋の鳴神山へ〔11月〕

初めてのおりひめバス

歩く会　絶好の秋

澄んだ青い空と心地よい秋の風。歩く会の例会は10月、11月ともに絶好のコンディションに恵まれました。

10月17日は赤城山。利平茶屋から長七郎、小沼のコースは秋の装いに包まれていました。暑くなく寒くなく、風景も申し分なしで、「こういう山の表情に出合うと、きっとみんな山が好きになるのになあ」と、当日の参加者３人はそれだけが残念でした。

11月の鳴神山は、歩く会として初めておりひめバスを使いました。川内吹上から広土橋を渡って山頂を目指し、帰りは予定を変更して赤柴から同じとりつきに下りました。ゆったりとした登山を楽しんで、「おりひめバスもなかなかいいじゃないか」というのが、参加者の感想でした。

赤城山長七郎山〔10月〕

＝ 新入社員紹介 ＝

（敬称略）

株式会社 コスモ

桐生市広沢町四丁目２２８０－１
代表取締役　久保田　勝　利
ＴＥＬ　0277－52－８６５５

桐生倶楽部はぐるま句会

九月

芋の露こぼさぬほどに風に揺れ　本田
ほほづきも手向けて水子地蔵かな　尾澤
校庭に鬼灯の札振り仮名し　久保田
鳥立ちて露玉と散る蓮の池　吉成
杉山の野分に耐へて唸りおり　有阪
稲穂波万治の石仏腰据へて　小池
気の置けぬ友訪ね来し夜長かな　大槻

十月

朝寒や供華切る鋏重かりき　久保田
自転車で追い抜く子等や朝寒し　小池
稲刈の鎌捨て置かれ納屋の隅　大槻
稲噛んで稔り確かむ農夫かな　本田
鮭のぼる蝦夷地は大河ならずとも　尾澤
朝寒や日当る木戸にきしむ音　清水
稲の香のしみた野良着で昼寝かな　吉成
美しき稲穂しりえに地蔵尊　下山
暮坂の歌碑はるかなり秋の山　有阪

＝ 倶楽部だより ＝

【10月】・理事会（12日）
・歩く会例会「利平茶屋から赤城山」（17日）
・月次会「桐生の文化財について」（25日）
・はぐるま句会（26日）

【11月】・行事委員会（８日）
・理事会（12日）
・歩く会例会「錦秋の鳴神山」（14日）
・月次会「桐生祇園囃子」（22日）
・はぐるま句会（29日）

社団法人　桐生倶楽部会報　第114号
１９９９年（平成11年）　12月発行
発行人　塚越平人
編集責任者　小池久雄
印刷　ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人　桐生倶楽部　TEL 45-2755

倶楽部 2000年の門出

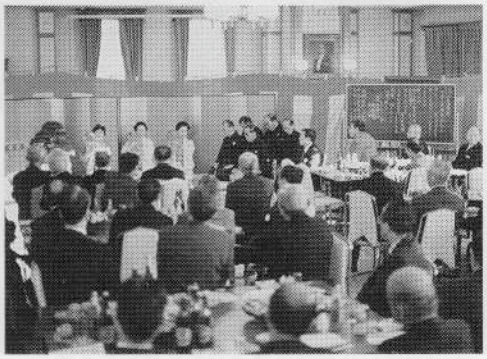
2000年という節目に、革新的な技術を次世代へつなぐとともに、私たちは日本の教育のことを真剣に考えなければならない―塚越平人理事長は、1月4日に開かれた恒例の新年互礼会でこう述べ、新しい時代に向かう桐生倶楽部にひとつの指針を揚げました。先端技術においてはさまざまな分野で期待感が高まっています。しかし、内に目を向けて気がかりなのは教育問題。学級崩壊をはじめとした最近の教育の荒廃を例に取り、学校に秩序がなくなり、子どもたちに個性もなくなった現状を憂いて、人間らしい教育、とりわけ小中学校での徳育の必要性を説いたものです。そのためには、文部省への働きかけなども行っていきたいと、語りました。

アットホームなぬくもりの夜

恒例クリスマス祭

アットホームな催しとして回を重ねている桐生倶楽部クリスマス祭が、昨年も１２月４日に開催され、社員や家族ら６３人が参加し、例年にない盛り上がりを見せた。

このクリスマス祭では、聖書の朗読、さらには賛美歌の合唱、ミニコンサートなど、倶楽部ならではのぬくもりが長く継承されてる。とりわけ今回は子どもたちの参加が多く、五十嵐健雄さん扮するサンタクロースが登場すると雰囲気は最高潮に。お菓子やおもちゃのプレゼント、また福引きなどのお楽しみタイムを、にぎやかに過ごした。



初顔合わせに祝いの舞

桐生倶楽部の平成１２年新年互礼会が１月４日行われた。恒例の新年あいさつでは、飯山順一郎桐生市議会議長、笹川尭衆議院議員、近藤英一郎全国商工会連合会会長、岸田英作桐生商工会議所会頭がそれぞれ、新しい時代への意気込みや桐生倶楽部に寄せる期待を述べ、乾杯に続いて、桐生観友会が祝舞を披露。およそ８０人の社員らが見守る中で伝統の鶴亀などを舞い、倶楽部２０００年の門出を祝った。

ふるさと桐生に願いを込めて

登り初めは吾妻山

歩く会　1月例会

市民にもっとも親しまれている吾妻山。新しい年の始まりをこの山頂で迎える人は多いが、歩く会の例会もここ数年、吾妻山登山が新春の恒例になっている。ことしは1月9日に行われ、16人が初登りに参加した。

低山ながら、短い行程で高さを稼がなければならないこの山の登りはきつい。それがまた吾妻山の存在感であり、山頂からの眺望のよさをいっそう際立たせる効果にもなっているようだ。吾妻公園の駐車場に集合した一行は、およそ50分かけていただきへ。日々の暮らしを刻んでいるふるさとを、日常から離れた視点でふ瞰することができる山がまちなかにあることのありがたさをかみしめながら、ことし1年、よりよき年でありますようにと願いを込めていた。

鎌倉古街道と横浜の名園も好評　12月例会

12月の歩く会は、鎌倉古街道と横浜の名園を訪ねた。穏やかに晴れ渡った好天のもと、46人の参加者は思い思いの歴史の旅を楽しんだ。

今回の企画は横浜に詳しい村田豊樹さんが見どころを盛り込んでコースを設定した。英国式庭園の美しい英連邦軍戦没者墓地を見学し、続いて鎌倉と東京湾を結ぶ唯一の通商路であった朝比奈の切り通しへ向かった一行は往時を偲びながらおよそ1時間の散策。鎌倉のにおいを少し味わってから、北条実時ゆかりの称名寺、金沢文庫へと足を運んだ。このあと、シーサイドラインを利用してみなとみらいの横浜美術館「セザンヌ展」へ。フリータイムを随所に折り込み、ショッピングや海辺の散策など、参加者それぞれに楽しみ方を見つけながらの横浜の一日。ほどよい充足感をお土産にして、帰路に着いた。

＝ 新入社員紹介 ＝

[redacted]

桐生倶楽部はぐるま句会

十一月

出雲路へ神追ふ旅や神無月　本田
骨董の市立つ社神無月　久保田
歓声のトロッコ列車紅葉散る　尾澤
帰り咲くつつじの赤き札所道　小池
秋空をアーチに裂きて眼鏡橋　大槻
帰り花色づく庭に白一輪　下山
遅れてか咲き急いでか帰り花　有阪
一山を越えて此の沢うらがるる　清水
末枯れし病室の窓はや三月　吉成

十二月

霜除けの笹鳴るばかり狭の村　久保田
霜の庭降りたつ鳩の脚紅き　本田
愛猫の穴あいている障子かな　小池
霜柱うす日に溶けし小庭かな　大槻
張り替えし障子に部屋の花をそえ　清水
漣をゆりかごとして浮寝鳥　尾澤
夕映えに水鳥群れて三番瀬　吉成
霜柱足音悲し一周忌　下山
ひよどりの声に目覚めし白障子　有阪

写真部、ロビーに新作品

会員ロビーに彩りを添えているフォト作品が新しくなりました。写真部が昨年暮れに反省会を兼ねた部会を開催し、９人の部員が１年の活動の中で撮影した自信を１点を持ち寄り、話し合って選考したものです。

＝ 倶楽部だより ＝

【12月】・クリスマス祭（４日）
・理事会（10日）
・歩く会例会（12日）
・写真部会（20日）
・はぐるま句会（27日）

【１月】・新年互礼会（４日）
・歩く会例会（９日）新春初登り「吾妻山」
・理事会（12日）
・歩く会世話人会（17日）
・監査会（24日）
・はぐるま句会（28日）
・臨時理事会（31日）
・定時社員総会（31日）

社団法人　桐生倶楽部会報　第115号
２０００年（平成12年）　１月発行
発行人　塚越平人
編集責任者　小池久雄
印刷　ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人 桐生倶楽部　TEL 45-2755

誇りは自立。

いま、見つめ直すとき

桐生倶楽部には、近代ふるさとの発展の歴史を彩る由緒ある活動と伝統の会館という、二つの大きな財産があります。しかし、最大の誇りは何かといえば、どんなときでもこれらをすべて社員の力で守りとおしてきたことでしょう。いまでこそ「自立」は時代のキーワードですが、それに先んじること八十有余年の崇高な精神が、私たちのもとに受け継がれています。この組織と拠点の会館は、桐生市の文化的、精神的財産として後の世に継承していかねばなりません。その役割を担う責任を、もう一度見つめ直すときがきています。

伝統の灯を守り継ぐために

桐生倶楽部の伝統の灯を守るため営の礎となる会員の確保が急がれて平成12年度定時社員総会では、塚越長が「社員それぞれ、一会員を確保う努力していただきたい」と目標を後一層の拡大をはかっていくことか ました。

倶楽部の会員は平成11年現在で個法人29人の総数344人。昨年は7人あったものの、退社が18人とこれを回わりました。近年その傾向が続いめ、財源の根幹である会費収入が年を増している状況です。理事会では上げ案も検討されましたが、「当面は会員増強に向けた努力で乗り切っていきたい」という考え方が大勢を占めました。

会員拡大目標新たに

新年度平時社員総会

一社員が二人確保

全議案を承認

総会は、平成11年度事業概況報告、平成11年度決算報告及び会計監査報告、平成12年度事業計画及び収支予算案、定款12条但し書き挿入など、提案された4議案を原案どおり満場一致で可決しました。

定款に但し書き

会費未納者の増加を受けて、会費納付を規定した定款第12条に但し書きが挿入されました。

「但　会費未納が1年を経過し、事務局よりの請求後2カ月を経過後も会費が納入されない場合社員の資格を喪失するものとす。」除名は倶楽部の精神にそぐわないという判断から、自然喪失の扱いにしたものです。

（総会は1月31日午後6時から2階大広間で開催。委任状146人を含め出席180人で成立）

文化祭は5月12日～14日
文化活動委員会

文化活動委員会の全体会議が開かれ、各部から事業予定、予算要望が示されたほか、ことしの文化祭は5月12日、13日、14日に開催する方針であることが五十嵐委員長から報告された。

各部会の活動方針では、美術部会が文化祭で家族参加を呼びかけていくこと、また懇話会が丹仁五郎生誕100年と渡辺華山来

さに戻ります▼最高峰の龍ヶ岳から右尾根を辿り、沢に向って下りるとかたくりの花期に訪れる人のための道普請が行われている。まだ人気ない林を抜けると「かたくりの里」へ出て山歩きは終り。戻りは東山裾の集落の間を歩き、みかも不動の寺の庭を借りて昼食。風の当りの少ない畑地を僅かで「栃木花センター」へ、賑やかな人の群と園芸種の花は面白くないので、裏手の福寿草自生地へ廻る。水仙の白と福寿草の濃い黄のこゝだけは春であった▼戻った駐車場上の林の中に咲いていた雪割草（みすみ草）は今回のおまけの様で得をした気分を味わう。

（藤井龍人　記）

綱男さん、安吾を語る

4年に1度の引越し記念日

作家坂口安吾の引越し記念日にあたる2月29日、桐生倶楽部の懇話会と安吾を語る会共催の集いが開かれ、写真家で長男の坂口綱男さんが「安吾のいる風景」を自身のスライドを交えて講演したほか、ギターとフルートによるミニコンサートも行われた。

1952年のこの日に桐生へやってきた安吾は亡くなるまでの3年足らず、さまざまな人々との交流を刻み、また精力的な執筆活動を続けた。4年に一度の引越し記念日は、桐生ならではの企画だ。会場となった桐生倶楽部は、かつて安吾を囲む会が開かれたり、また彼自身がゴルフ練習を楽しんだりした場所であり、縁が深い。この日は地元だけでなく、東京や安吾の出身地新潟などからもゆかりの人が駆け付けたが、こうした催しとともに、伝統ある建物がいまだ生きた活動を続けていることも、少なからず感銘をあたえたようだ。

やせがまんしても守りたい

入会金で白熱論議

社員増強が議題に上った文化活動委員会で出席者から、入会金の3万円には再検討の余地はないのかという意見が出た。時節柄、社員拡大をはかる上で大きな壁になるという主張だ。

これに対して小池副理事長は、登録文化財に指定された会館の維持管理と土地にかかる固定資産税が倶楽部運営を圧迫している現状と、決して高額とは言えない入会金の実情を説明し、郷土の大先輩がつくってくれた組織と建物を誰にも頼らず社員の力で支え続けてきた歴史を思えば「やせがまんしてでも守りたい」という心情を伝え、質問者および出席者の共感を得た。

生きた文化財を共有していく意義を広く市民に啓発する必要性をこの日、会は確認し合った。

活発な話し合いが行なわれた委員会

70年で新企画を検討中であること、さは歩く会が2000年4月の例会で200回年記念を迎えることなど、新しい動きえられた。（2月21日午後6時から1で開催。出席30人）

運定ます。事よ今れ安理るし人きげ、認315人、社が上たさ値くるしの きい厳費

歩く会2月例会

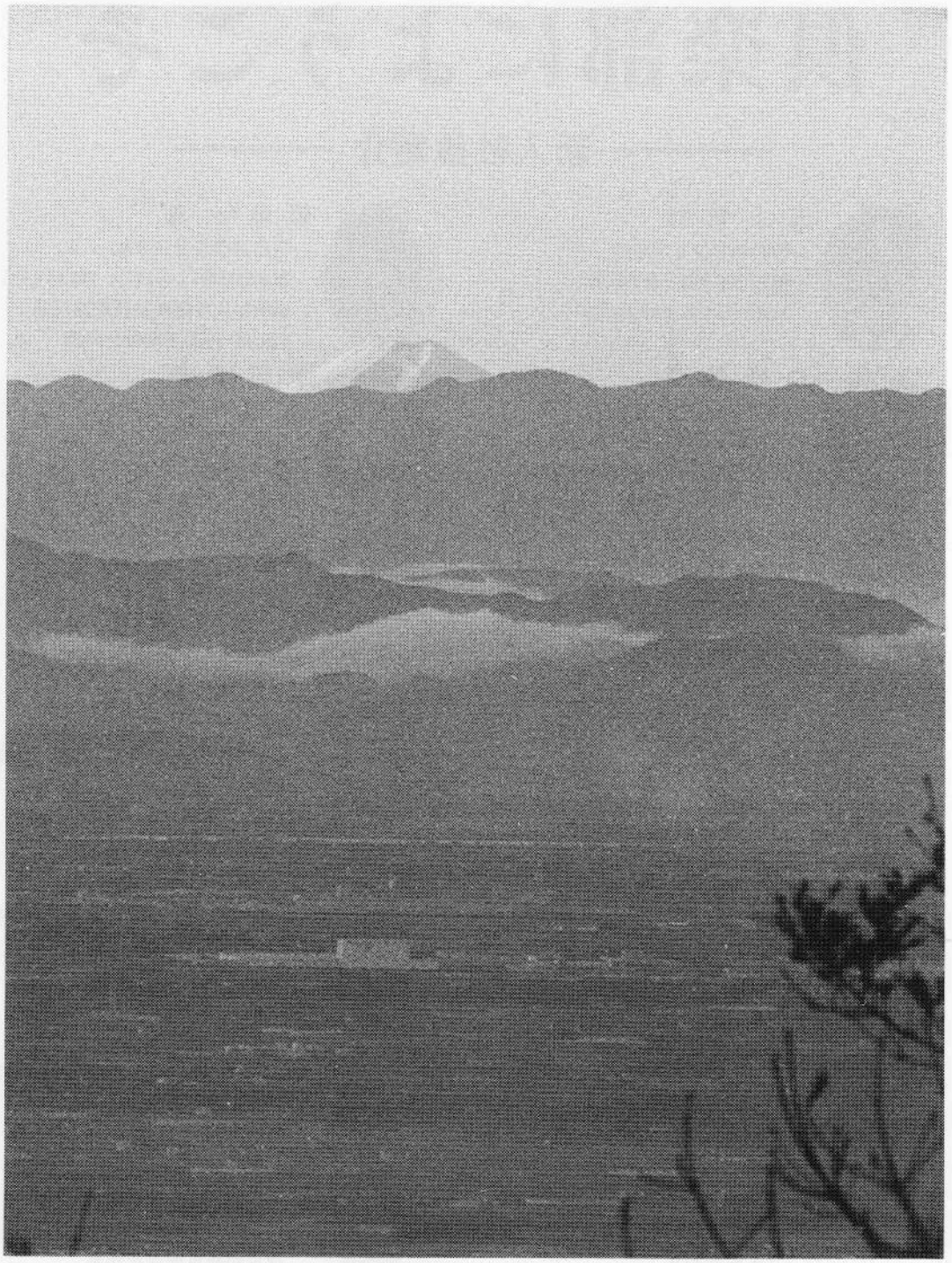
三毳山の福寿草

二月「歩く会」は、東北自動車道利用の行き来によく目にしている三毳山である。二十年の「歩く会」の歴史でも初めて歩く山（丘）なのです。有名なのは北麓の「かたくりの里」ですが、今回は福寿草に春を見つけに行きます▼登山口は佐野藤岡インターを通り過ぎて二つ目の信号左折の南駐車場からです。昔は展望台近くまで車道が通じていたのですが、今はゲートができて徒歩で登ることになりました。S字カーブの続く緩やかな登りで始まり左上の琴平神社わきの富士展望台からは360°の眺望が楽しめますが、今日は風の強い分上信越の山々は頭を雲に蔽われてます。富士も見えそうでながら霞の中に没しています。マイクロウエーブ鉄塔のある右ピークにも寄り、三毳神社奥社に詣でて愈々くぬぎ・こなら・赤松の尾根伝いコースです。ハングスグライダー出発台を過ぎ、二等三角点峰を越え、西側の開けた所へ出ると強風に見舞われ、登りに

倶楽部にようこそ

新入社員紹介

[redacted]



遠望の富士山（吾妻山から）

日本画、洋画の一流画家による「富士十三景展」が桐生倶楽部で開かれたのは昨年の秋のこと。14番目というわけではありませんが、秩父の山並みからぽっかりと頭を出した富士、桐生からの遠望もなかなかの姿です。吾妻山からさらに高度を稼げば、富士に次ぐ日本の高峰北岳も望め、山岳ウオッチングには実に恵まれたふるさとです。

（写真は編集部）

桐生倶楽部はぐるま句会

一月

厨にはすでに音あり雪の朝　久保田
トラックの荷台は白く北は雪　吉成
新年の鐘つき堂の熱気かな　本田
若人の箱根路競ひ年来たる　有阪
雪掻きのシャベル買ひ来し予報かな　尾澤
ミレニアムとつぶやいてみる冬銀河　小池
群なして噂話か寒雀　下山
神詣で足の運びや去年今年　清水
初春の柝の音にそぞろ老二人　大槻

二月

寒明けて池面に映る鳶の影　吉成
片栗の花に夢二の浪漫かな　尾澤
凍ゆるみ出稼ぎ村へ帰りけり　本田
凍解や野面にいぶき聞く日向　久保田
凍解や踏絵並べし資料館　大槻
片栗の花芽も見えず風厳し　下山
かたかごの芽ほつほつと宮司言ふ　遠藤
臘梅の香に包まれて透きゆけり　小池
寒明けや網戸の裏に蝿の影　有阪
片栗やかけがえもなき花一つ　清水

春宵の味な集い

月次会報告　（3月）

ワインとパンでひととき

春宵にワインを――三月の月次会は、昨年6月の「各種ワインの飲み方、味わい方」の実践講座が好評だった栗田詔三さんを再び講師に迎え、赤石清安さんお手製のパンとの絶妙な組合わせによる「楽しむ集い」が開かれた。

用意されたのはワイン7種類と、ドイツパンやフランスパンなど8種類。前回同様、50人以上が参加する盛会となったが、2回目ということもとあってか、雰囲気はぐっとなごやかに。栗田さんの語りに導かれた参加者のワインの扱いもすっかり手慣れた様子で、「個人の好みで、合う味を見つけてください」という赤石さんの話をきっかけに、各テーブルに歓談の輪が広がっていった。

＝ 倶楽部だより ＝

【2月】・歩く会例会「三毳山散策」（13日）
・理事会（14日）
・文化活動委員会（21日）
・はぐるま句会（28日）
・懇話会「安吾引越し記念日」（29日）

【3月】・理事会（10日）
・歩く会例会「石尊山から深高山」（12日）
・月次会「ワインを楽しむ集い」（24日）
・はぐるま句会（28日）

＝ 退社社員 ＝

（敬称略）

辻　勇　蔵

社団法人　桐生倶楽部会報　第116号
２０００年（平成12年）　４月発行
発行人　塚越平人
編集責任者　小池久雄
印刷　ツボノ印刷株式会社

平成12年6月10日　2000.　第117号　(1)

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人 桐生倶楽部　TEL 45-2755

土曜日の顔、囲碁部会

6号室のドアをたたく

土曜日の午後、桐生倶楽部の6号室に三々五々集まってくるのは、囲碁部会の面々だ。卓上の碁盤に慣れた指先がのび、ピシッと、かすかだが切れのいい音で石が並んでいく。文化活動委員会の趣味の部会としての歴史は長く、部会を預かる吉成敏郎さんは、半世紀の社員歴を持っている。

例会にはいつも数人、春と秋の大会には七、八人が参加する。いずれも実力者ぞろいだが、今後のためにも新しい風を入れていきたいという。

興味を持ち、その気さえあれば、6号室のドアはいつでも開いて入会を歓迎する。

ガーデンパーティー

表の顔も見事なら、裏の顔もまた、歴史ある風貌を漂わせる桐生倶楽部の建物。この洋館をいっそう引き立たせているのが、四季折々の移ろいを方に収めた庭園の風情だ。この庭を会場にして、ことしも5月14日、恒例のガーデンパーティーが開かれた。

80人の参加を得て、午後4時から始まったパーティーは、フラメンコギター演奏が花を添え、そばやしゅうまいなどさまざまな模擬店も出て大にぎわい。初夏の日差しに恵まれながら広がった歓談の輪は、途中夕立に見舞われたものの、四阿や会館内に場所を移して、暗くなるまで解けることはなかった。

東松山森林公園で

炎暑になかなか参加員が増えず、年々長距離を歩くことが苦手になってきた。そこが企画の悩みどころです」と語る関係者。参加者数の頭打ちも気がかりな要素になっているようだ。しかし、いつでもありそうに思えて、なかなかないのがこういう機会だ。近郊のスポットを見つけながら、歴史とのふれあいや心地よい山歩きを20年提供し続けてきた労力には社員一同脱帽。これからも、ぜひよろしく。

はなやいだ初夏の倶楽部

文化祭

家族作品が彩り

桐生倶楽部の恒例の文化祭がことしも5月12日から3日間にわたって開かれた。

写真や絵画、刺繍、藍絞り、やきもの、俳句など、出展作品は70点以上。いずれも見事な作品で、ずらり飾られた2階大広間は、訪れる多くの人たちでいっそうはなやいだ。ことしはとりわけ家族作品の参加が目立ち、関係者を喜ばせた。

宴も盛り上がり

風薫るシャンソン　石坂さんが弾き語り

4月の月次会は28日、県内のシャンソン歌手、いしざかびんがさんが弾き語り。薫り立つ季節の入り口で、60人の会員が心の琴線にふれるひとときを楽しんだ。

シャンソンのこころの響きに魅せられて、クラシックギターから弾き語りの世界に活動の舞台を移したいしざかさんにとって、桐生は初めてのコンサートを開いた思い出の土地。その後、NHK主催の「シャンソンライブ・歌の花びら」で石井好子さんや戸川昌子さんらと共演を積み、現在は県内はじめ、東京、横浜、鎌倉、長野などでコンサート活動を展開しているいしざかさんは、この日、「百万本のバラ」などのおなじみの曲やオリジナルを数曲披露し、軽妙な語りを交え、聴衆を異国の情緒に引き込んでいった。

記念例会　4月の歩く会

2000年の年に、始動から20年目を迎えた歩く会が4月9日、200回目になる記念の例会を行い、東松山森林公園の春の散策におもむいた。

この日は15人が参加した。見ごろのサクラの出迎えを受けた一行は、花見や談笑でゆったりとした時を過ごした。交通事情のため、予定していた長瀞には行けなかったが、バスの中は始終なごやかで、春の一日をたっぷり楽しんで

倶楽部にようこそ

＝新入社員紹介＝

[redacted]

桐生倶楽部はぐるま句会

三月

三山の一つは見えず霞立つ　本田
暖かや絵手紙匂う女文字　久保田
春の山犬にひかれる少女かな　小池
晩鐘の消えて音なし遠霞　尾澤
百千鳥海は木の船鉄の船　山田
草霞む里は赤城へ続きけり　大槻
釣り舟や湖面にゆらぐ春の山　吉成
茶屋の酒一口温し春の山　清水
雨あがり息づく庭の牡丹の芽　有阪
山並みの空と交りし朝霞　森
暖かや植木庭師の槌の音　下山

四月

藤棚の深きに消えし翅音かな　本田
秩父路に白装束や春の風　久保田
日毎伸ぶ藤の蕾のまだ咲かず　尾澤
新園児遊ぶ砂場に藤の影　吉成
暮れ遅き標本室に鳥けもの　山田
永き日の骨董市の仮面かな　小池
藤棚や剣の舞の蜂集う　有阪
抜きん出て白衣観音春の風　大槻
永き日や窓辺に鳥の籠を出し　清水

県総合表彰に輝く

坂入さん、柿沼さん

平成12年度群馬県総合表彰の受賞式が5月16日午前10時半から、群馬会館で開催された。桐生倶楽部の社員では二人が受賞。保健功労で坂入良一さん、商工功労で柿沼洋一さんが、それぞれの地道な活動を評価された。

＝ 退社社員 ＝

・増田公男（逝去）　・小林貞夫
・竹内晴夫　・江原永治
・藤原崇紀　・樋口武弘

倶楽部だより

【4月】・理事会（7日）
・歩く会例会「武蔵野の桜をめぐる」（9日）
・将棋部会（15日）文化祭協賛将棋大会
・行事委員会（18日）
・囲碁部会（22日）文化祭協賛囲碁大会
・歩く会世話人会（24日）
・はぐるま句会（27日）
・月次会「シヤンソンの夕べ」（28日）
・ゴルフ部会（30日）文化祭協賛ゴルフコンペ

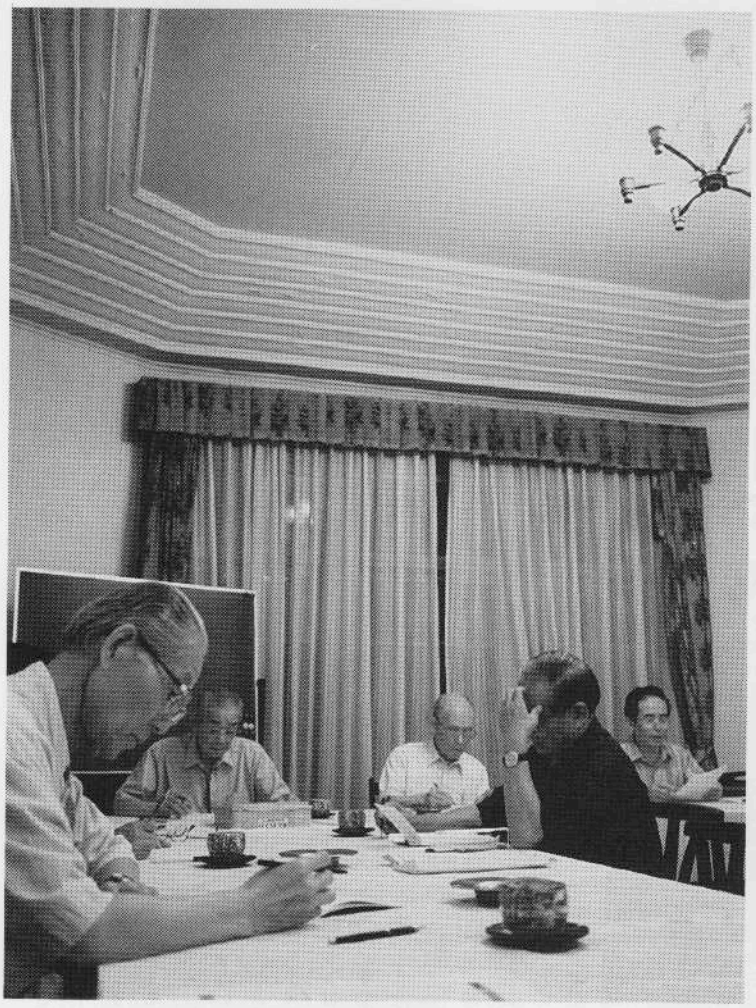
【5月】・写真部会（1日）
・理事会（9日）
・麻雀部会（9日）文化祭協賛麻雀大会
・文化祭（12～14日）作品展
・ガーデンパーティー（14日）
・歩く会例会「袈裟丸山」（21日）
・はぐるま句会（26日）

社団法人　桐生倶楽部会報　第117号
2000年（平成12年）　6月発行
発行人　塚越平人
編集責任者　木村隆夫
印刷　ツボノ印刷株式会社

平成12年8月10日　2000.　第118号　(1)

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人 桐生倶楽部　TEL 45-2755



静かなる活力

はぐるま句会

夜の会館は、ひと部屋の明かりでもほんのりと外観を浮かび上がらせる。それは、こじんまりした日々の寄り合いや、部活動が生み出す風情だ。

その日は一号室に灯がともり、俳句仲間十人が集まっていた。はぐるま句会に選者はいない。毎月一回、兼題をそれぞれ五句持ちよって、出席者全員で選句するならわしである。

午後七時からほぼ一時間、ほとんど私語のない空間を選句用紙だけがめぐり、互いの作品を批評の観点からじっと読みふけるときの静かな部屋の息づかいは、創作の集中とはひと味違った緊張感をかもす。選句を終え、ほんのひとときの和んだ会話が交わされ、そして散会。肩の力を抜いた大人の会である。理事長も務めた前原勝樹さんの提唱で始まってすでに三十年余、会員は現在二十人。

自動車は現実的に未来を開く

規制を待つか、先取りか
企業再編促す環境性能

パワーの革新には時間が必要

月次会報告（6月）　宮野英世さんが講演

桐生倶楽部6月の月次会は「自動車用エンジンの過去と未来」と題して山田製作所の宮野英世社長が講演。世界のホンダの心臓部をなすエンジン開発に長年携わってきた宮野さんは、環境という時代の要素を加味してもなお、いまのエンジンには大いなる可能性があると展望した。

「自動車があまり好きではないからこそ仕事として冷静にやってこられた」という宮野さんは「大衆的な車は1トン100万円、つまり1グラム1円です。ほかの加工品は最低でもグラム2円はする」と、工業製品としての自動車の完成度をまずは重さで表現。求められる未来の環境性能も、この経済性をクリアできるかどうかだと、技術者としての熱い視線を向けている。

環境性で注目を集めている電気自動車は、この点まだグラム3円、実用にほど遠い現状で、「3円というのはコストだけでなく、エネルギーそのものです。一台をつくるのにそれだけのエネルギーを費やさなければならない。しかも、リサイクルがきかない」のが難点だとか。その点ガソリンエンジンは、例えば排気ガスは30年前と比較して格段に向上した。これからもさらに向上する余地は残されており、最終的には電気自動車並みにゼロを目指して、それぞれの現場は取り組んでいるのだという。

世界的に進んでいる自動車メーカーの統合、提携の背景もそれで、お金があるか、技術があるかで企業のとり得る対応は違うが、突き詰めれば法律の規制を待つか、それとも先取りするかの選択に迫られた結果として、いま、企業の命運が確実に分かれつつある。

「自動車というのは、走る、止まる、曲がるという3つのバランスで成り立っています。そしてそこに環境が加わった。レースで使用する走り優先の車を私たちは車とは言いません。しかし、30年前のプロの車の性能が、いまの大衆車と同じ。これからもきっとそうなる」と、さらなる性能アップに可能性を見、展望を開く宮野さんだ。

すさまじい勢いのIT革命だが、蓄えなければならないパワーの革新にはそれに見合う時間がかかる。また、常識を覆すような画期的な技術の開発も予測はできない。先見の明とは過去に学び、現実的な方法論の積み重ねだという姿勢を宮野さんは貫いてきた。「5年で開発したものは2年で真似される。人の真似のできないものを開発するのには15年かかります」。そんな苛酷な競争社会を生き抜いてきた哲学。示唆に富んだ講演となった。（6月27日午後6時、2階大広間、出席者37人）

霧の山嶮、一転のパノラマ

歩く会　夏の乗鞍岳山頂に立つ

霧に包まれた頂に一瞬の陽光が差し込んだ。これが前ぶれとなって白いベールはみるみる解き放たれ、やがて広がったのは天界の風景である。三千メートル峰に挑んだ7月の歩く会。秀峰乗鞍岳は、高山ならではの豊かな表情でその期待にこたえた。

参加者は35人、このうち10数人が登頂をめざした。視界のきかない濃い霧のなかを歩き始め、途中の鞍部では長野県側から吹き上がる猛烈な風にさらされながらの1時間半の登り。だが、山頂に立ち、あきらめかけたころに気象は好転。その気まぐれさゆえに、一望の風景との出合いは、いっそうの感動を刻み込んだようだ。（7月23日）

三〇〇〇メートルアタック隊員

6月の武尊、傘で散策

6月の歩く会は、レンゲツツジの咲く武尊牧場と川場村吉祥寺の旅に23人が参加した。ツツジにはまだいくぶん早く、また、うらめしい梅雨空のもと、牧場とお寺は傘を差しながらの散策となってしまったが、花咲温泉にゆったりとつかって骨休めもかない、おしゃべりも存分に楽しんで帰桐した。（6月11日）

桐生倶楽部はぐるま句会

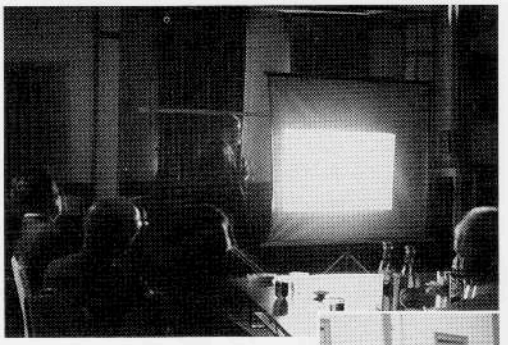
五月

薄れたる柱の傷や柏餅　尾澤
柏餅名代の店を尋ねあて　有阪
白と赤競ふ並木や花水木　本田
茹で上げし豆の白ひや夏淡し　小池
柏餅鐘馗に変る宇宙人　下山
日をとらへ風に生れし花水木　久保田
三方に神饌として柏餅　遠藤
携帯で居場所確かめ初夏の山　吉成
橋の下瀬音も高し初夏の朝　清水

六月

はた音の絶えて久しき古簾　小池
火取虫通夜の灯明揺らしをり　尾澤
仏法に嘘などありて青簾　山田
山荘のともしび一つ灯蛾の舞ふ　本田
銀彩を玻璃戸に残し火取虫　久保田
枝折戸の梅雨の庵の閉ざされし　遠藤
梅雨空を睨み釣具の手入れかな　吉成
音もなく梅雨雲嶺を包み込む　下山
梅雨寒や留守居の夕餉済みにけり　大槻
亡き人を偲ぶ今宵の火取虫　有阪

庶民パワー浮世絵の世界



小島国次さん講演

月次会報告（7月）

7月の月次会は、『私の浮世絵ノート』の著書もある小島国次さんを案内役に、繊細な技と精神性に富んだ浮世絵の奥深い世界を堪能した。

菱川師宣の墨摺絵を源流とする浮世絵は、江戸時代という厳しい階級社会の中にたまった庶民の憂さをエネルギーにして花開いた文化だった。題材はちまたの享楽生活と深い結びつきをもち、やがて、より美しいものをという思いが多色刷りの錦絵を生み出し、才能豊かな多くの絵師の登場によって、浮世絵は黄金期を迎える。

小島さんは、数多くの傑作が残る浮世絵作品のうち、その7割を占めるといわれる役者絵、美人画、風景画を入り口にして、写楽のリアリズムなど、送り手である当時の絵師たちが何を美しいと思い、それをどう表現していったか、また、受け手の庶民がそれにどうこたえたのかを解説。

明治を迎え、世が開放の機運に満ちると急速に衰えた浮世絵だが、激しい競争のなかで研ぎ澄まされていった感性が絵の構図、人物の表情、風景の草木の一本にまで及ぶその表現力は、やがて西欧の芸術に大きな影響を及ぼした。とりわけその作品から強烈なインスピレーションを得たのが画家ゴッホや音楽家ドビュッシーだったという。

浮世絵は、絵師の作品ではあっても厳密な意味で絵師の作品は存在しない。原画を生かすも殺すも、彫師、摺師の腕にかかっていたからだ。そこが浮世絵の宿命であり、また奥の深さにも通じていると、小島さんは語った。(7月27日、参加31人)

＝ 倶楽部だより ＝

【6月】
- 歩く会例会「武尊牧場」（11日）
- 理事会（16日）
- 歩く会世話人会（21日）
- 月次会「自動車用エンジンの過去と将来」
  講師：宮野英世氏（27日）
- はぐるま句会（30日）

【7月】
- 理事会（10日）
- 歩く会例会「乗鞍岳」（23日）
- はぐるま句会（25日）
- 月次会「浮世絵について」
  講師：小島国次氏（27日）

【退社社員】

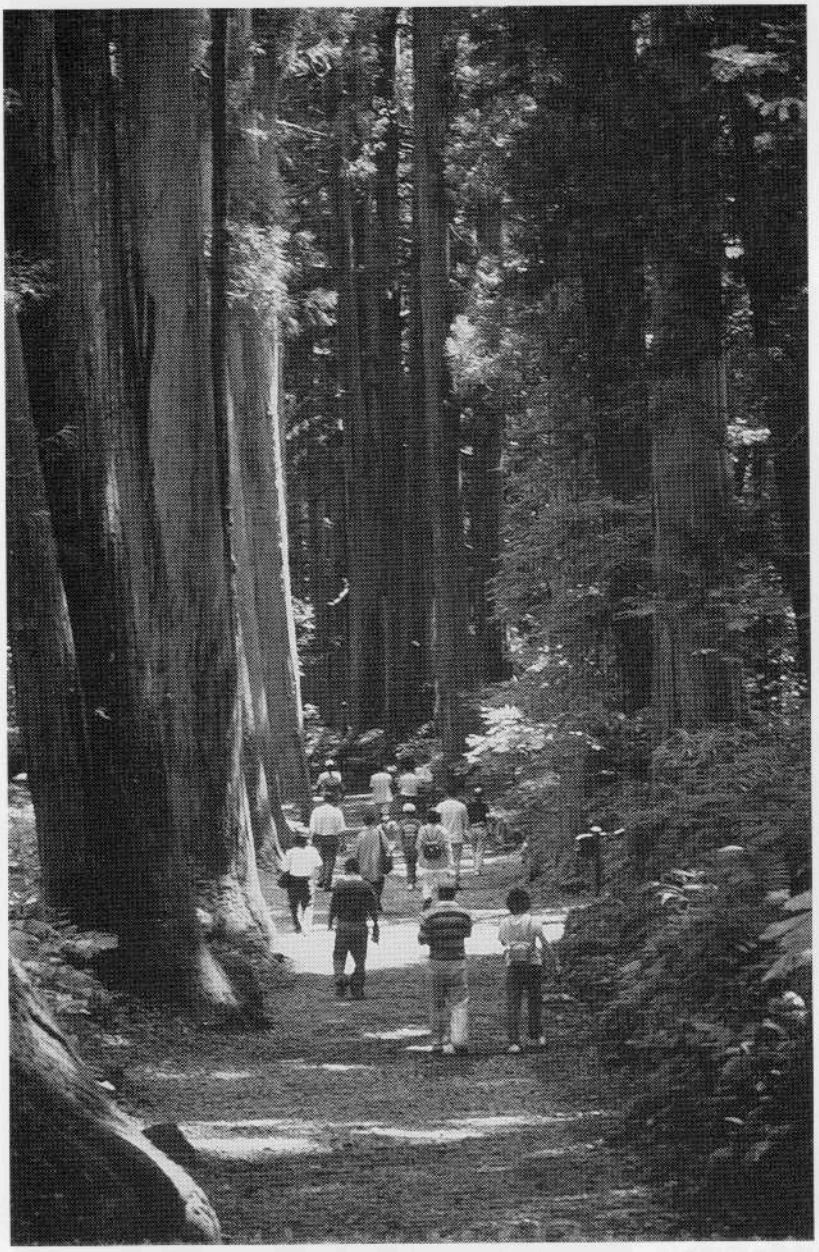
- ㈱さくら銀行桐生支店
- 平田好雄
- 村井信一郎

社団法人　桐生倶楽部会報　第118号
２０００年（平成12年）　８月発行
発 行 人　塚 越 平 人
編集責任者　木 村 隆 夫
印　　刷　ツボノ印刷株式会社

平成12年10月10日　2000.　第 119 号 (1)

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人　桐生倶楽部　TEL 45-2755



歩く会の常温空間

倶楽部の歩く会が提供している例会は、山登りあり、旅あり、歴史の散策ありと、毎回毎回、どうすれば会員に気軽に楽しんでもらえるかという工夫の味付けがある。どの催しにも、参加者それぞれの体力にあった方法が用意されていて、その雰囲気はいつも、無理のない常温の空間が保たれているのが際立った特徴だ。始動して二十年が経ち、会員が高齢化するとともに形づくられてきた企画への気配りだが、初参加でもすぐに溶け込めるのは、その雰囲気があればこそ。二十一世紀も意欲的な企画が目白押しだ。(写真は九月例会の戸隠に参加して荘厳な杉並木を散策する会員たち。撮影は後藤久夫さん)

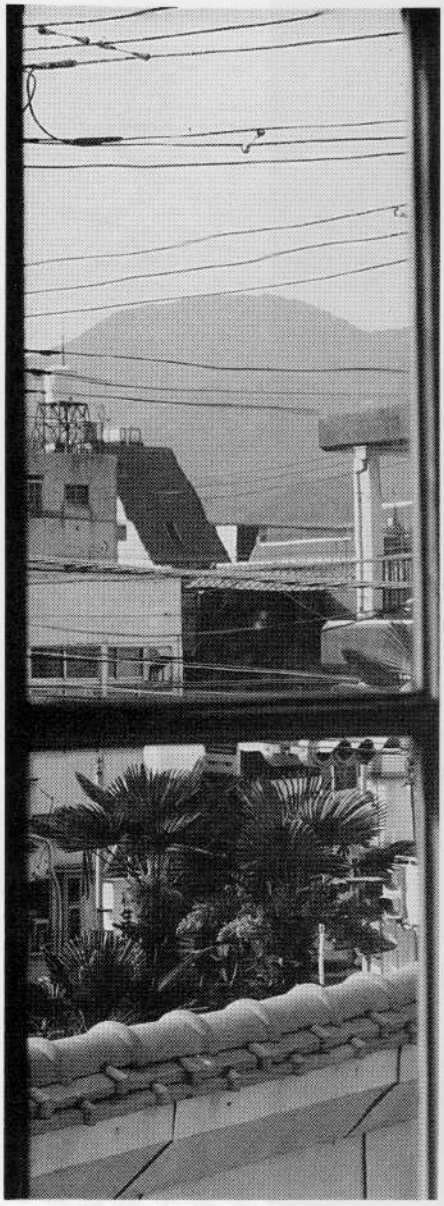
ガラス越しに大正が見える

無色透明な歴史の証人

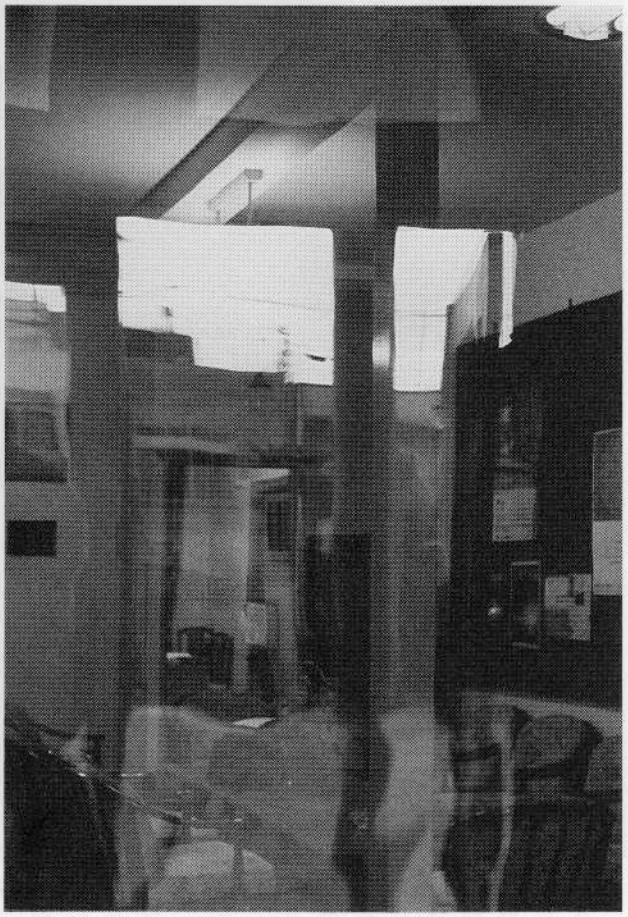
無色透明なガラスにも、ちゃんと主張というものがある。桐生倶楽部の会館ができた当時、外の風景はこんなふうに見えたという証言者たちが、正面の入り口や二階の窓などに残っている。

ガラス越しに見ていると、門から入ってくる人たちの姿が、ほんの一瞬消えてまた現れる。きれいなものや真っすぐなもの、寸分たがわぬ工業製品は望めばいくらでも手に入る時代だからこそ、こういう手づくりのぬくもりが残るものは大切にしたい。

会館にはまた、味わい深い模様ガラスも健在。知られざる見どころの一つだ。



窓越しに見る吾妻山の稜線も電線も独特にゆがむ。下のガラスとの差は歴然としている。



正面の入り口のガラス戸の前に立つと、内側の風景のゆがみと、ガラスに映った外の風景の波模様とが微妙にからんで、不思議な雰囲気をかもし出す。

月次会報告（9月）

戸隠神社と善光寺界隈

歩く会

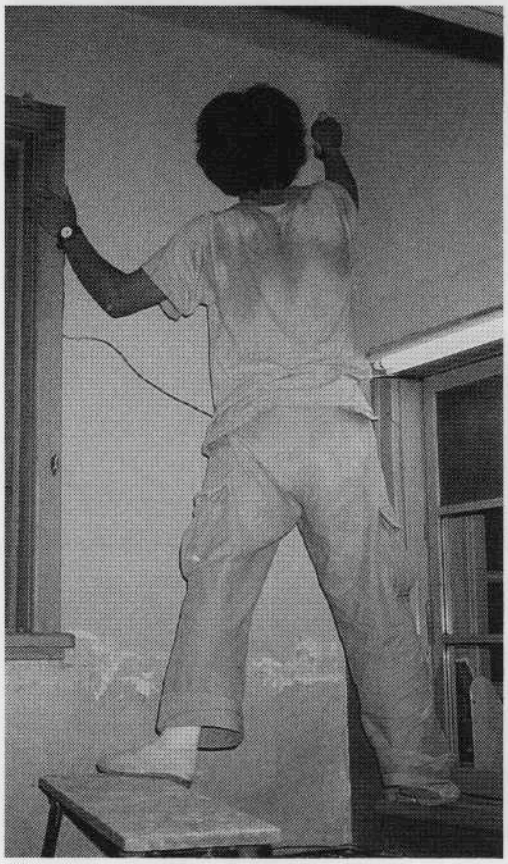
歴史の重み感じた一日

戸隠山は手力雄命が天の岩戸を開いてその戸を空に投げると、それが落ちて山となったという、古い伝説を持っている▼戸隠奥社は手力雄命、中社は思兼命、日の御子社は天鈿女命を祀る。それらは岩戸開きの伝説に参列した神々である。平安時代の最盛期には高野、比叡にも劣らなかったという▼桐生倶楽部の九月の月次会は歩く会が担当する。参加者は小池副理事長はじめ三十八名であった。倶楽部より野尻湖を経て戸隠奥社の大鳥居前に予定より三十分早く午前十時少しすぎに着いた。樹齢四百年～五百年の杉並木のひんやりする参道を進み奥社を参拝する。四百年前は慶長五年、関ヶ原の合戦が起きた年であり、つくづく歴史の重みを感じさせられる▼昼食は中社の門前町にて有名な戸隠そばを賞味する。帰路は戸隠バードラインを通り長野の善光寺に着く。善幸寺界隈は信濃美術館、東山魁夷美術館、中央通りをはさんで色々な博物館が点在する。二時間の自由時間ではとても見学できないが、社員の皆さんは各自目的をもって楽しんだことと思う▼善光寺には、気付かれた方もいると思うが本堂（国宝）の古い建物ととけあったスロープがつけられている。二年前の長野冬期オリンピックとパラリンピックが開かれ、その際、文化庁の規制の壁をのりこえて、日本で初めてのことという。善光寺がバリアフリー・テンプルをめざした努力の結果だという▼午後八時前、楽しい思い出をつくり無事桐生倶楽部に着いた。

（宮地秀吉記）

事務室が化粧直し

この八月、壁の塗装のはがれなどが目立っていた会館内の事務室や二階壁面の化粧直しが行われました。ふだん、きっちりと納まっているのであまり感じなかったのですが、作業のために運び出した荷物を見るとさすがに八十余年の歴史、1号室への通路の半分が埋ってしまいました。暑いさなか、関係者はほんとうにごくろうさまでした。



職人うならす技術

柱の「みかげ洗い出し」

塗り直しの職人さんたちが、「いい仕事を見せてもらいました」と感心していたのが、正面玄関の柱の仕上げ。「みかげ洗い出し」という、最近ではあまり見られない左官の技術だそうです。

当時としてはひじょうに珍しい洋風の会館建設の仕事に携わって、職人さんたちが腕によりをかけた様子がしのばれます。詳細に調べれば、その道の人が目を見張るような技術が、この建物にはまだまだ眠っているのではないでしょうか。

桐生倶楽部はぐるま句会

七月

駄菓子屋の犬の寝そべる片かげり　久保田
陽の色を焼きつけ梅の土用干　尾澤
献血車欅大樹の片陰に　本田
波形に氷の一字小商い　小池
何蝶になるか毛虫よ朝の雲　大槻
夕立に解かれぬままの幾何一題　山田
激流にかかる吊橋雲の峯　下山
雲の峰いつかどこかで見たような　吉成
積乱雲越戦友(とも)の機点となり　有阪

八月

闇深し線香花火の玉落ちて　吉成
闇空に待つ間の長き村花火　清水
手花火の輪の真中を父帰宅　山田
どよめきを空に上げたる大花火　大槻
七夕や軒並み機屋なりし道　尾澤
揚花火待つ間に増へし星の数　本田
手花火の匂ひの残る露地を過ぐ　小池
赤錆びた廃線の駅白木槿　下山
遠花火おののく犬の巨体かな　有阪
木槿咲く口だけ老いぬ友のあり　久保田

＝ 倶楽部だより ＝

【8月】
- 理事会（9日）
- 歩く会世話人会（21日）
- 美術部会（25日）
- はぐるま句会（29日）

【9月】
- 歩く会・月次会「戸隠」（10日）
- 理事会（14日）
- はぐるま句会（28日）

【退社社員】

- 川堀良治

社団法人　桐生倶楽部会報　第119号
２０００年（平成12年）　10月発行
発 行 人　塚 越 平 人
編集責任者　木 村 隆 夫
印　　刷　ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人　桐生倶楽部　TEL 45-2755

食は文化の原点だ

フランス産赤ワインの新酒「ボショレ・ヌーボー」の解禁にあわせ、ことしも十一月十六日、「ワインの集い」が桐生倶楽部で開かれた。秋の夜のひとときを、ワインとパンとおしゃべりの組み合わせでゆるやかに過ごす。月次会では三回目、すでに恒例となった催しだ。

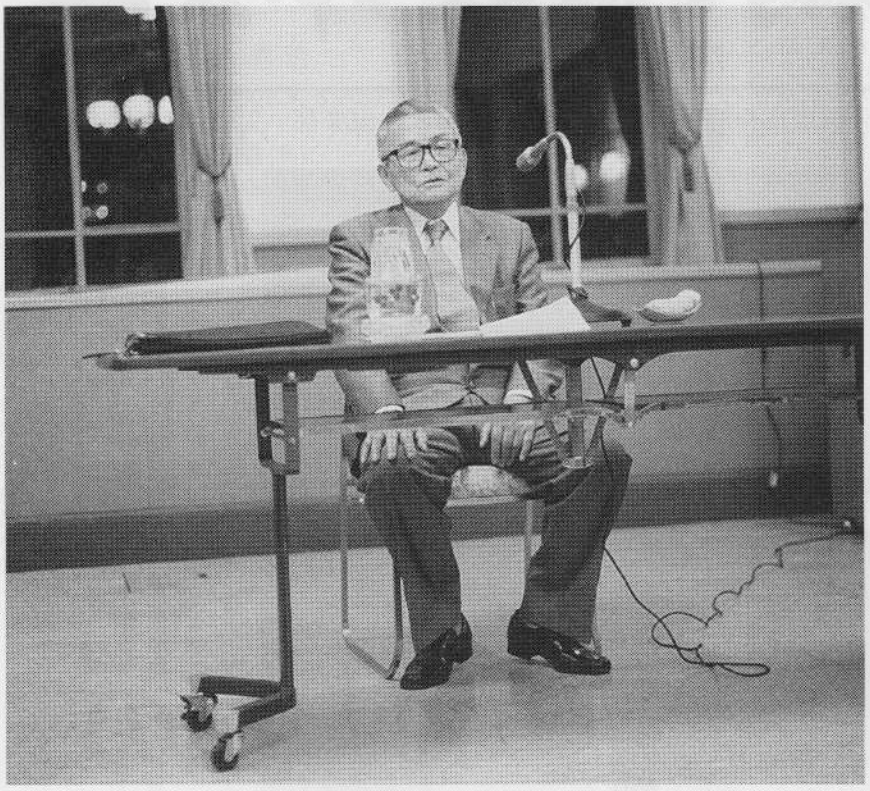
この日のために、さまざま用意されたワイン、種類に応じてあわせの妙を楽しむ手づくりパン、そしてチーズ。そこに仕込まれた

11月の月次会 恒例のワイン

数々のこだわりがさらなる隠し味となって、会話のはずみ、各テーブルには笑顔がはじけた。

月次会は、毎回違った切り口で市民文化の向上に貢献する機会となっているが、一杯のワインとパンをたしなんで、またたく間になごやかな空間を形づくり、自由に話題を展開していく様子をみるにつけ、何でも意欲的に吸収してきた桐生人の文化の原点は、やはり食にあると感じる瞬間である。

歴史の奥深さを守る意義



月次会報告（10月）

彦部敏郎さん講演

重要民家に暮らして生かす

10月の月次会は、改修を終えた重要文化財「彦部家」の16代当主、彦部敏郎さんを講師に迎えて、歴史ある建物を守り続けている熱い気概にふれた。

彦部家住宅は、広沢の手臼山麓を利用した中世豪族の屋敷構えが、いまでもとても良好に保存されていることで、桐生はもちろんのこと、重文民家の愛好者にはよく知られた存在だ。土塁や濠のめぐらされた郭内中央に主家、南面中央に長屋門が配され、その東わきに冬住みの隠居屋、さらに主家の北側にある文倉庫と穀倉、この五棟が現在指定を受けている。

家系によれば彦部家は、７世紀後半の天武天皇の皇子を祖とする旧家で、鎌倉時代に陸奥国菊田郡彦部郷（現在の岩手県）の領主となったことから彦部を名乗るようになり、室町時代には京都で活躍した。その後に、関東の動静を幕府へ注進するために桐生へとどまり、現在の屋敷は由良成繁時代に構えたと伝えられているという。

平成７年から始まった主家の改修は十年に竣工し、昨年は長屋門、隠居屋、そしてことし秋に倉の修理も無事終えた。

その解体の様子を毎日欠かさず見てきたことで、歴史の奥深さと守ることの意義を改めて認識する機会にもなったという彦部さん。「かたちで残すだけではなく、そこに暮らしがあって初めて生きてくるのが民家。できるかぎり、そういう文化財を見てもらいたい」と考える。月平均で三百人から五百人の見学者が訪れるという人気ぶりにこたえていこうと、「これからもさまざまな地域の重文民家と情報を交流しながら、地域の発展の一助となれるようつとめたい」と意欲的だ。

また「重文にふさわしい使い方のアイディアがあったら、ぜひアドバイスしてほしい」とも話していた。

オノサト作品に感動と喜び

近代美術館で鑑賞会

桐生倶楽部美術部は10月19日に美術鑑賞会として、この秋話題になっている群馬県立近代美術館が開催中の「オノサト・トシノブ展」へ出かけました。

参加者は渡邉保さん夫妻と保倉一郎夫妻で、他に当日高崎で写真展を開く準備のために一足先に出発していた藤井龍人さんが会場で合流しました。朝9時に倶楽部を出発して、一時間ほどで群馬の森に到着した。出迎えてくれた学芸員の藤川哲氏に案内されて会場に入り特別企画として展示された作品を順に鑑賞しました。

かつてオノサト・トシノブの制作に親しくかかわっていた私の思い出はどの作品も懐かしく、今では私しか知らない制作の過程を学芸員に詳しく話しながら、専門の人たちに記録していただけることを願いながら当時の思い出を話題に観て回りました。

作品の多くは修復され書いた時の美しさを良く伝えています、展示の企画と作品の取り集めも見事な編成で数年前の練馬美術館で開催された「オノサト・トシノブ展」の定評を上回る内容で解説や参考資料の充実した展覧会でした。

絵画制作のほとんどを桐生市に住みながらなし遂げたオノサト・トシノブの生涯はこの街に計り知れない文化的遺産と縁を残してくれました。

参加者五名は大変な感動と喜びをうけながら楽しく過ごしてきました。

昼食をしながらここまで来たついでに、隣にある歴史博物館もみることにして、特別展示の「江戸小紋の藍田正雄・人と作品」の伝統技術を見学してきました。思えば美術部の単独の鑑賞会は十数年振りのことで、これからはときおり楽しい計画をたてて皆さんと出かけましょう。

（桐生倶楽部美術部　保倉一郎）

歩く会が尾瀬、根本へ

10月の尾瀬ヶ原で

歩く会の10月は尾瀬、11月は根本山をめざしました。

尾瀬は8日、山の鼻から湿性植物園、残った時間を木道の散策で楽しみました。また、11月12日の根本山はまず、林道をつめて熊鷹山に登り、そこから十二山、根本とまわって尾根筋を下山しました。毎回、なるべく大勢の人に参加してもらいたいと願っていますが、この2回とも参加者は数人、それがちょっと残念でした。またお目当ての紅葉のさえもいまひとつで、こちらのほうは年により、事情はずいぶん違うようです。

桐生倶楽部はぐるま句会

九月

言ひ訳を閉じて開きて秋扇　本田
黒葡萄一粒づつの喉ぼとけ　尾澤
秋扇のすぐたたまれてしまひけり　山田
初葡萄卒(そつ)寿の父に送りけり　大槻
秋澄むや信濃戸隠そばの里　小池
友来る何は無くとも月見酒　清水
両の手に受けし葡萄の新種かな　遠藤
町医者の待合室や秋扇　吉成
信楽の大皿葡萄生き生きと　下山
月の出を待ちつつ友と酌み交わす　有阪
顔見せず胡弓に合はせ月の道　久保田

十月

鳥渡る空に軌跡のあるごとく　本田
暮六つの薬師の鐘の入(し)む身かな　遠藤
名を知るも知らぬもなべて末枯るる　小池
鳥渡るくの字への字の茜空　久保田
鳥渡る赤城は長き裾野かな　尾澤
鳥渡る故郷(くに)に帰れぬ異邦人　大槻
今立ちし砂地の跡や渡り鳥　吉成
末枯や少しぬかるむ峠道　下山
一筋の道迷いなく渡鳥　清水
川風の身に沁み入るや竿仕舞　有阪

【訂正】前号七月の句に誤りがありましたので左記のように訂正します
積乱雲越へて戦友(とも)の機点となり

ようこそ倶楽部へ

新入社員紹介

[redacted]

四社員に栄誉

秋の叙勲で、近藤英一郎さんが勲二等旭日重光章を受章しました。長年にわたる中小企業振興功労と議案審議功労です。また、疋田博之さんが国民健康保険事業への功績によって厚生大臣表彰、糸井京三郎さんが納税制度の普及に務めて大蔵大臣表彰を受賞したほか、森喜美男さんがキノコ産業発展への多大な貢献が認められ、平成十二年度群馬県功労受賞者になりました。おめでとうございます。

囲碁優勝は田中さん

秋季囲碁大会が11月11日開催され、８人が熱戦を展開。優勝は５勝１敗で田中善弘さん、準優勝は同じく５勝１敗で金子進さん、３位には４勝２敗の野田友治郎さんが入った。優勝、準優勝者には伝統あるトロフィーが贈られた。

＝ 倶楽部だより ＝

【10月】
- 歩く会例会（８日）
- 理事会（10日）
- 月次会（16日）
- 美術部会（19日）
- 歩く会世話人会（23日）
- はぐるま句会（26日）

【11月】
- 行事委員会（９日）
- 理事会（10日）
- 秋季囲碁大会（11日）
- 歩く会例会（12日）
- 月次会（16日）
- 歩く会世話人会（20日）
- はぐるま句会（21日）

社団法人　桐生倶楽部会報　第120号
２０００年（平成12年）　12月発行
発 行 人　塚 越 平 人
編集責任者　木 村 隆 夫
印　　刷　ツボノ印刷株式会社